

## 平成27年度 本部事業報告書

### 概要

#### 法人及び各寮の中期計画策定に基づいた事業及び法改正に求められる対応の在り方

法人として永年の懸案であった、社会福祉法人に求められている中長期的な視野に立って計画的な経営を行うために、本年度より法人及び各寮で新たに中期計画を策定しました。それに基づき各施設において、諸事業が計画に沿った運営を心がけ実施いたしました。

27年3月に国より示されました給付費等の新改定に合わせた事業の運営、またマイナンバー法への対応として、「職員・利用者特定個人情報等の適正な取扱いに関する関連規程」等を新たに制定しました。

28年3月31日に「社会福祉法人の一部を改正する法律」が国会で閣議決定可決されましたが、その改正内容は、社会福祉法人(経営)としての姿勢そのものが問われる責務の考え方となっております。

法人経営組織の根幹となる内部統治(ガバナンス)と内部統制体制の構築として、理事・評議員・監事の基本的な考え方としての「役員等の権限、責務、責任の明確化」及び「評議員会の在り方」、「会計監査人等外部専門機関の活用」などが求められており、当法人として定款変更を始めとした、組織等のあり方について法施行後を見据えて対応を図っていくことにしました。

また、28年度から障害者総合支援法施行3年後の見直しも行われる予定ですので、その動向についても精査しつつ、翌年度において法人としての対応について準備を進めていくことにしました。

### 1. 経営及び施設事業(運営)について

#### (1) 施設運営の概要

##### 1) 定款の改正事項

- 定款第12条(資産の区分)の「基本財産の土地」改正  
駒ヶ根悠生寮基本財産の土地について、登記簿面積と定款記載数字に誤差ミス、上田悠生寮グループホーム土地購入による地積増、はらむら悠生寮第2作業棟用地に掛かる里道(赤線)部分の土地購入による地積増等

##### 2) 規程等の制定・改正及び追加事項

- 新会計基準移行に伴う事務処理規程の「第3条常務理事の専決事項」を追加
- 経理規程の勘定科目追加変更  
法人経理規程上の県退職共済処理科目として追加及び所属変更
- 職員・利用者特定個人情報等の適正な取扱いに関する関連規程等の制定  
マイナンバー法等に基づく関連規程の制定
- 就業規則・雇用等及び短時間労働職員就業規則等の一部改正  
マイナンバー法等に基づく提出義務及び手続きや、年次有給休暇の時間単位の付与制度の改正等による
- 平成27年度人事院勧告により、法人給与規程の改正

### 2. 基本財産・施設設備整備

#### 施設等整備について

##### (1) はらむら悠生寮第二作業棟建設工事

はらむら悠生寮第二作業棟新築工事を次のとおり実施いたしました。

(税込8%金額)

施設名	事業名	契約金額	補助金等	工期	備考
はらむら 悠生寮	はらむら悠生寮第二作業棟 新築工事	71,280,000	0	6月1日～ 11月24日	自己財源 一般競争入札 (5社)
	はらむら第二作業棟新築工 事(設計・監理費)	(3,132,000)			

(2) はらむら悠生寮本体作業室エアコン設置工事

近年の温暖化により猛暑日も多く見られ、特に本体作業室は西日が直射するため、利用者も高齢化しており、健康面の配慮がより必要になったためエアコンを設置しました。

(税込 8%金額)

施設名	事業名	契約金額	補助金等	工期	備考
はらむら 悠生寮	作業室エアコン設置工事	2,484,000	0	7月30日～ 7月31日	自己財源 郵送による指名 競争入札(5社)

(3) 駒ヶ根悠生寮給水管敷設替工事

埋設されている給水管の痛みが酷く、漏水事故が頻繁に起こるようになっている現状から中期計画の施設整備策定に則り、27年度事業として敷設替工事を実施しました。

(税込 8%金額)

施設名	事業名	契約金額	補助金等	工期	備考
駒ヶ根 悠生寮	駒ヶ根悠生寮給水管敷設替 工事	4,860,000	0	8月4日～ 9月30日	自己財源 郵送による指名 競争入札(3社)

(4) 上田悠生寮自立訓練棟「こもれびの家」改修工事

平成2年8月に県の補助金を頂き、自立訓練棟として建設された「こもれびの家」は、25年を経過し、今後生活介護など様々な利用者態様に応じるため、2部屋増設とバリアフリー化等の改修工事を施工いたしました。

(税込 8%金額)

施設名	事業名	契約金額	補助金等	工期	備考
上田 悠生寮	上田悠生寮自立訓練棟 「こもれびの家」改修工事	3,888,000	0	8月3日～ 9月30日	自己財源 郵送による指名 競争入札(3社)

(5) 上田悠生寮グループホーム建設予定地の土地取得

上田悠生寮新平屋建てグループホームのための建設予定地の売買契約後土地取得しました。

(税込 8%金額)

施設名	事業名	契約金額	補助金等	支払日	備考
上田 悠生寮	上田悠生寮グループホーム 建設予定地の土地取得	35,820,000	0	平成28年2 月19日	自己財源

### 3. 職員の研修等

- (1) 平成27年度も法人福祉マニュアル「教育・訓練規定」に則り、法人主催研修カリキュラムについて、当初予定した新採用職員事前・集合研修及び全ての現任研修を実施する事が出来ました。また、県知障協主催の各部会を通しての研修及び「ミドルマネージャー等中堅研修」「新任職員研修」等の研修会や、県社協主催福祉職員生涯研修等、各寮の研修計画に沿って継続的に派遣し、管理職・中間管理職・新人職員研修としての役割や資質向上に一定の成果を上げております。

(2) 法人研修担当者会議を年2回開催し、現任研修の継続と実施に向けて計画・立案等を行い、介護技術研修など専門的知識習得に向けた取り組みも実施致しました。

また、各施設単位の課題として、利用者ニーズに応じた「人権権利擁護、精神障害、感染症対策、介護・介助技術、入浴・排泄研究関係、認知症関係」等の具体的支援については、各施設単位で研修する場を設け総合的な能力向上を図る事ができました。

改正労働安全衛生法により、平成27年12月から、ストレスチェックが義務化となりました。心身の健康保持増進対策として、常時労働者が50人以上の事業所は1年以内に1回定期実施(受診従業者は任意、受診義務はなし。)することになっております。法人内では、穂高・喬木悠生寮がこの対象となりますので、当該の実施機関による実施を進めていく予定にしております。

(3) 法人主催の研修を次のとおり開催しました。

1) 新規採用職員研修 (16名受講 新任;14名)	4月01日～02日
2) 現任研修 「危険予知訓練」(11名)	9月16日
3) 新規採用職員集合研修 (16名受講 新任;14名)	10月02日
4) 現任研修 「主任・副主任研修」(10名)	11月06日
5) 現任研修 「介護技術研修」(27名受講)	12月02日

(4) 喀痰吸引等基本研修(特定の者受講対象者:第三号研修)について

平成27年度の法人喀痰吸引の基本研修、現場演習(2回)、実地研修(各当該施設で指導看護師から研修)を実施いたしました。

★第1回研修実績 (はらむら悠生寮)

5月1日～20日 演習・実地(基本研修実施済)

受講者14名 (はらむら14名)

★第2回研修実績 (はらむら悠生寮)

9月11日 基本研修 09月17～29日 10月6日演習・実地

受講者7名 (駒ヶ根4名、はらむら3名)

★第3回研修実績 (駒ヶ根悠生寮)

2月03日～19日 演習・実地(基本研修実施済)

受講者12名 (駒ヶ根12名)

#### 4. 諸会議の開催

- ・理事会6回 (5月27日、7月29日、9月25日、11月25日、1月22日、3月25日)
- ・評議員会3回 (5月27日、11月29日、3月25日)
- ・決算監査; 5月12日&13日…(法人本部会議場於 2日)
- ・監事による監査等中間監査; 11月26日(穂高) 12月04日(喬木)  
12月09日(はらむら) 12月10日(上田)  
12月11日(須坂) 12月16日(駒ヶ根・本部)  
(各施設訪問実地監査を実施;延べ6日間)
- ・27年度県指導監査(社会福祉法人)  
◇法人本部 8月28日
- ・27年度県指導監査(介護サービス包括型共同生活援助)  
◇上田悠生寮グループホーム 10月29日

## 5. 役員・職員の人事

### 〔役員関係〕

理事、評議員、監事について、平成28年3月31日で任期満了となるため、新理事、新評議員、新監事をそれぞれの対象施設等より推薦していただき、平成27年度第6回理事会で、次期役員を選任について提案し同意を頂きました。

平成27年度第3回評議員会において、新理事・新監事を選任し、同意を頂きましたので委嘱をお願いいたしました。

◇ 任期は、平成28年4月1日より平成30年3月31日まで

◇ 理事定数10名    ◇ 監事定数2名    ◇ 評議員定数23名

### 〔職員関係〕（準職員・正規職員のみ）

#### 《退職関係》

◇平成27年度末定年管理職3名（内再雇用1名）、任期付管理職1名

◇生活支援員5名（内定年1名：再雇用）

◇看護師1名、栄養士1名

#### 《採用関係》

☆平成28年4月1日；新規採用者12名（支援員12名）

☆平成27年度中途採用者4名（看護師3名、栄養士1名）

### 平成28年度4月1日現在 各寮の職員配置状況

（※1 通所含パート：本体・通所関係パート常勤換算後の数字、（）内は実在籍者数）

（※2 本年度合計欄：本体、通所含、パートは常勤換算した合計数字。下段の（）内は前年比）

	正職 (一般・ 総合)	技能 準職	雇員	臨時	再雇用	※1 通所含 パート	※2 本年度合計 (前年比)	G H		実人 員数	備 考	
								雇員 再雇用	パート			
駒ヶ根	18	1	1	1	3	1.35 (3)	25.35 (+1.45)	0	5 (-2)	32		
穂 高	31	1	1	0	1	6.36 (10)	40.36 (-0.85)	0	8 (+1)	52	通所部 有	
上 田	26	3	5	0	0	1.84 (4)	35.84 (+1.19)	2	7 (+2)	47	通所部 有	
喬 木	25	3 2	2	0	0	5.49 (11)	37.49 (+0.29)	1 1	8 (-1)	53	通所部有；送迎5人 GH；雇員1再雇用1	
はらむら	29	2	1	0	1	3.3 (9)	36.3 (+3.95)	0	5 (±0)	47	通所部；有送迎1人 H27年度第2作業棟	
須 坂	22	1	*2	0	0	3.67 (8)	28.67 (+3.81)	0	6 (±0)	39	*障害者雇用1名	
計	平成 28	151	13	12	1	5	22.01 (45)	204.01	4	39	270	実在籍職員数（パ ート含）；270人 (+13)
平成27 年度実績		147	10	8	1	4	24.17 (45)	194.17	4	38	257	実在籍職員数（パ ート含）；257人
H27年度 比 較		+4	+3	+4	±0	+1	(-2.16) (±0)	+9.84	±0	+1	+13	+13人

## 6. 家族会との連携

第13回（平成27年度）定期社員総会を7月10日～11日に開催（上田悠生寮幹事）

- 1) 平成26年度事業報告・会計決算報告及び平成27年度事業計画・会計予算等について、例年通り承認されました。
- 2) 役員交流研修会において、各寮の平成27年度事業計画・会計予算並びに法人運営状況（平成26年度決算概要）について報告。本年度からスタートした法人及び各寮の中期計画に沿って、具体的な事業推進を基本にした活動を展開していくことを説明させていただきました。また、27年度からの障害福祉サービス等報酬改定により、全体的な減収となっていること、今後も厳しい事業運営が予想されることから、各家族会としても施設と一体となって運営や諸事業へのご理解、ご協力をお願いしました。
- 3) 一般社団法人（法人格）の今後の在り方について、今までの経過等も鑑み、法人格の存続か解散か…については、各寮家族会での検討結果等を踏まえて、結論をもう少し先延ばしすることになりました。

成年後見制度業務受託のあり方等についても、更に情報交換と継続的な話し合いを行うこととしております。成年後見制度の情報報告として、はらむら悠生寮の事例から「後見制度支援信託」制度についての内容説明もさせていただきました。

## 7. 後援会

平成27年6月17日に定期代議員会を開催

- 1) 平成26年度事業報告・会計決算報告及び平成27年度事業計画・会計予算案等について例年通り承認されました。平成27年度における主な施設整備事業の、はらむら悠生寮第二作業棟新築工事及び上田悠生寮のグループホーム用土地買収等について、経緯と進捗状況についての報告をさせていただきました。
- 2) 本年度より法人及び各寮の中期計画に沿った経営及び施設事業を実施していくことになりました。各寮の事業運営は、中期計画に則り、現状と課題を踏まえながら具体的な数値目標を含めた、事業の種類、利用者、職員体制、設備や経営等について、計画を実施しつつ、今後の経営の見通しを立てていくこととなります。また、法人全体としても総合的な経営目標を定めると共に、幾つかの個別課題を設定、その中で後援会としてもここ数年の間に方向付けをしてゆきたい事案を提示し検討を進めていただきたい旨お願いいたしました。
- 3) 後援会員の推移は、徐々に低下傾向がみられますが、今後も西駒郷との連携の強化、各地域での会員情報交換も行えるよう継続的に配慮していきます。また、引続き、施設入所者・生活介護利用者の確保を優先し、利用者（家族会）にも継続して会員加入の協力を努めました。
- 4) 引続き、悠生寮利用者以外の悠生寮所在地ブロック単位での地域支部毎に、情報交換等が行えるよう配慮いたしました。今後も法人に対する意向把握について、継続的に努めて参ります。
- 5) りんどう信濃会后援会員並びに関係者には、「後援会だより」の送付等により情報提供を図り、関係の維持に努めて参りました。

# 平成 27 年度 駒ヶ根悠生寮 事業報告

## 概要

- (1) 駒ヶ根悠生寮中期計画に沿って事業を実施。施設入所支援及び生活介護事業、短期入所事業等の充実を図りました。定員数の維持が経営安定化の必須条件ではありますが、利用者の長期入院や死去、移寮による退所が続いた中で、新規利用者の開拓や確保に尽力しました。
- (2) 開設以来 37 年が経過。利用者の最高齢は 87 歳、最小齢は 40 歳、平均年齢 68.0 歳。利用者の動向は、退所は 7 名（病死 4 名。病院・介護施設へ移った方 3 名）入所は 5 名（在宅 1 名、精神科病院 2 名。GH2 名）でした。
- (3) 利用者の突発的な入院やターミナル事例が発生する中で、急な退職により約 1 ヶ月間の看護師不在期間が生じましたが、苦慮しつつ現行の職員配置の中で対応しました。その後看護師 2 名体制を確保できたため、健康管理や年度後半の感染症などの対策に力を入れ、成果を発揮することができました。
- (4) 社会福祉法人の社会貢献が叫ばれる中でありますが、駒ヶ根悠生寮では引続き老人クラブとの交流会や、納涼祭・りんどう祭など寮の行事への招待、隣組の一員として地域の行事や活動への参加といった地道な実践ではありますが、地域との良好な関係を保てるよう配慮してきました。
- (5) 地域福祉のニーズに応えるため、短期入所やタイムケア事業等積極的な受け入れに努めましたが、長期利用者が減少したため昨年度に比べて、収入減となってしまいました。しかし、新規の利用者が増えたことや居室の一部改装を行ったことが、今後の利用者増加に繋がることを期待しています。
- (6) 中期計画に沿った施設整備で一番大きな事業として、寮周囲の「給水管敷設替工事」を実施しました。これにより漏水の大幅な抑制に繋がりました。
- (7) 近隣企業による隣地買収の話がきっかけとなり、土地の一部を寮で利用（貸借か購入）できないかという話があり、急遽 職員と家族会・法人役員の代表者による PT 会議が立ち上げられ検討された結果、当面は駐車場として借用させてもらうことになりました。

## 1. 支援サービス

### ① 利用者への支援サービス

- ・ 利用者の人権尊重が全ての基本であり、当法人福祉サービスマニュアルの職員行動規範の遵守に努め、より質の高いサービスの提供を目指しました。

- ・8月、全職員対象に「不適切な支援(行為)のアンケート」を実施しました。また、アンケート結果に対する感想も全職員に提出してもらい、利用者が安心・安全・快適に生活できるよう、共通認識の基盤を再確認しました。アンケート結果は、虐待防止委員会(家族会正副会長・苦情解決第三者委員参加)で報告しました。
- ・2月、「福祉サービス第三者評価基準(共通基準〔障害者・児施設版])」に基づく自己点検(361項目)を内部監査委員4名で実施しました。3名以上が「できている」と答えた項目は211で、2名以上が「できていない」又は「知らない・分からない」と答えた項目は147で、次年度の改善すべき課題が明確になりました。

#### 【個別支援計画】

隔月開催の支援サービス会議にて意見交換等モニタリングをし、6ヵ月毎に評価と次期個別支援計画作成と、PDCAサイクルに従って遂行しています。

支援目標については長期継続の傾向があり、利用者ニーズを抽出する力や着眼点、聴き取る力などのスキルアップが課題となっています。

加療を余儀なくされ8日間以上の入院者10名に対しても、都度、個別支援計画を作成し、入院中のできる限りの支援に努めました。

#### ②日中活動(作業・生産活動)

- ・(株)成山商店の紙などのリサイクルの作業に、34名の利用者(含SS)が参加しています。また、(株)丸忠リサイクルのトナー管の分別作業に利用者2名が専属で参加しています。
- ・ハウスキーピングとして3名の利用者がタオルたたみや洗濯物干しを行っています。農場は、畝立てや草取り、ジャガイモや葱などの定植、野菜や大根の播種、散水を行っている利用者1名の他に、個人で畑をやりたいという利用者が2名おり、寮の畑を割り当てています。収穫した野菜は主に『魚国総本社』(給食委託業者)に出荷し、寮の食材となっています。その他に、創作的・文化的な活動として音楽班や造形(季節の行事の飾り作りなど)の活動、また個人活動として散歩やドライブ、塗り絵などを提供しています。

#### ③余暇活動

- ・利用者の重度・高齢化に伴い、今までのような自主的な余暇活動は、年々少なくなっているのが現状であります。個々でテレビ鑑賞や、音楽を聴いたり歌ったりして楽しんでいる方が多くなっています。中には、花布巾や編み物、写真撮影を楽しんでいる方も数名います。
- ・開寮当時から継続されている土曜教室は、現在は同好会活動として位置づけ、講師を依頼し実施しています。毎週土曜日の午前中に、書道・手芸・造形の3教室を開催しています。年々参加希望者が減っている傾向ですが、毎回教室へ参加している利用者は、作品作りを楽しみにしています。今年度は市文化会館にて利用者の作品展を開催し、多くの市民の方々に作品を見ていただくことができました。

#### ④利用者自治会

- ・自治会は利用者自身の暮らしや生活向上のための意見交換・情報提供の場として、施設運営にも関わる大切な機関として位置付けています。総会は毎月最終水曜日に行っており、翌月の諸行事の検討、連絡事項の周知や情報提供を行い、その議事録は執行部の職員が職員会で発表し施設事業へ反映しています。
- ・健康維持の視点から継続的に看護師・栄養士による健康管理などの情報提供を行っています。

- ・「苦情解決」については、総会の都度に利用者から意見聴取を行っています。3月の総会時には、第三者委員に出席頂き「苦情解決学習会」を行い、その後に苦情・要望受付を個々に実施しました。
- ・「障害者虐待防止」については、法律の意味や虐待の種類等を記載した冊子を作成し、10月の総会時に「権利擁護の学習会」を実施しました。

## ⑤健康管理

- ・日々の健康・バイタルチェックを実施し、体調の把握を行っています。またPT（理学療法士）の招聘（月1回）、生活習慣病・歯科等の定期健診や、内科・精神科の往診を含めた各検診を行い、身体のみでなく精神的なケアや早期発見及び治療に努めました。
- ・利用者自治会や朝会などの機会を通じ、保健及び栄養に関するタイムリーな情報提供を行い、手洗いや嗽の励行、夏期においては水分補給などを呼びかけ、体調管理や感染症予防などへの啓蒙に努めました。
- ・感染症対策として、肝炎やインフルエンザ、ノロウイルス対策などのスタンダード・プリコーション（標準予防策）や対応マニュアル・手順書の整備を行うとともに、職員研修を実施し随時注意喚起を行い、対応の徹底を図りました。（3月後半に数人の罹患者がでてしまいましたが、それ以上の拡大は阻止できました。）

## 【食生活】

- ・日常の食事の研究により食生活の充実と生活の潤いを図るため下記の通り取り組みました。
- ・食生活委員会は、職員5名、委託業者（魚国総本社）3名、当番利用者5名で年12回実施し、利用者の食に関する要望や健康状態の把握と美味しい食事提供について検討しています。
- ・小イベントとして、季節の行事食や月1回のご当地メニューの日の他に、丼バイキング・果物バイキング・サラダバイキング・デザートバイキング等選べる食の提供にも力を入れ、利用者から好評を得ることができました。

### ・栄養・ケアマネジメント

年間を通して個々の利用者に対し嗜好調査を実施しました。委託業者とも連携して利用者の嗜好に合わせた食事の提供に配慮しています。BMI や月々の体重変化率等により、栄養状態のリスク判定を実施し、日々の摂食嚥下状態や身体状況の観察等により栄養士・看護師・STと相談の下、食事形態の見直しや食事環境の整備、補助食品の活用等を実施しました。

高齢化・重度化に伴い、嚥下に問題のある方が増加傾向で、軟菜刻み食やとろみの必要な方、ミキサー食の他、胃ろうによる経管栄養の方も出てきています。

### ・ST招聘

本年度も、ST(言語聴覚士)による口腔ケア指導を継続して実施しました。年5回の指導を実施し、個別の嚥下状態や食事時の姿勢、食事環境なども見ていただくとともに、口腔リハビリ・口腔ケア等の指導もいただき、大いに活用することができました。



## ⑥事故・ヒヤリハット報告

受付総数 183 件 (事故 115 件、ヒヤリ 68 件)

発生場所	件数	前年度比	分類	件数	前年度比	割合
食堂	26	-15	暴力	7	-6	3.8%
居室	40	9	転倒	64	-2	35.0%
浴室	7	-1	転落	19	3	10.4%
脱衣室	4	-2	ずり落ち	3	0	1.6%
トイレ	15	5	打撲	11	4	6.0%
ダイルーム	13	-11	火傷、熱傷	1	-7	0.5%
廊下	29	-10	切創	14	9	7.7%
作業棟	1	-5	誤嚥	7	1	3.8%
支援員室	6	-2	薬	19	-4	10.4%
医務室	2	2	物損	9	3	4.9%
玄関	1	-2	異食	3	1	1.6%
上記以外建物内	22	2	その他	26	-38	14.2%
建物外	2	-3	合計	183	-36	100.0%
G H	1	-4				
その他	6	-4				
不明	8	5				
合計	183	-36				

  

	件数	前年度比	割合
事故	115	21	62.80%
ヒヤリハット	68	-57	37.20%

- ・前年度比、事故は増加、ヒヤリハットは減少しました。しかしながら、前年度のヒヤリを再検証した結果、軽微な転倒事故がヒヤリで多数報告されていることが判明し、事故とヒヤリハットの区分基準を再確認しました。
- ・歩行不安定及び他者との接触による転倒頻度が高く、日常の状態把握と環境調整が課題となっています。また、精神科薬が歩行状態に影響している利用者も複数人おり、医師との連絡調整が必須となっています。
- ・薬関係は、事故が 14 件 ヒヤリが 5 件であり、事故のうち 10 件が落薬でした。希望で自身で内服していた利用者には、薬の重要性を伝え職員介助とさせて頂き、飲み込み確認の徹底をはかった結果、再発を防ぐことができました。
- ・事故・ヒヤリ件数及び考察は、年 2 回 機関紙にて開示しています。

## ⑦苦情・相談受付

苦情受付総数 44 件 (内 GH3 件)

項目	件数	主な内容
支援内容	12	・午前と午後の 2 回コーヒーが飲みたい。 ・お姉様より「こちらで散髪をお願いできないか」(SS 家族)
設備・環境	3	・居室の蛍光灯をみて欲しい。・部屋にテレビが欲しい。
職員	7	・家族構成・連絡先の調査依頼が送られてきたが、入所時に伝えたのに目的がわからない。・GH 世話人に出て行けと言われた。
他利用者	18	・男の人に「どけ！」と怖い顔をして言われた。 ・朝食時、隣の人が私のパンを食べてしまった。 ・いろいろ言うてうるさい人がある。 ・うるさいので食堂の席を替えてほしい。
その他	4	・去年は家に帰れなかったので 4 月には帰りたい。

- ・日常的な利用者からの希望・要望への対応の曖昧さや遅れから苦情となってしまうことが多くなっています。
- ・第三者委員招聘を2回実施。前期は利用者からの申出はなかったが、施設内の環境について指摘を頂きました。
- ・6月、利用者自治会において、職員行動規範(ルビ付)を配布し職員の接遇について説明をしました。
- ・毎月の自治会で直近1ヵ月の苦情・要望について解決方法等の確認を実施していますが、利用者の理解度に差異があり個別での説明が必須となっています。

申出者	件数
入所利用者	19
CH入居者	3
SS、TC利用者	9
通所利用者	0
入所家族	5
GH家族	0
SS、TC家族	3
通所家族	0
第三者委員、職員代弁	1
その他	4
合計	44

### ⑧身体拘束・抑制

- ・H28年2月から、1名の方が経管栄養(胃ろう)時のみ片手にミトンを使用しています。身体拘束に関連し、身元引受人へ説明し承諾を頂きました。身体拘束対策委員会の定期開催を実施しています。
- ・年2回のアンケートを実施、ブレインストーミング(出席者が自由に意見を述べ多彩なアイデアを得るための会議法)で研修にも取り入れた。「不適切なケア」の事例など、職員会や支援サービス会議を中心に議題として検討し、問題意識を共有することができました。

## 2. 共同生活事業部

グループホーム(はるか)では4名の利用者が生活していましたが、1名の方が精神状態悪化により入院となりました。その後病状が急変しお亡くなりになりました。暫く利用者3名で生活していましたが、年度末に1名の新しい仲間が入居し、現在は4名の利用者が生活されています。

グループホーム五十鈴の家では、一人の利用者さんが本人希望にて在宅に戻られました。長年のご本人の夢であった、アパートでの一人暮らし(サテライト型住居)を開始した利用者も、本人希望にてヘルパー支援をプラスし順調に生活をされています。しかし就労については、長年勤めていた企業との契約が打ち切られることとなり、現在福祉就労を検討中です。

昨年9月からは、精神科の退院復帰支援事業として、長期精神科に入院されていた利用者1名の入居がありました。症状は比較的安定しているものの、医療との連携が否めない状態であり、長年同メンバーでの落ち着いた生活が、新しいメンバーの入居により雰囲気に変化してきており人間関係の調整に苦慮しています。

## 3. 施設運営の状況

### ①全体的の内容

例年以上に退所される利用者の多い年でありました。死去だけでなく、介護施設や老健施設への移籍もあり、高齢者の介護保険制度への利用を勧める国の政策の方向性から、今後の寮運営に一層の厳しさを感じました。

近隣企業による隣地買収がきっかけとなって、今後の駒ヶ根悠生寮について急遽PT委員会を立ち上げて検討した結果、長期構想として、施設本体の移転はしないことが決定されました。今後はその方向で寮の長期計画を立てていくこととなります。

## ②防災対策

利用者は「災害弱者」であることを考慮し、緊急時の安全確保、避難・誘導等の防災訓練を実施することにより、職員も含めて防災意識の高揚と啓蒙を図ることを目的に各種の防災訓練を実施しました。

地震・土砂災害に対する訓練では、特に現場での状況判断が最も重要であるため、マニュアルに従いつつも、個々の判断で適切に動けるよう色々な場面を想定しつつ実施しました。また非常食の入替に併せて炊き出し訓練も行いました。

5/24	(日)	地域合同防災訓練	避難 誘導 通報 消防署員立会指導 消火器取扱い訓練(地域住民・調理業者)
9/9	(水)	抜き打ち避難訓練	避難 誘導 発電機・浄水器運転確認
11/23	(月)	地震・炊き出し訓練	避難 誘導 防災備品確認
2/4	(木)	水害想定防災訓練	集中豪雨・施設内浸水想定訓練 避難誘導

[今後の課題]

- ・年間を通し火災・地震・水害を想定した訓練を実施しました。その検証の結果、火災発生においては夜間における対応と共に、高齢化が進み日中も要介助者が増加している面が懸念されています。今後は職員が自らの役割を把握し動けるよう、より実践を想定した訓練を実施していかねばなりません。
- ・全国各地で震災の危険が高い昨今、その対策において独自の BCP(事業継続計画)を作成しました。今後、全職員が共通認識の上で活かせる計画となるよう改編を重ねていきます。
- ・豪雨災害訓練は、今年度も施設が浸水することを想定した訓練を実施しましたが、避難誘導のタイミング、最終の避難場所の設定など課題は多くなっています。

## 4. 施設整備

中期計画に沿った最大の工事として「給水管敷設替工事」を実施。これにより完全ではありませんが漏水の大幅な抑制に繋がりました。また、短期入所利用者の増加に対応できるよう居室の一部改修を実施しました。

毎年計画的に実施している居室の内装工事などの他にも、ガラス戸の修繕や雨樋補修工事、防災設備修繕等、突発的な事例にも対応しました。

項目	執行月	内容	金額(円)	業者名	備考
施設等整備	7月	居室入口戸換気口取付工事	173,491	花井木工(株)	
	7月	玄関ポーチ前雨水布設工事代	129,000	小沢建設(株)	
	10月	防災設備修繕(消火器、誘導灯、他)	80,136	蔵前防災(有)	
	12月	給水管敷設工事	4,860,000	小沢建設(株)	
	〃	作業棟コーヒ館間仕切(2室化)工事	603,000	小沢建設(株)	
	〃	作業棟南側SSルーム間仕切工事	299,000	小沢建設(株)	
	1月	新棟エレベーターバッテリー交換	129,988	(株)日立ビルシステム	
	2月	床暖房用温水ボイラー水漏れ修理	756,000	(有)共和技研	
	3月	東棟居室床暖房漏水修理工事	80,000	小沢建設(株)	
	〃	浴槽用循環ポンプ交換工事	145,800	(株)三京	
	〃	浴槽用液体塩素滅菌装置取替	62,640	(株)三京	
	〃	居室入口戸換気口取付工事	177,552	花井木工(株)	
車両 器具・備品	5月	厨房倉庫用冷凍冷蔵庫	197,208	ホンダキ北信越(株)	
	11月	G H五十鈴洗濯機	49,788	エディオン駒ヶ根	
	3月	寮用車ホンダフリード現物寄付	2,900,000	林信一様	

## 5. 人材育成・職員研修

	回数	延人員	具体的内容
ア) 職員全体研修	14回	165人	かい防災機器取扱い講習、感染予防 介護研修会（排泄・皮膚疾患・入浴・食べる機能関係） 救命講習会・AED使用方法について（2回） 各種研究会（感染症・身体拘束・認知症・発達障害） 認知症サポート研修
イ) 国・県等主催研修	8回	15人	相談支援従事者初任者研修 福祉職員生涯研修【リーダー課程】 福祉職員生涯研修【中堅職員課程】 サービス管理責任者研修（介護） 県知障協・県社協等の研修会その他
ウ) 法人関係	5回	10人	新採用職員研修、MM研修、危険予知訓練、介護技術研修
エ) SDS（自己啓発援助）	0	0	
オ) 他施設研修	0	0	
カ) その他研修、研究会	2回	2人	虐待防止・権利擁護研修、支援スタッフ部会研修
キ) 悠生寮間交流研修	2回	2人	穂高悠生寮、喬木悠生寮

各委員会や研究会から出された活動計画を中心に研修を計画しました。

職員会時に実施している全体研修会は、今年度も現場密着型の研修内容で職員の技術や専門性を高めることを目標に、各委員会・研究会と協力し計14回の全体研修を実施しました。

まだまだ専門性と発展的な内容に展開できていない傾向にあり、事前の企画段階から研修の方向付けや内容の解析について、協議する機会の定着化を図りたい。

今後も外部講師招聘を取り入れたり、研究会主導で職員自身が外部研修等の参加により自己啓発、自己研鑽していく事を推進・推奨していきたい。感染症対策や入浴、食事介助等の研修については、ルーチン業務を復習する良い機会になっています。

派遣研修については支援員の経験年数やキャリアに応じた研修は計画的に実施できました。しかし、研修復命は職員会等で十分な時間を設ける事ができませんでした。特に、新制度や知識の概要を知る機会が充分持てないため、意識的に内容を分析しながら繰り返し復命の機会を多く持つことが大切であると痛感しています。

## 6. 地域支援・交流

### (1) 地域支援

障害児者短期入所事業の利用実績は、利用者14名、延べ日数805日でした。

精神障害者退院復帰支援事業の一環として、精神科からの利用者の短期入所体験や地域共同生活を通じて、生活の練習場所としての役割を果たすことができました。

利用者の殆どが精神科からの利用で、いずれも当初緊急性の高い状況の中での利用開始でしたが、結果的に長期の利用となり、次の適なるサービスに繋げることができたのは当寮短期入所事業が有効に機能した結果であると考察します。いずれにしても、迅速かつ柔軟的な対応が今後の利用に結びつくことを実感した一年でした。

タイムケア事業は、利用者2名に利用いただき延べ日数24日でした。新規利用者はありませんでした。上伊那圏域地域自立支援協議会においては、当寮職員も協議会から要請を受け、役職者中心に各種の部会へも積極的に参加することができました。

相談支援事業は本体利用者中心のサービス等利用計画作成に取り組み、加えて地域からの作

成要望にも数件応えることができました。

27年度 障害児（者）短期入所事業実績

平成28年3月31日現在

氏名		月												計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
1	K. K	14	14	14	14	14	14	14	14	10	14	14		150
2	K. K	14	7	3		3	13							40
3	J. S		3	2	3		3			3				14
4	M. I				5			5				6		16
5	K. T		2	2										4
6	M. T			30	31	30	29	31	30	31				212
7	Y. S			9	3		3	3	3	7		6		34
8	H. M		2											2
9	N. H				12	6	4	8	8	6	7	8	4	63
10	T. Y				9	31	30	31	30	31				162
11	O. M				31	31	30	5						97
12	M. H											5		5
13	M. K												2	2
14	I. T		4											4
	計	28	32	60	108	115	126	97	85	88	21	39	6	805

27年度 タイムケア事業実績報告

平成28年3月31日現在

月	氏名		計
	K. K	I. S	
4	1		1
5	2		2
6		1	1
7	1	1	2
8	1	2	3
9	1	2	3
10		2	2
11	1	2	3
12	2	1	3
1	1	1	2
2	1		1
3	1		1
計	12	12	24

## (2) 地域交流

今年度も「地域との交流」を目標に掲げ、重点的に取り組みました。町四区北の原交流センターサロン参加や町四区地区社協や親和会（老人会）と一緒に交流会や季節行事活動を行い、地域のお年寄と交流することができました。

地区社協の皆様には、月3回日曜日に洗濯物たたまの仕事を中心に洗濯ボランティアで引き続きお世話になっています。洗濯が自分でできない方が多くなってきているため大変助かっていますが、ボランティアの方達もご高齢なことから、後継者の育成が課題となってきています。その他、駒ヶ根青年海外協力隊等の各種団体をはじめ、利用者の食事介助や話し相手になっていただくボランティアの方等、それぞれの活動を通じて協力していただくことができました。演歌体操の方々には毎月1回来寮いただき、日中活動のメニューとして定着し利用者の楽しみとなっています。

## 7. 家族会との交流

家族会行事、寮行事への参加を通して、寮運営に協力していただいています。

・入所利用者 身元引受人の状況

平成28年3月31日現在

	父	母	兄弟	姉妹	義兄弟	義姉妹	従兄弟	叔父伯母	甥	甥嫁	姪	夫	子	計
男性	0	0	10	5	2	2	0	1	2	1	1		1	25
女性	2	1	9	5	0	0	1	0	3			1		22
計	2	1	10	5	1	1	1	1	5	2	5			47

### 《主な事業実績》

実施内容	日	参加者	実施内容	日	参加者
正副会長会	5/8、9/10、 2/12	各4名	第37回りんどう祭	11/29	11名
春の環境整備	5/10	18名	漬菜作業	11/29	11名
納涼祭	7/26	25名	定期総会 職員との懇親会	2/21	13名 11名
秋の環境整備	9/27	13名	手作りご馳走会	3/7	17名
秋期総会		14名			

## 8. 利用者の状況

### (1) 利用者の動向

【退寮】11月に男性1名、12月に女性1名、28年1月に女性1名が一般病院入院中に退寮し、その後介護保険施設に移りました。28年1月に男性1名、2月に男性3名が病死により退寮しました。

- ・M (68歳) (男性) 11/30 (入院中、後 介護保険施設)
- N・M (82歳) (女性) 12/14 (入院中、後 介護保険施設)
- T・R (68歳) (男性) 1/13 (悪性症候群)
- K・M (65歳) (女性) 1/31 (入院中、後 介護保険施設)
- K・M (74歳) (男性) 2/5 (胃がん)
- N・T (82歳) (男性) 2/8 (老衰)
- K・H (66歳) (男性) 2/20 (誤嚥性肺炎)

【入所】 27年4月に男性1名、28年1月に男女各1名、2月に男性1名、3月に男性1名

S・I (49歳) (男性) 4/1 (在宅より)  
M・T (59歳) (男性) 1/1 (精神科病院より)  
T・Y (60歳) (女性) 1/1 (精神科病院より)  
N・A (71歳) (男性) 2/1 (GHより)  
M・H (71歳) (女性) 3/1 (GHより)

(2) 年齢構成・在寮年数・障害支援区分・介護の状況

【年齢構成】

年齢別	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計	平均年齢
男	0	1	2	10	8	4	25	69.7歳
女	0	1	1	12	5	3	22	67.0歳
計	0	2	3	22	13	7	47	68.3歳

【在寮年数】

区分	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上	平均在寮 年数
男	3	4	1	4	3	10	12年4ヶ月
女	1	3	2	4	2	10	13年3ヶ月
計	4	7	3	8	5	20	12年8ヶ月

【障害支援区分】

区分	1	2	3	4	5	6	計	平均
男	0	0	4	7	10	4	25	4.56
女	0	0	3	3	10	6	22	4.86
計	0	0	7	10	20	10	47	4.70

【介護等の状況】 (全面介助及び一部介助者)

	移動	食事	入浴	着脱衣	排泄	リハビリ	洗濯
男性	8	11	21	7	11	6	22
女性	16	15	16	10	15	9	18
計	24	26	37	17	26	15	40

(3) 健康管理・保健衛生

(イ) 定期検診

項目	回数	項目	回数
血液一般・尿	年1回	乳房検診 医師	年1回
心電図	年1回	身長	年1回
胸部レントゲン	年1回	体重	月1回
歯科	年2回	血圧	月1回
婦人科	なし	口腔指導	年6回

## (ロ) 疾病状況

・感染症：インフルエンザ H28. 3. 18～3. 28 にかけて利用者 3 名罹患

科目	病名	人数	科目	病名	人数
悪性腫瘍	乳癌術後	0	外科	肛門周囲膿瘍	0
	膀胱癌術後	1		人工肛門	1
精神科	てんかん	12		痔	3
	統合失調症	11	整形外科	骨折	0
	心因反応	7		股関節症	1
	認知症	1		変形性膝関節症	2
				変形性腰椎症	5
内科	慢性胃炎	3		腰椎すべり症	2
	胃潰瘍	0		腰部脊柱側彎症状	2
	胃・十二指腸潰瘍	2		腰痛症	2
	脳炎後遺症	0		骨粗しょう症	1
	便秘症	6		人工骨頭置換術後 深部感染症	3
	慢性肝炎	2	眼科	白内障	5
	B型肝炎	2		緑内障	2
	気管支喘息	3		弱視	2
	気管支拡張症	0		網膜色素変性症	2
	先天性巨大結腸症	0		加齢黄斑変性	1
	腸閉塞	2		涙腺炎	0
	高脂血症	10		眼瞼下垂	1
	高尿酸血症	3		翼状片	2
	糖尿病	1	耳鼻科	難聴（慢性中耳炎）	1
	貧血症（正球性）	2		両感音性難聴	3
	鉄欠乏性貧血（小 球性）	3		耳鼓膜穿孔	1
	静脈瘤	0		アレルギー性鼻炎	4
	高血圧症	14	泌尿器	前立腺肥大	4
	起立性低血圧症	1		精巣腫瘍	1
	高コレステロール血症	4	皮膚科	両足部汗疱状白癬	8
	血栓血管炎（両下 肢閉塞性）	1		爪白癬	31
	心不全	1		膿皮症	1
	心筋障害	1		脂漏性皮膚炎	2
	心電図異常	0		帯状疱疹	0
				熱傷	0
				先天性魚鱗癬	1
歯科	う歯・虫歯	19	合計		220
	義歯	18			



## (ハ) 通院状況

	科別分類	年間延人数	年間実人数
1	内科・小児科系	323	53
2	精神・神経科系	354	38
3	外科・整形外科系	6	6
4	耳鼻咽喉科系	1	2
5	婦人科系	12	1
6	皮膚科系	4	4
7	眼科系	5	4
8	歯科系	83	49
9	その他	14	8
	計	802	165

## (ニ) 入院状況

番号	氏名	性別	病名	入院期間		日数
1	k・H	男	腸閉塞（小腸ガス貯留）	H27. 4. 13	H27. 7. 27	105
2	H・H	女	薬物中毒	H27. 4. 11	H27. 4. 15	4
3	H・H	女	薬調整	H27. 4. 15	H27. 5. 5	20
4	Y・A	男	急性腎盂腎炎	H27. 5. 13	H27. 5. 19	6
5	N・M	女	誤嚥性肺炎	H27. 6. 22	H27. 7. 9	17
6	Y・A	男	急性腎盂腎炎	H27. 7. 3	H27. 7. 7	4
7	N・M	女	脱水・急性胃腸炎・誤嚥性肺炎	H27. 8. 7	H27. 12. 14	129
8	H・H	女	緊急性嘔吐・脱水	H27. 9. 3	H27. 9. 17	14
9	H・S	男	誤嚥性肺炎	H27. 10. 7	H27. 10. 9	2
10	O・M	男	検査入院	H27. 9. 28	H27. 11. 30	63
11	T・M	女	左卵巣癌	H27. 11. 16	H27. 11. 27	11
12	K・M	男	胃癌	H27. 12. 5	H27. 12. 10	5
13	K・M	男	胃癌	H27. 12. 24	H28. 2. 5	43
14	T・R	男	右肩関節脱臼	H27. 12. 28	H27. 12. 29	1
15	K・M	女	高熱・細菌感染	H27. 12. 28	H28. 2. 1	35
16	Y・A	男	誤嚥性肺炎・イレウス	H28. 1. 5	H28. 2. 1	27
17	T・R	男	急性肺炎	H28. 1. 9	H28. 1. 13	4
18	H・T	女	肺炎・心不全疑い	H28. 1. 10	H28. 1. 19	9
19	K・H	男	重度の肺炎	H28. 1. 14	H28. 1. 25	11
20	N・T	男	十二指腸潰瘍・尿路感染	H28. 1. 18	H28. 2. 8	21
21	K・H	男	脱水・高度便秘	H28. 2. 3	H28. 2. 20	17
22	Y・Y	男	肺炎	H28. 3. 26	H28. 4. 8	13
計						561

#### (4) 食生活健康管理

##### 目標栄養量

平成27年度給与エネルギー目標量は一般食者1,720kcal、80歳代車椅子者1,300kcalとして、個々の活動量や健康状態等にも配慮しました。

##### (イ) 食事形態別分類

内 容		H27. 3. 31 人数	H28. 3. 31 人数
主 食	常 食	39	38
	軟 食	7	6
	流 動 食	2	1
	経管栄養（胃ろう）	0	1
副 食	常 食	26	25
	軟菜きざみ	20	19
	ミキサー食	1	1
	経管栄養（胃ろう）	0	1

##### (ロ) 健康度別食事分類

内 容		H27. 3. 31 人数	H28. 3. 31 人数
常 食		26	29
健康管理	加味制限食	5	3
	補 食	14	10
治療食	高血圧食	1	3
	潰瘍食	2	1
	経管栄養食	0	1

## 9. 職員の状況

### (1) 新任・転退職者

新規採用者	H27. 4. 1	生活支援員（新卒）	K・W	（男性）
新規採用者	H27. 4. 1	生活支援員（新卒）	K・S	（女性）
新規採用者	H27. 4. 1	看護師（臨時）	M・N	（女性）
新規採用者	H27. 9. 1	看護師（臨時）	M・Y	（女性）
新規採用者	H27. 11. 1	看護師	A・Y	（女性）
転入者	H27. 4. 1	生活支援部長（喬木から）	M・S	（男性）
退職者	H27. 7. 15	看護師	H・K	（女性）
退職者	H27. 7. 31	看護師（臨時）	M・N	（女性）
転出者	H28. 3. 31	生活支援員主任（喬木へ）	I・M	（男性）
転出者	H28. 3. 31	生活支援員副主任（穂高へ）	M・Y	（男性）

(2) 非常勤職員

新規採用者	H27. 4. 1	洗濯・介助	K・M	(女性)
内部異動	H27. 8. 1	生活支援員補助(GH世話人から)	H・M	(女性)
退職者	H27. 3. 31	GHはるか世話人	K・A	(女性)

(3) 職員在籍状況

(H28. 4. 1)

	正職員	準職員	雇員	再雇用	臨時	短時間	GH短時間	合計
男	7	1	1	0	0	0	2	11
女	11	0	0	3	1	3	3	21
計	18	1	1	3	1	3	5	32

10. 経理状況 (別紙資料参照)

# 平成27年度

## 穂高悠生寮事業報告

### 概要

穂高悠生寮は、平成27年度の法人基本方針及び中期計画に基づき、本年度の重点目標を「各サービス事業間の一体的運営と安定化を図り、障がい福祉の公益性を担う」とし、具体的な目標は次に掲げ、取り組みました。

- (1) 職員一人ひとりが広い視野を持ち、障がい福祉従事者としての基本姿勢を改める。  
個別に姿勢、資質等徐々に向上してきました。
- (2) 施設寮舎、設備等の維持管理に努め老朽対策を怠らない。  
定期点検含め、早期対応を続けました。
- (3) 各事業の適正運営と連動性を高める。  
多機能に対する対応力等が施設全体徐々に上がってきました。

入所利用者のご逝去が相次ぎ今後への備えも含め、平成27年2月1日付けで入所定員を40名に減員し、新たな事業体系構築への年となりました。

新規の生活介護利用者増と短期入所利用者増を図りつつ安定運営を目指しました。また、労働安全衛生環境につきましても引き続き改善を図ってまいりました。

### 1. 支援サービス

#### (1) 日中活動 (通所生産活動) (H28.3.31)

生活介護利用者は、ゆったり安心できる環境を整えながら、一人ひとりが能力を発揮出来る生産活動をしています。生活訓練利用者は自立生活や就労に向けた支援を行いながら、多様な生産活動を行っています。

<活動別実施状況・利用者参加状況等資料> (参加人員重複あり・人員( )は入所利用者)

活動種別	内容・行程等	実施状況	人員	備考・収入等
マット	マット編み・色分け	通年実施 終日活動	15(21)	収入 395,816 円
薪	切断・ボヤ集め・籾詰め・薪運び・納品・草取り	通年実施 終日活動	4(1)	収入 975,300 円
畑	牧大根	9-11月 不定期	9(1)	収入 48,100 円
藤本商会内職	箸数え・箸袋詰め・タオルたたみ内職・納品	通年実施 終日活動	15(2)	収入 150,867 円
電子部品内職	電子部品袋詰め	3月末で 契約終了	14(3)	収 78,084 円
製菓	材料買出し・製菓作り・販売	6-9月以外 実施	5	収入 11,600 円
洗濯	乾燥機がけ・洗濯たたみ・配布	通年実施 週1回	3	収入 49,000 円

シーツ交換	シーツ交換	3月末で、 契約終了	2	収入 26,000 円
施設内消毒	手すり消毒・下駄箱掃除・ゴミ ステーション掃除	通年実施 午前活動	1	収入 24,000 円
セルフ委託作業	松本合庁清掃・草取り・安曇野 庁舎清掃・新市役所草取り	通年実施 月6~7回	14	収入 147,835 円
リサイクル	空き缶潰し・プルタブ取り・換 金・回収・分別	通年実施 不定期	4	収入 8,034 円

(活動材料費 780,825 円・本人支給金 915,330 円・) 収入合計 1,914,636 円

主たる提携店舗等 (販売先等)

店 舗 名	販売品・内容等	備 考
(株)藤本商会	箸・タオル納品	毎週水曜日午後 納品
(株)田中電子	電子部品納品	毎日 納品
山風舎	マット販売委託 薪販売協力	
ぬくもり	マット販売委託	
ラノッキオ	薪販売：ピザ用小割り	
片桐林業	薪原木仕入れ	
(株)シンコー	牛乳パック・アルミ缶リサイクル回収	

(2) 日中活動 (デイ・同好会)

(H28. 3. 31)

1) デイケア

メニュー	所属人数	主な内容
ハビリ	約 30 (通所 5)	毎週水曜日に講師を招き、歌を唄いながら身体を動かす。 開催回数 約 50 回 1 回 5,000 円(講師料)
アロマ セラピー	約 20 (通所 3)	手や足のアロママッサージを行う。 開催回数 24 回 一人 1 回 500 円
紙芝居	約 25 (通所 3)	月に一回ボラにより紙芝居が行なわれる。開催回数 12 回 また、月 2、3 回職員主導でも実施。
輪楽	12	平日午後マット編みの前段階の作業を行なう。 150 円から 500 円/月ご苦労賃を支給。 月 1 回のお茶会
かなで	10	平日の午後音楽鑑賞や散歩などを行う。
ビデオ鑑賞	全員対象	毎週土曜日に食堂のプロジェクターを使いビデオ鑑賞を行う。
職員と話そう	全員対象	祝祭日に利用者と職員が話す時間を意図的に設ける。
ゲーム会	全員対象	平日の午前に職員と様々なゲームを行なう。 春から夏にかけては散歩を行なう。
歌を唄おう	全員対象	平日の午前に職員と演歌や童謡など好きな歌を唄う。月 1、2 回
医務関係	全員対象	血圧・体重測定 血圧は月 2 回 体重は月 1 回 爪切り耳垢点検 (約 50 回) 歯ブラシ点検 (12 回) 歯磨き指導 (入所 7 回、通所 2 回)

外出・旅行	全員対象	一泊旅行・日帰り旅行・担当主導個別外出等。 (3月末現在13グループ実施)
-------	------	--

## 2) 同好会

同好会名	所属人数	主な内容
書道同好会	12 (在宅3)	第二・三土曜日に講師を招き行う。 開催回数 24回 1回4,000円(講師料)

## (3) 健康管理

- 1) H27.1月より正規看護師2名と、パート看護師1名、2号研修修了者1名の体制になりました。
- 2) 入院者は、実人数10名ですが、一人複数回の入院があり延べ15回、221日でした。がん、誤嚥性肺炎、転倒による骨折など高齢化に伴い起こりやすい傷病のほか、低血糖、前立腺炎、胃潰瘍、敗血症、洞不全など、加齢による抵抗力の低下や、機能低下などにより発症したのものも増えています。
- 3) 緊急時間外通院13件で、救急車要請9件(1件はショートステイ利用者)ありました。突然の発症から急遽入院を要する状態になることが多く見られました。認知症も顕在化し、予期せぬ行動からの事故も増えています。
- 4) 5月に1名、施設内で看取らせていただきました。  
日中の看護師体制は整いましたが、夜間緊急時の体制には不安が残ります。また、ご家族の休憩所などにも課題が残っています。
- 5) 昨年度より往診歯科を導入したため、歯科通院回数は増えていますが、歯槽膿漏等で抜歯をするケースは減っています。
- 6) インフルエンザ、感染性胃腸炎等の感染症は、職員、職員家族にはありましたが、施設内発症はありませんでした。
- 7) 入所人数は減少していますが、医療依存度が増加しており、通院は昨年より増えています。  
また、医療依存度の高いロングショートステイ利用者の通院なども多くなっています。

## (4) 食事

- 1) 調理委託業者と食生活委員会を毎月1回開催しており、食事の日常業務がスムーズに運営できるように課題の情報を共有しました。また、食事の楽しみである行事食やバイキング食、業者企画のメニューなど提供しました。
- 2) 5月に炊き出し訓練を行いました。メニューはカレーライスにしました。ご飯はハイゼックスを使用し100食分用意しました。委託業者と協力してスムーズに行えました。
- 3) 利用者の加齢に伴い、嚥下機能が低下、認知症による誤嚥などのリスクも増えています。そのため見守り、一部介助、全介助と何らかの介助を必要とする方も増えています。食事の楽しみと口から食べることに最大の配慮をしながら、安全で安心できる食事の提供が必要とされています。職員は食事介助のあり方を再検証するために、正しい姿勢、スプーンの盛量、飲み込み確認、介助のペースなど疑似体験をとおして研修しました。また褥瘡も出来やすい状態なので低栄養の改善に努め栄養強化食品を提供しています。以上により特別食の増などでフードプロセッサーやミキサーの使用頻度が高く、消耗も早まっています。
- 4) 食中毒予防及び感染症対策に努め、手洗いや配膳着衣について検討し三角巾、マスクの着用を行いました。

## (5) 事故・ヒヤリハット報告

(H28.3.31)

受付総数 280件 (事故143件、ヒヤリ137件・簡易報告含)

発生場所	件数	分類	件数
食堂	53	暴力・他害	3
居室	51	転倒	49
浴室	2	転落	26
脱衣場	4	ずり落ち	3
トイレ	15	打撲	11
ディルーム	0	火傷、熱傷	1
廊下	20	切創	16
作業室	1	誤嚥	14
支援員室	15	薬	39
医務室	19	物損	46
玄関	7	異食	2
通所	11	その他	70
他の建物内	40		
建物外	15		
グループホーム	6	合計	280
敷地外	12		
その他	3		件数
不明	6	事故	143
合計	280	ヒヤリハット	137

## (分析・考察)

- ・月毎の「事故」件数では、10件強の発生状況です。
- ・転倒は比較的歩行の安定した利用者も複数発生。延べ12名ということで対象者が広がっています。
- ・誤薬は前後期各1回ありました。途中チェック等で未然に防いでいる事例が増えました。落薬も前後期各1回で服薬援助での対応は、ほぼ良好と言えます。
- ・重大事故に関しては事故分析・対策検討会を行いました。危険予知としては、熱中症対策・風水害対策・蜂の巣点検除去・感染症対策などに取り組みました。
- ・簡易型ヒヤリハット報告も日常的に意識できてきました。

## (6) 苦情・相談受付

(H28. 3. 31)

苦情受付総数 87件 (26年度 63件)

項目	件数	主な内容
支援内容	26	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハビリ参加の為に日中一時を利用して来たがハビリがなかった。</li> <li>・お風呂の日程が分からない。</li> <li>・市民タイムスを購読して読みたい</li> <li>・職員から、下の名前では呼ばず姓で呼ぶようにしたいと説明があった。理由を色々説明してくれたが、でも馴染まないし嫌な思いがする。名前で呼んで欲しい。</li> <li>・大きいほうのお風呂(浴槽)に入りたい。</li> <li>・洗濯物の記名が無いものがあり、配る時に困っている。</li> </ul>
設備・環境	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部屋が暑い</li> <li>・部屋が寒い</li> <li>・部屋にカーテンが欲しい</li> <li>・建物の中にトイレが1箇所。使っていると入れない。</li> </ul>
職員・世話人	21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室内、枚数を整えていた持ち物の数が足りなくなっている。</li> <li>・月の予定表(対象者名簿)をもらえておらず、困っている。(訪問理容業者)</li> <li>・室内シューズ、漂白にて脱色してしまった。</li> <li>・洗濯に出したセーターが縮んでしまった。</li> <li>・家族が届けておいてくれたヨーグルト2個が冷蔵庫にあったが、賞味期限切れとなっていた。</li> </ul>
他利用者	22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・俺の仕事を取られて切ない。ゴミを集めてたら取って行った。</li> <li>・新しい送迎運転手の運転は荒く、気持ちが悪くなる。</li> <li>・居室でテレビを観ている時に、同室者が「起きて」や「テレビを替えて」と言って困る。一緒に観るのはいいけど、色々言わないでほしい。</li> <li>・椅子をバンバンと叩くのが気になる。気持ちが塞ぐ。</li> <li>※大声を出す隣の人がうるさい。部屋を変えたり気分転換したい。</li> </ul>
その他	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう数日でGHに移る。食事・人間関係などで不安もある。</li> <li>・家族の入院、他の家族の厳しい言葉に悩んでいる。</li> <li>・自分の健康への不安。</li> <li>・昔話をしたかった。</li> </ul>

※対応を講じていますが繰り返し苦情が出されています。1件とカウントしています。

申出者	件数	申出者	件数
入所利用者	49	GH入居家族	0
GH入居者	5	SS、TC利用家族	2
SS、TC利用者	11	通所利用家族	0
通所利用者	10	その他(地域ほか)	3
入所家族	7		
		合計	87

受付方法	件数	受付方法	件数
本人が直接	18	自治会定例会	5
職員が代理提出	37	ケース記録から	15
投書	0		
第三者委員	12	合計	87



(分析・考察)

- ・職員過失による物損等は、Tシャツの紛失(SS者)、室内履きの漂白脱色、セーターの縮み等で計5件があり弁済などしました。
- ・利用者の想いが叶ったり向上したケースは6件。全体サービス向上に繋がったケースは特にありませんが、更に改善欲を高めていきます。
- ・傾聴することで、悩み事・話したい事、話すことができ安心・満身に繋がっています。
- ・「利用者へ情報提供は重要」と、特に自治会へは毎回意識して職員配置をしました。
- ・申立者へのフォローについて「受付通知書」の発行等は、継続的課題・重大課題などの場合の3件について通知しました。
- ・家族への報告、啓蒙活動については機関紙への掲載、家族会総会での報告等行いました。
- ・人権に関連する研修会を研修担当主導で行いました。利用者向けには、11月12日自治会で第三者委員を交え学習会を行いました。
- ・県社会福祉協議会『福祉だより信州』2月号で一連の取組みが特集されました。

(7) 身体拘束・抑制

対象 23 名 30 件内解除 7 件

(H28. 3. 31)

具体的内容	性別	期間
尿道カテーテルを引き抜く行為があり拘束着着用。職員の見守り下では、普段着を着用。	♂84歳 Yさん	H26. 3. 1～継続中
左大腿骨転子部骨折後、転倒の恐れがあり、椅子や車椅子乗車時拘束ベルト使用。	♀68歳 Fさん	H27. 7～H27. 11 拘束解除
移動・移乗等場面で転倒の恐れがあり、車椅子乗車時拘束ベルト使用。	♂66歳 Aさん	H26. 8. 1～継続中
ベッド上から転落の危険があり4点柵使用。	♂77歳 Mさん	H27. 8. 1～継続中
昼夜逆転による体調不良防止のため夜間不眠時の頓服(眠剤)を使用。	♂68歳 Mさん	H26. 12月～継続中
他者に対する攻撃性言動を抑えるため、頓服(精神薬)を使用。	♀63歳 Kさん	H27. 5. 21～継続中
極度の不安定常態時に頓服(精神薬)を使用。夜間不眠時の頓服(眠剤)を使用。	♀32歳 Kさん	H27. 6. 1～継続中
睡眠確保が困難なため夜間ベッド上転落防止帯使用。	♀56歳 Sさん	H24. 8. 1～継続中
車椅子上では転落の恐れがあり、安全ベルトを使用。		H24. 4. 1～必要に応じ使用
急な転倒の恐れがあり脊椎パッド、ヘッドギア使用中。		H26. 12～継続中
車椅子よりの転落の恐れがあるため、拘束ベルトを使用。	♀71歳 Tさん	H24. 5. 12～H28. 1 拘束解除
転倒の恐れがあり腰掛イスで拘束ベルト使用。	♀71歳 Tさん	H25. 3～H28. 2 拘束解除
多動顕著な時に頓服(精神薬)を使用。		H26. 12～H28. 1 拘束解除
夜間不眠時の頓服(眠剤)を使用。	♀31歳 Hさん	H26. 12月～継続中
歩行時、転倒の恐れがありヘッドギア使用。		H26. 12月～継続中

突発的行動で転倒の恐れがあり、車椅子で三点式拘束ベルトを使用。食事椅子でもバックル式ベルトを使用。夜間はベッド上で転落防止帯の使用。	♀62歳 Oさん	H26. 3. 1～継続中
不穩、興奮時大声等他害が顕著のため頓服（精神薬）を使用。		H26. 12～継続中
自傷傾向顕著な時、頓服（精神薬）を使用。	♂69歳 Tさん	H26. 12～継続中
膝落型座位ため日中ニーガードの装着。	♂40歳 Mさん	H26. 12～H27. 11 拘束解除
不穩、不安顕著の時、頓服（精神薬）を使用。	♂62歳 Mさん	H26. 12～継続中
不穩時他害や物損があるため頓服（精神薬）を使用。	♂52歳 Yさん	H26. 12～継続中
急な転倒の恐れがあり歩行時にニーガードの装着。	♀40歳 Oさん	H26. 12～H28. 2 拘束解除。
不安定状態時の抑制不良により頓服（精神薬）を使用。	♀67歳 Tさん	H26. 12～継続中
不穩、興奮時他害に及ぶため、頓服（精神薬）を使用。	♀71歳 Hさん	H26. 12～継続中
膝落型座位のため日中ニーガードの装着。		H26. 12～H28. 2 拘束解除。
ベッドからの落下の恐れがあり、4点柵使用。	♂54歳 Aさん	H28. 1～継続中
車椅子から転落の恐れがあるため、職員が見守れない時に車椅子での拘束ベルトを使用。	♀82歳 Tさん	H28. 2～継続中
不定愁訴のため本人の希望時に頓服（精神薬）を使用し。	♂69歳 Sさん	H26. 3～継続中 GH在
「多飲水」顕著な時の3日に1度位の頻度で三点式拘束ベルトを使用。	♀71歳 Tさん	H27. 11～継続中
不眠・不穩時の頓服の（眠剤）（精神薬）の2種類を希望の時間に合わせて服用。	GH⇒SS	H27. 11～継続中

#### 備考

- ・月1回身体拘束委員会を開催し、現状把握と解除に向けた話し合いの場を設けています。また対象利用者の状況に応じ解除、実行をその場で判断し、ご家族、関係者への連絡も含め迅速な対応に努めています。担当職員とも一緒に考え拘束時間を少しでも減らせるように支援計画を立てて拘束解除に向け働きかけています。
- ・やむを得ず拘束を継続する場合、また拘束の種類が変更となる場合は申請書を作成し、ご家族の同意を得ています。継続は3ヶ月、変更はその都度のご連絡となります。
- ・ヘッドギア等防具や精神薬、眠剤などの頓服薬についても身体拘束の対象としてご家族に説明をしています。

## 2. 施設運営の状況

(H28.3.31)

- (1) 施設入所支援 (定員 40名・現員 40名) 利用率 97.78%  
 31歳から88歳  
 退所利用者 1名 (5/13 逝去) 1名(5/20 療養型病床群へ移行) 1名(7/1GHへ移行)  
 入所利用者 3名
- (2) 生活介護 (定員 59名) 利用率 88.91%  
 施設入所支援併用 40名 31歳から88歳  
 生活介護通い 20名 18歳から82歳
- (3) 生活訓練 (定員 6名) 利用率 76.79%  
 就労系1名 触法2名 契約終了 1名 12/18利用開始  
 利用者 4名 26歳から49歳
- (4) 共同生活事業 グループホーム(みどりの樹定員5名みそら定員6名 現員10名)  
 介護包括型共同生活援助 34歳から75歳 利用率89.37%

### 1) 《みどりの樹》賃貸家屋

入居利用者 5名(男4名)、世話人4名の体制 宿直体制 家賃 10万  
 みどりの樹 1名 3/4みそらへ転居  
 ・給湯ボイラーを更新しました。

氏名	性別	年齢	区分	日中活動先
T.S	男	69	3	穂悠生活介護
T.O	男	41	未	HATA 楽工房就労支援B型 穂悠日中一時支援 適時
H.S	男	64	2	穂悠生活介護
H.T	男	34	2	ま・めぞん就労継続B型 穂悠日中一時支援 適時

### 2) 《みそら》賃貸家屋

入居利用者 6名(女6名)、世話人4名の体制 宿直体制 家賃 13万  
 みそら 1名 6/24退所 住宅型有料老人ホームへ  
 1名 6/30退所 1名 1/31契約終了  
 1名 7/1入居 1名 9/1入居 1名 3/4入居  
 ・世話人室にACを設置しました。

氏名	性別	年齢	区分	日中活動先
M.M	女	47	5	穂悠生活介護(月・火・水・木・金)
M.O	女	73	4	穂悠生活介護( )
Y.F	女	75	4	穂悠生活介護( )
S.H	女	63	3	穂悠生活介護( )
T.Y	女	52	2	事業団就労移行 5/週 穂悠日中一時支援 適時
Y.N	女	40	4	穂悠生活訓練(月・火・水・木・金)

- 3) 世話人、共同生活事業部職員でグループホームの定例会を各ホームで毎月開催しています。  
 また、設備等の点検整備を毎月行なっています。  
 世話人シフト欠けに伴い、宿直等業務補完を本体支援員が適時行っています。

(5) 短期入所・タイムケア事業

短期入所利用者 25名 1062日 2.9名/日  
 日中一時支援 10名 80日

(6) 相談支援事業

効果的かつ実現可能な計画となるよう、関係者間で情報共有、方向性の統一を図るためサービス担当者会議を定期的に行ないました。また、安曇野市相談支援専門員連絡会等に参加し、適切な福祉サービスの利用が行われるよう情報交換、事例検討等を行いました。

1) 相談者の障がい種別

単位：人

総数	知的障がい	身体障がい	精神障がい	発達障がい	うち児童	その他
91	57	5	18	11	12	0

2) 相談形態

単位：件

総数	来所	訪問	同行支援	代行	電話・FAX・メール	その他
2426	80	252	6	7	2077	4

3) サービス等利用計画・障害児利用計画等作成

単位：件

者		児童	
サービス等利用計画作成	モニタリング	障害児利用計画作成	モニタリング
69	84	11	7

(7) 防災関係

(H28.3.31)

火災、震災発生時等の有事に備え、危機管理室を中心に消防計画に基づき、避難誘導訓練等を行いました。

〈訓練等の状況〉

月 日	訓練内容等	参加者	備考
5月22日	施設・魚国総本社合同炊き出し訓練	利用者38名 短期2名 魚国8名 通所23名 職員28名 家族3名 ボランティア2名 牧区長他3名	<ボランティア> ピークール 竹下様 寿中中信防災 浅井様
7月9日	避難誘導・通報・消火(豊科消防署2名)	利用者4名・職員4名	GH:みどりの樹
7月14日	避難誘導・通報・消火(穂高消防署5名)	利用者4名・職員4名	GH:みそら
7月6日	避難誘導・通報・消火	利用者37名・短期1名・通所19名 職員23名・魚国3名	
9月7日	昼間・総合防災訓練(牧区合同) (地震・火災避難誘導) ※牧区主催の訓練へ参加	利用者40名・短期2名 職員16名・魚国3名 ※牧区へ職員9名参加	牧区民協力4名
10月16日	広域消防署立入検査	豊科消防署2名	GHみどりの樹
11月30日	広域消防署立入検査	穂高消防署2名	本体
11月27日	避難誘導・消火(穂高消防署立会) グラウンド(通所)薪小屋出火想定	本体在利用者42名(内6名通所利用者)・グラウンド在利用者12名(内10名通所・2名入所利用者) 職員12名	穂高消防署員4名

2月23日	夜間想定避難訓練 職員2名	利用者36名・短期2名・職員13名 実習生1名	穂高消防署員2名
3月2日	避難誘導・通報・消火	穂高消防署3名・利用者4名 職員2名	GHみそら
3月7日	避難誘導・通報・消火	豊科消防署4名・利用者4名 職員2名	GHみどりの樹

※自主点検：毎月1回

※本体・GH消防設備点検(4月・9月)

- ・スプリンクラー発電機(目視)点検 5月25日
- ・本体(2箇所：廊下部分)誘導灯交換工事を実施。
- ・本体廊下等設置の煙感知器が耐用限により誤発報が重なり更新の必要がでてきました。
- ・れんげの家、GHみどりの樹の灯油タンクの改善が求められました。

**(8) ボランティアの受入れ** 受入れ実績 延べ104名 (H28.3.31)

- 1) 施設行事 延べ 30名  
 納涼祭・納涼バイキング・炊き出し訓練・道祖神花見・七夕・賀の祝い  
 悠秋の集い・マジックショー・ひなまつり
- 2) その他
- |      |    |     |                         |
|------|----|-----|-------------------------|
| 余暇支援 | 延べ | 32名 | 2団体(紙芝居・手話)             |
| 環境整備 | 延べ | 14名 | 個人1名 2団体(穂高松工会・ローターアクト) |
| 交流会  | 延べ | 25名 | 穂高南小学校                  |
| 学生ボラ | 延べ | 3名  | 長野県福祉大学校 松本短期大学         |

- ・日中活動、行事担当者と連携をとりながら、余暇支援、行事などの活動調整を行いました。
- ・学校授業の一環として学生ボランティアの問い合わせがあり、環境整備・利用者交流等で受け入れをしました。
- ・小行事時にボランティア演奏会を積極的に受け入れました。

**3. 人材育成・職員研修**

**(1) 職場内研修の主な内容**

- ・防災機器の使用方法和AEDの取扱い説明(4月)
- ・救急救命講習会(5月) ※松本広域消防局 穂高消防署協力
- ・炊き出し訓練(5月) ※魚国総本社と合同開催
- ・行動療法について(6月) ※支援経過説明、ロールプレイの実施
- ・事例検討会(8月) 外部講師：松本大学 矢崎 久氏
- ・気づきトレーニング(オリジナル研修)(9月)
- ・人権擁護研修(学習会)
- ・感染症研修(実技) ※嘔吐物の処理
- ・ターミナルケア学習会
- ・疑似体験(食事介助の仕方)
- ・他 コンサルテーション 下村真紀子氏 (毎月1回)  
 利用者向け人権学習会  
 安全運転講習会

## (2) 外部・専門研修及び資格取得の主な内容

- ・権利擁護基礎セミナー1D 県社協(1名)
- ・福祉職員生涯研修(新任職員課程)3D 県社協(2名)
- ・新任職員研修会2D 知障協(2名)
- ・コンチネンスセミナー5D 日本コンチネンス長野支部(1名)
- ・看護支援研修5D(1名)
- ・介護技術講習会4D(1名)
- ・介護技術研修「楽ワザセミナー」1D 有限会社RX組(SDS4名)
- ・福祉職員生涯研修(リーダー課程)2D(2名)
- ・サービス管理責任者5D(1名)
- ・福祉関係者のための成年後見制度活用講座2D(1名)
- ・ミドルマネージャー研修2D(1名)
- ・食べる機能と発達と老化2h(1名)
- ・第42回国際福祉機器展1D(1名)
- ・長野県知的障がい協会福祉大会1D(1名)
- ・障がい者差別解消法施行について3h(1名)
- ・中信地区施設間交流研修1D(1名)
- ・TENAユーザーフォーラム4h(1名)
- ・精神保健福祉講座「風通しの良いコミュニケーションを」1D(1名)
- ・介護福祉士実務者研修(施設負担3日間分)3D(1名)
- 「楽ワザ介護塾」青山幸広氏のセミナー(4回)※任意参加(SDSのべ34名)
- ・衛生管理者(第2種)(1名) <取得>
- ・介護福祉士(内1名介護技術研修含む)(2名) <取得>

## (3) 法人研修

- ・法人内施設研修〔派遣〕(6名)  
※駒ヶ根1名、上田1名、はらむら1名、喬木1名、須坂1名
- ・新任研修 5名
- ・危険予知訓練〔KYT〕2名
- ・新任職員集合研修 5名
- ・主任・副主任現任研修 2名

#### 4. 地域支援・交流

(H28. 3. 31)

4月20日	道祖神花見 老人クラブ5名	9月1日	穂高西中マイライフ5名 職業体験2名
5月22日	災害対策訓練 5名	9月6日	牧区合同防災訓練 9名
5月29日	穂高西中マイライフ 5名	9月6日	安曇野市社会福祉大会 4名表彰
6月1日	保護観察受入 1名	9月20日	区私道一斉整備 6名
6月18日	穂高南小VC交流 23名	9月27日	草競馬 8名
6月28日	牧区ふれあいサロン 3名	9月28日	明科民生児童委員障害者部会研修 10名
7月2日	産業視察教員研修 8名	10月11日	諏訪神社祭典4名 寄附参千円
7月21日	穂高東中職場体験2名	11月1日	穂高文化祭11名 18作品
7月23日	穂高西中職場体験2名	11月8日	防火水槽消防団送水訓練
7月30日	納涼祭11名	2月28日	牧区ふれあい芸能祭19名
8月23日	牧区ふれあいサロン 3名	適時	近隣道路等環境整備

#### 5. 利用者家族・家族会との連携

##### (1) 行事参加

(H28. 3. 31)

行事名	日時	ご家族参加者数	内容
花見・道祖神祭り準備	4月15日	7名	周辺環境整備
花見・道祖神祭り	4月20日	9名	利用者、老人クラブと交流
災害対応訓練	5月22日	3名	災害対策
環境整備・BBQ	7月5日	20名	環境整備、職員交流焼肉会
納涼祭	7月30日	11名	利用者、職員交流
悠秋の集	10月8日	14名	利用者、職員交流
漬物・環境整備	11月28日	19名	野沢菜・大根漬け・周辺環境整備
日本財団車両贈呈式	3月1日	3名	贈呈式立会い・車両お披露目

##### (2) 会議等

会議名	日時	参加人数
正副会長監事会	4月5日	4名
第1回会総会	5月17日	12名
転入新職員6名歓迎会		委任21名
後援会総会	6月17日	2名
家族会連合会総会 上田	7月10日	2名
上田悠生寮視察	7月11日	2名
県福祉大会 長野	11月18日	2名
正副会長会	1月13日	2名
家族会理事会	2月7日	犬飼会長
正副会長幹事会	3月16日	8名
家族会総会	3月27日	14名 委任14名
預かり金定期監査	5月17日・8月26日・11月28日・3月16日	

- ・連合会法人の機能について議論は深まりませんでした。
- ・会員の高齢化等により世代交代が難航しています。

## 6. 施設整備 (H27. 4. 1～3. 31)

(単位：千円)

項目	金額	備考
日本財団車両整備事業	2,171	送迎車両・助成額 1,260 千
居室床張替え	645	衛生管理・住環境整備 13 室
床暖房三方弁修理	302	耐用限
モジュトロールモーター修理	129	耐用限・温度調節
ブレンダー	118	耐用限・厨房機材
キュービクル内ヒューズ	99	耐用限
ロビーチェア	193	南北支援員室利用者用 2 基
外部投光器	151	耐用限・非常用対策 3 基
誘導灯	83	耐用限・非常用対策 2 基
19 型テレビ	85	ショートステイ用 3 台
GH みどりの樹ボイラー	163	耐用限
GH みそらエアコン	89	世話人室空調
GH みどりトイレ便座	67	利用者老化対策・ウォシュレット

## 7. 利用者の状況(施設入所)

年齢構成は最高齢者が男性 88 歳 女性 85 歳。最低年齢が男性 40 歳、女性 31 歳です。

### (1) 利用者年齢別一覧 男性 20 名 女性 20 名 (H28. 3. 31)

年齢階層	49 以下	50～54	55～59	60～64	65～69	70 以上	平均
性 別							
男性	2	2	0	3	5	8	6.7
女性	3	0	1	3	4	9	6.4
計	5	2	1	6	9	17	65.5

### (2) 利用者障害支援区分 男性 20 名 女性 20 名 (H28. 3. 31)

年齢階層	1 以下	2	3	4	5	6	平均
性 別							
男性	0	0	0	3	6	11	5.4
女性	0	0	0	6	4	10	5.2
計	0	0	0	9	10	21	5.3

### (3) 在寮期間 男性 20 名 女性 20 名 (H28. 3. 31)

区分	1 年未満	1 年～3 年未満	3 年以上～5 年未満	5 年以上～10 年未満	10 年以上
男性	0	2	1	6	11
女性	3	2	0	5	10
計	3	4	1	11	21

### (4) 介護等の状況 (H28. 3. 31)

移動	実数	食事	実数	入浴	実数	着脱衣	実数
歩行補助具	5	一部介助	8	一部介助	11	一部介助	10
車椅子使用	13	全介助	13	全介助	25	全介助	17
移動不能	0						



## (5) - 1 生活介護利用者の状況 (通い) 20名

(H28. 3. 31)

性別	年齢	利用開始	出身地	区分	性別	年齢	利用開始	出身地	区分
男性	82	H23. 6	松本市	4	女性	73	H23. 6	安曇野市	4
男性	69	H23. 6	松本市	3	女性	71	H23. 6	安曇野市	5
男性	59	H23. 6	安曇野市	2	女性	63	H23. 6	松本市	3
男性	64	H23. 6	諏訪市	2	女性	70	H23. 6	安曇野市	2
男性	58	H28. 3	安曇野市	4	女性	65	H23. 6	安曇野市	2
男性	18	H28. 3	安曇野市	4	女性	47	H27. 7	安曇野市	5
女性	34	H24. 7	安曇野市	3	女性	65	H23. 6	安曇野市	2
女性	63	H25. 4	安曇野市	4	女性	75	H25. 8	松本市	4
女性	25	H27. 7	安曇野市	5	女性	56	H27. 6	山形村	4
女性	30	H23. 6	安曇野市	4	女性	48	H28. 2	安曇野市	4

## - 2 生活訓練利用者の状況

4名

(H28. 3. 31)

性別	年齢	利用開始	出身地	区分	性別	年齢	利用開始	出身地	区分
男性	49	H22. 4	安曇野市	2	女性	40	H22. 6	朝日村	4
男性	37	H27. 12	安曇野市	未	女性	26	H23. 6	安曇野市	2

## (6) 食事形態別分類

食事内容一覧表

(H28. 3. 31)

内 容		月 日	4/1	3/31	備 考
主 食	一般食		1 8	1 7	
	軟食		1 6	1 7	
	流動食		4	3	
副 食	一般食		1 4	1 2	
	一般食きざみ		1 5	8	
	極きざみ		0	8	
	軟菜きざみ		0	0	
	とろみ・ミキサー・ゼリー		9	1 1	
	経管栄養食		2	1	
	入院		0	0	
	対象者数		4 0	4 0	

(7) 健康度別食事分類				
内 容 月 日		4/1	3/31	備 考
健康管理療 法 医 師 の 指 示 に よ る	カロリー制限食	19	15	
	減塩食	4	4	
	補食	8	9	
	糖尿病食	4	6	
	高血圧食	4	4	
	腎心臓病食	0	0	
	透析食	1	1	
	肝臓病食	0	0	
	潰瘍食	4	3	
	イレウス食（腸閉塞）	0	0	
	貧血食	4	4	
	その他（痛風）	3	3	
				*食事箋(療養食) 19名

(8) 受診状況

(H28. 3. 31)

	延人数	実人数	昨年度延人数	昨年度実人数
内科系	283	39	314	41
精神科系	220	32	203	34
外科系	68	22	80	26
耳鼻科系	62	11	67	14
婦人科系	19	6	11	5
皮膚科系	117	30	103	31
眼科系	41	21	42	26
歯科系	220	32	175	33
その他	232	14	224	16
合 計	1262	40人中	1219	46人中

## (9) 定期健康診査

項目	頻度	項目	頻度
血液検査・尿検査・心電図	年1回	大腸検診(希望者)	年1回
胸部レントゲン	年1回	マンモグラフィ(希望者)	1回/2年
嘱託医による内科検診	年12回	子宮がん検診(希望者)	1回/2年
乳房健診	年1回	血圧測定	年24回
歯科検診	年1回	体重測定	年12回
眼科検診	年1回	身長、腹囲測定	年1回
胃検診(希望者)	年1回		

## (10) 入院状況

(H28. 3. 31)

歳	性	病名	期間	日数	歳	性	病名	期間	日数
74	男	低血糖	4/12-4/13	2	67	男	誤嚥性肺炎	9/9-9/26	18
74	男	敗血症	5/21-6/4	15	62	女	大腿骨骨折	10/10-11/10	32
77	男	胃潰瘍	6/8-6/16	9	65	女	大腿骨骨折	10/29-11/26	29
71	男	前立腺炎	6/9-6/26	18	67	男	誤嚥性肺炎	12/21-1/8	19
67	男	誤嚥性肺炎	6/13-6/23	11	67	男	肺炎	1/19-1/28	10
67	女	大腿骨骨折	6/27-7/16	20	81	女	誤嚥性肺炎	2/13-2/23	11
65	女	頭部打撲	7/16-7/17	2	68	男	誤嚥性肺炎	3/16-3/31	16
65	女	洞不全症候群	8/25-9/2	9					

27年度 延べ15件 実人数10名 延べ221日

(参考 26年度 延べ11件 実人数7名 延べ315日)

## (11) 救急車要請

(H28. 3. 31)

年齢	性別	症状	月日	転帰(備考)
77	男	吐血、下血	6/8	胃潰瘍 入院(月曜・5時)
71	男	高熱、転倒	6/9	前立腺炎 入院(火曜・15時)
67	男	血圧、酸素濃度低下	6/13	誤嚥性肺炎 入院(土曜・20時)
65	女	頭部打撲、嘔吐	7/16	様子観察 入院(木曜・20時)
71	男	尿管結石	1/29	様子観察 帰寮(日曜・1:10)
71	男	意識消失、嘔吐	12/8	様子観察 帰寮(火曜・3:50) ss利用者
64	女	意識消失	12/10	様子観察 帰寮(木曜・9:30)
68	男	酸素濃度低下	12/21	誤嚥性肺炎 入院(月曜・2:32)
67	男	意識状態低下	1/19	肺炎、脳機能障害(月曜・7:20)

その他時間外通院(往診)

年齢	性別	症状	月日	転帰(備考)
74	男	意識混濁	4/12	低血糖 入院(日曜・午前)
81	女	転倒	5/5	左肩打撲 帰寮(祝日・夜間)
86	女	意識消失	5/13	すい臓がん末期 死亡(水曜・夜間) 往診
67	女	転倒、歩行不能	6/27	大腿骨骨折 入院(土曜・午後)
67	男	高熱、酸素濃度低下	9/9	誤嚥性肺炎 入院(水曜・夜間)
71	男	傾眠	11/25	抗ウイルス剤副反応疑い、服薬調整 帰寮(水曜・夜間)
81	女	食事摂取不良、発熱	2/13	誤嚥性肺炎 入院(土曜・午後)

## (12) 疾病状況

(H28.3.31)

科	病名	人数	科	病名	人数	
悪性腫瘍	肝臓がん	2	外科	【外科】		
	すい臓がん	1		痔・脱肛	9	
精神科	てんかん	13		そけいヘルニア（手術）	1	
	てんかん性精神病	0		切り傷（縫合）	1	
	統合失調症	7		【整形】		
	心因反応	0		右足第5指骨折	1	
	水中毒	0		左大腿骨頸部骨折	1	
	認知症	11		右大腿骨骨幹骨折	1	
	【その他精神障害・疾患】			骨髄炎	1	
	不眠症	19		偽痛風	1	
	器質性精神障害	1		膝関節症	2	
	その他	21		骨粗鬆症	2	
内科	【消化器疾患】			捻挫	8	
	胃腸炎	8		打撲	6	
	胃潰瘍・十二指腸潰瘍	3		爪はがれ、化膿等	4	
	逆流性食道炎	4		滑液包炎	1	
	便秘症	41		【脳外科】		
	B型肝炎	2		脳梗塞（病後の内服者含む）	3	
	C型肝炎	1		脳出血	0	
	肝機能障害	5		（その他の脳外科疾患）		
	肝硬変	0		頭部打撲	3	
	胆石	2		眼科	白内障	13
	（その他消化器疾患）				緑内障・高眼圧	4
	経管栄養	2			翼状片	1
	憩室	2			【その他の眼科疾患】	
	食道裂孔ヘルニア	4			結膜炎	7
	胃・大腸ポリープ	1			黄斑変性症	1
	【内分泌・造血機能疾患】				麦粒腫・霰粒腫	1
	糖尿病（疑含む）	6			網膜症	2
	貧血	3			網膜はく離術後	1
	（その他内分泌等）				角膜炎	3
甲状腺機能低下	2	ドライアイ			1	
抗リン脂質抗体症候群	1	結膜下出血	2			
内科	血小板減少性紫斑病	1	ぶどう膜炎		1	
	高尿酸血症・痛風	9	耳鼻科	難聴	4	
	脂質代謝異常症	15		副鼻腔炎	1	
	【循環器疾患】			中耳炎・外耳炎	5	
	不整脈	2		アレルギー性疾患	0	
	高血圧症	17		鼻出血	1	

	低血圧症	2		メニエル氏病	4		
	心不全	2		外耳道狭窄	1		
	狭心症	1		耳垢塞栓	6		
	WPW症候群	0		皮膚科	白癬・真菌症	30	
	(その他の循環器疾患)				乾燥性皮膚炎	21	
	下肢浮腫	3			褥創	5	
	電解質異常	7			湿疹・かぶれ	18	
	左心流出路狭窄	1			アレルギー性疾患	6	
	【呼吸器疾患】				帯状疱疹・ヘルペス	1	
	慢性気管支炎	2			【その他皮膚科疾患】		
	肺炎	5			イボ・良性腫瘍	3	
	喘息	2			にきび・化膿疹	5	
	肺結核	0			潰瘍・壊疽	1	
	(その他の呼吸器疾患)				魚の目・胼胝	4	
	インフルエンザ	0			膿疱性乾癬	1	
	感冒	18			歯科	齲歯	8
	【その他内科疾患】					歯肉炎・歯周炎	24
	パーキンソン症候群	1		義歯調整		7	
	泌尿器科	前立腺肥大		3		歯根打撲	1
		慢性腎不全(透析含む)		1		舌リンパ腫	1
腎結石		0	埋伏歯	1			
水腎症		0	婦人科	更年期障害	0		
【その他泌尿器科疾患】				子宮筋腫および術後	1		
尿路感染		5		【その他婦人科疾患】			
神経因性膀胱		10	先天性	ダウン症候群	3		
糖尿病性腎症		1		聾啞	2		
腎機能低下	2	脳性まひ		7			
		魚鱗癬		1			

(13) リハビリ対象者と内容

(H28.3.31)

内 容	人数	内 容	人数
歩行練習	9	座位保持練習	2
起立練習	1	協調運動練習	9
立位保持練習	0	拘縮予防	9

- ・安曇野赤十字病院より月1回理学療法士訪問指導。平成27年度訪問指導10回実施。
- ・支援員で毎日リハビリ実施。個別にリハビリメニュー作成。(実人数 20名)

## 8. 職員の状況

正規女性	4名	生活支援員	平成27年4月1日付	採用
正規女性	1名	看護師	平成27年4月1日付	登用
正規男性	1名	生活支援員	平成27年4月1日付	転入(上田)
正規男性	1名	支援部長	平成27年4月1日付	転入(駒ヶ根)
正規女性	1名	生活支援員	平成27年4月1日付	定年再雇用
短労女性	1名	世話人	平成27年5月17日付	採用
短労女性	1名	世話人	平成27年9月21日付	採用
短労女性	1名	生活支援員	平成27年11月6日付	採用
短労女性	1名	世話人	平成27年12月24日付	採用
短労女性	1名	世話人	平成27年4月31日付	退職
短労男性	1名	世話人	平成27年7月31日付	退職
短労男性	1名	世話人	平成27年12月31日付	退職
短労女性	1名	看護師	平成28年3月31日付	退職

(H28. 3. 31)

	正職員	準職員	雇員	短時間	合計
男	13			1	14
女	19(育休1)	1	1	17(世8)	38

# 平成 27 年度 上田悠生寮事業報告書

## 概要

- (1) 平成 2 年建設の自活訓練棟の入り口へのスロープ設置、部屋 2 室増設することが出来た。利用者の個々の状態に応じた活用を図っている。
- (2) 本体利用者の最高齢 81 歳、最年少 20 歳、平均年齢は 61.3 歳になりました。退所は 5 名でした。上小圏域入所調整会議で施設入所になった方は 5 名であるが、前年度からの 2 名の欠員は解消できてはいない。なお、入所してもサービス等利用計画に基づき日中は他の事業所を利用する傾向に向かいつつある。
- (3) 共同生活事業部は 3 ホーム、定員 15 名（2 名の定員割れがあります）。平均年齢は 65.6 歳、支援区分の平均 4.1。地域での暮らしを支える為、7 年前からの課題の解消に取り掛かり、諏訪形地区に建設用地を確保する事ができた。（足腰が弱ってきた利用者には 2 階建ての住居は支障があります）
- (4) 安全委員会、危機管理委員会を事業調整会議前に位置づけて、喀痰吸引や感染症対策等について打合せをして対策を講じた。今季は流行のピークが 2 月頃になり外出制限等を行い、インフルエンザ感染は予防ができました。
- (5) 上小圏域ケアマネジメント連絡会で相談支援専門員の資質向上に努め、利用者のニーズに寄り添ったサービス等利用計画の作成や支援会議でスキルアップ等が図られている。
- (6) 収支は利用者の退所や入院等の影響で減収となりました。1 日当たりの平均利用者（入所 44.9 人・生活介護 58.9 人）でした。

## 1. 支援サービス

### ①利用者への支援サービス

- (1) アセスメントを重視した利用者のニーズにより合致した個別支援計画策定に努め、月毎のサービス会議の折にはモニタリング等を通じ支援計画の内容の適正化を図った。  
又、個別支援計画策定にあたっては相談支援のサービス等利用計画を受けて、施設の中での取り組みについて具体的に掘り下げて計画を策定するよう努めた。
- (2) 日中活動は個別支援計画と連動させることで、各ケース担当者のアプローチを受け活動参加に繋がるケースが多く見られた。しかし、外注作業の取り組みとしては一部の方にとどまり、多くの皆さんが個別の造形・手芸関係となってきているため、誘導等も含め個別対応が増加している。クラブ活動については利用者の要望も強く、参加者の皆さんの楽しみの時間となってきている。年度末には新たに書道クラブも体験を開始し、新たな楽しみとなってきている。
- (3) 共同生活事業はサービス管理責任者を中心に本体と兼務で 4 名配置し、バックアップ体制を強化

した。それにより地域生活の課題解決に迅速に取り組むことが出来た。また、利用者の高齢化に伴い介護面での支援と介護保険を利用した環境整備を行い、生活環境の安全対策を図った。

(4) 予防介護の観点からのPTによる訪問リハビリ3回(延べ12人)及びSTによる口腔嚥下のアセスメント1回(延べ4人)を今年度実施した。

(5) ご利用者の重度高齢化による支援量の増加を受け、介護技術の向上を目的として派遣研修を実施、伝達研修や現場での支援に生かした。また、嚥下障害に対しての理解を深める目的で研修会を開催し、食事支援での気付きにつなげた。

(6) 人権擁護関連の全職員向けの研修会を開催し、人権意識の向上に努めた。

## ②食生活・栄養管理

- 介助者の増加により食事支援における(誰の食事介助を誰が行うか、食事介助に入る順番などを明記した)タイムスケジュール表を作成した。
- 利用者一人一人の嗜好・歯・嚥下状態等に合った食事が提供されているか見直した。また、現在どのような食事が提供されているのか分かるように、主食内容・副食形態・禁食などを整理し、一覧を作成した。
- 汁のとろみを一定にするため、汁・とろみ剤(食べ物や飲み物にとろみをつけるものです)の量を計り、厨房内でとろみ付けを行うようにした。
- 行事食・バイキングを実施し、食事を楽しんで頂いた。
- 食事席を適時見直し、食席表を作成した。

## ③健康管理について

今年度も、入院が多かった。昨年と比較すると約2倍になった。

多い疾患から順に『肺炎』『骨折』『統合失調症』『腸閉塞』であった。同疾患で同利用者が入退院を繰り返す場合が多かった。死亡退所者は4名で、癌の死亡は2名だった。死亡退所者のうち3名は施設で看取りをした。

国政の老人医療費の関係から特別な治療を必要としない限り、入院は難しくなっている状況であり、施設内での看取りは当たり前となってきた。当然のことながら多くの利用者は高齢⇒身体機能の低下⇒廃用症候群⇒病気に罹患、悪化または寝たきり⇒死の経過をたどる。死は誰でも必ずやって来る。今後ますます、死に寄り添う支援が必要となってくる。

厳寒期の感染症の蔓延は無く、一安心であった。



#### ④事故・ヒヤリハット報告

受付総数 151件 (事故107件・ヒヤリ44件)

発生場所	件数	前年度比	分類	件数	前年度比	割合
食堂	20	-28	暴力	18	-6	11.9%
居室	21	-8	転倒	28	-23	18.5%
浴室	2	-5	転落	6	-10	3%
脱衣場	3	+1	ずり落ち	4	+4	2.6%
トイレ	8	+5	打撲	1	-6	0.7%
Dルーム	10	-3	火傷、熱傷	0	+5	0%
廊下	3	-15	切創	3	-8	2%
作業棟	0	±0	薬	8	-15	5.3%
支援室	18	+13	物損	9	-9	6%
玄関	13	+3	異食	4	+3	2.6%
他の施設内	17	-16	その他	70	-25	46.4%
他の施設外	19	+12	不明			
GH	3	+1				
その他	3	+33				
不明	1	-15				
通所	10	+5				
合計	151	-104				
				件数	前年度比	割合
			事故	107	-69	70.9%
			ヒヤリハット	44	-35	29.1%

#### (分析・考察)

- ・前年比事故、ヒヤリハットともに減少している。ヒヤリハットについてはより増えていく傾向が望ましいと思われませんが、逆行していることから、KY意識の元に「気づき」更なるヒヤリハットの増加で事故の減を目指す。
- ・分類別では転倒、転落、ずり落ちが事故・ヒヤリ全体の3割近くを占めている。しかし、上半期だけで見ても3割を占めているにもかかわらずヒヤリハットが1件も出なかったこと。そして、その上半期で骨折にいたったものが6件、入院に至ったものも2件と大事故に至ってしまっている。下半期にも1件入院となってしまったケースがあり、研修及び事故対策委員会の開催をし、気づきとヒヤリハットの重要性を再認識した。
- ・上記にあげた入院に至った事故に関して1件はグループホーム利用者によるものであった。本体利用者に比べ平均年齢が65.6歳とより高齢化が進んできている現状。介護保険を導入しながら環境や支援の充実を図っている。
- ・リスクアセスメント  
職員研修の一環として施設内空間のリスクアセスメントを実施しました。それぞれの空間に職員を配置しグループごとでの確認作業、そして改善対策及び方向性を検討提示した。速やかに行える改善については実施し、金額的に必要なものは計画的に準備を提案した。

⑤苦情・相談受付

苦情受付総数 41 件

項 目	件 数	主な内容
支援内容	11	・帰省時に部屋を見たら寝具に髪の毛が多量についていました。髭もそってなく勤務者に伝わっていないように感じられた。(入所家族) ・お茶クラブで先生のお宅にお邪魔してきましたが、帰ってくると糸くずがたくさんついたズボンでした。(職員代弁)
設備・環境	3	・いつもセブンイレブンカードを持っていくと外出できるけどインフルエンザがはやっているから外出できないといわれた。どうにか出かけることは出来ませんか?(職員代弁)
職員	10	・後見人の方より入院中の利用者様の状況を問い合わせる電話があったが、状況を確認している間に次の用件から電話を切らせていただいたが、その後折り返しの情報提供も無かった。(後見人) ・訪問のマッサージを利用していたが、コンサート外出がありそちらを優先した。しかし、職員がキャンセルの連絡をしてなかったことから後々キャンセル料を請求された。(職員代弁)
他利用者	9	・カバンの奥にしまっていたお金を持ってしまいジュースを買っていた。次の事業所へ行くときに使う必要なお金でしたから困ります。(SS利用者・職員代弁) ・Iさんが部屋の荷物をひっくり返して、空き巣が入ったようにしてしまった。前にもズボンをあげたばかりで困っていません。(本体利用者本人)
その他	8	・前のグループホームでいじめられていたが、サビ管職員が今のグループホームへ移るようになってくれて良かった。
合 計	41	

申 出 者	件 数
入所利用者	2
入所利用者(職員代弁)	10
GH入居者	14
短期入所、タイムケア利用者	1
通所利用者	0
入所家族	6
GH入居家族	0
短期入所、タイムケア利用家族	0
通所利用家族	0
第三者委員、代弁者	2
その他	6
合 計	41

(主な苦情相談の対応コメント)

- ・全体数の内苦情レベル 23 件要望レベル 18 件。第三者委員の方からも「苦情や要望を言っていた方が、いらっしゃらなくなりましたね。」との言葉もあり、今聞き取りの中心は「楽しかった」など、話を聞いてほしい。一緒に共感してほしいと感じている方が多いことを感じた。そのため日常の言葉ややり取りから汲み取るもの。「気づき」の視点から日常的に利用者の声に耳を傾ける姿勢が求められる。

- ・ご家族や後見人の方からの内容については日頃の支援や情報共有がスムーズに行えていないことがわかる。本当に当たり前のこと「凡事徹底」の励行に他ならないと感じた。
- ・感染症の季節はこの外出自粛をすることで、感染者を出さずに過ごすことができたが、楽しみにしている利用者にとっては辛い時期であり、説明をご理解いただけない皆さんへの対応は苦肉の策と言わざるを得ない。本来は日常の支援内容でストレスの解消などに力を注ぐ必要も感じた。
- ・お部屋の管理が出来る方なので鍵をお預けし部屋換えすることで対応させていただいたが、同室での私物の管理についてはその利用者の特性を理解しているはずなのに対応が遅れてしまった。被害を受けた方の身になって寄り添った考え方をしなくてはならない。
- ・金銭に関しては短期利用開始時に、受け入れ票に物品一覧を準備しすべての物品を確認することとしました。またご家族にも持参いただいたものについての申告をお願いしました。(ここで利用する金銭については申告いただいていたが、被害にあったものについては実は申告いただいていた。) )

## ⑥身体拘束・抑制

具体的内容	性別	期間
車椅子（抑制）バックル式安全ベルト	男性1名	継続中
車椅子（抑制）マジックテープ型ベルト	男性1名	H27. 10. 2. 死亡により解除
車椅子（抑制）三点式セーフティベルト	女性1名	継続中

- ・該当している利用者については3ヶ月毎事業調整会議時等に身体拘束等検討委員会を開催。三原則に照らし合わせて経過観察を基に継続か解除かの検証、検討を行うことを定例化。今年度は車椅子（抑制）マジックテープ型ベルト男性1名を解除とした。

## 2. 施設運営の状況

### ①防災対策

- ・様々な自然災害に対応が出来るように、訓練内容に「雪害・風水害・地震対応等」を盛り込み、訓練に反映させた。11/5の総合防災訓練では、電気やガスが使えないことを想定し、非常食を使用して準備・調理・実食の訓練を実施した。
- ・グループホームの防災体制（緊急連絡網・避難経路確認等）の見直しを行った。また、防災設備（ヘルメット・ランタン等）の設置を行った。
- ・「雪害・風水害・地震・感染症・緊急対策本部役割分担」マニュアルを上田悠生寮版として作成した。
- ・防災倉庫内の物品整理を行い、不要品は処分を行った。必要物品の有無確認や、防災備蓄品（非常食、非常水）消費期限の確認を行い、取出しやすいうように整理を行った。また、防災備蓄品（非常食、非常水）の管理方法は分散管理ではなく集中管理とした。  
※分散管理する場所の確保が難しい、在庫確認が困難であることから集中管理で対応していく。

### ②通所部「なづな」

通所事業部を利用されている方に楽しい日中の時間を提供するよう、音楽活動、創作活動、運動・レクリエーション活動、作業活動などの各種活動を継続支援している。

今年度は、以前より外部講師を招聘し入所部で活動する利用者さんを対象に行っていたコーラ

ス、踊り、絵画などのクラブ活動に通所の利用者さんも希望に応じて参加をさせてもらい、日中活動の更なる充実を図るよう支援を行った。

また今年度は、グループホームを利用されている方の高齢化による生活、身辺面の支援の必要性が一層高まった。日中の時間帯に入所部の職員の協力も得ながら、入浴、洗濯、爪切りなどの身辺面の支援も行っている。

### 3. 施設整備

内 容	実 施 月	金 額 ( 税 込 み )	業 者
大型乾燥機	6 月	608,000 円	メディカルアカ株式会社
手動スクリーン	6 月	145,800 円	株式会社タツノ
自活訓練棟改修工事	9 月～11 月	3,888,000 円	千曲建設工業株式会社
大型吸引器	28 年 1 月	166,500 円	大学前薬局
グループホーム建設用地	2 月	35,820,000 円	千曲建設工業株式会社

### 4. 人材育成・職員研修

利用者さん支援の中で、自閉症、嚥下（誤嚥）、認知症、権利擁護が重要な課題と捉えている。自閉症、嚥下については、外部講師を招聘して職員研修をおこなう事ができた、権利擁護については、権利擁護基礎セミナーへの職員派遣と、全体研修として、各支援場面における虐待と思われる行為、若しくはグレーゾーンと思われる行為を出し合い、それらの解決策を検討した。認知症については、実施する事ができなかった。

現状、課題と思われる項目に対して、引き続き派遣並びに職員全体研修を通して意識、知識の向上を目指し計画、実施をしていきたい。

### 5. 地域支援・交流

①家庭裁判所からの依頼により、年度末に少年 2 名の奉仕活動を受入れた。

②定期的な短期利用や緊急での受入れを行う。

③グループホーム利用者の平均年齢が 65.6 歳。身体機能の低下により 4 名が介護保険サービス（デイサービス）を利用している為、地域支援担当が関る時間を増やした。歩行状況が不安定で手すりの設備が必要になり、介護保険にて手すりやスロープをレンタルして設置した。高齢化に伴い骨折、疾病等で長期入院する方が増えており、医療機関と家族との連携を図った。

④ボランティア

27 年度ボランティアの年間受け入れ数は 261 名であり、減少傾向にある。しかし、活動内容は、カラオケ、絵本や紙芝居の語り、年齢にあった軽運動など、利用者のニーズにあった活動が実施されている。本年度は、さらにネイルケア・マニキュアのボランティア活動が始まり、女性利用者中心に「きれいになる」ことを楽しまれ、笑顔が多く見られている。

本年度も上田ボランティア地域活動センターからの受け入れも行い、利用者、地域住民それぞれのニーズにあった活動が展開されている。

## ⑤相談支援事業

27年度はサービス等利用計画作成45件、モニタリング142件であった。地域の在宅者、ケアホーム利用者、入所利用者、通所部なづな利用者の方達の受給者証期限、身体面の変化による利用サービスの変更、障害区分の認定等に伴い計画作成を順次実施した。今年度は本体バックアップのグループホーム利用者さんが骨折により本体への短期利用があった。身体状況から一時はホームから施設に戻って来る気持ちになられたが、施設的环境が生活リハビリとなり身体機能が向上した結果、地域生活に再び戻りたいという強い想いを持たれた。年齢面からのご家族は施設入所を希望されたが、ご本人の想いを第一に受け止め共同生活担当者、日中事業所等関係者との連携と協力を得て、ご家族にも受け入れて頂ける計画作成により本人中心の相談支援が実現できた。また、指定特定相談支援事業部が平成24年に開設されてから3年目となり、上田市障がい者支援課より実地指導があった。口頭での指摘・改善事項については改善の措置を講じた。

## 6. 利用者家族・家族会との連携

家族会事業では6月23名、9月22名が参加して敷地内・外の環境整備を実施。また、環境整備の後の女性の集いがあり、施設への要望、家族の悩みを共有する取り組みが継続できた。年度末における役員改選では弱体化する家族会のあり方について意見交換ができた。

## 7. 利用者の状況(28年3月31日現在)

### ①利用者の動向について

(1) 年齢別構成 (平均年齢…男性 57.8歳 女性 64.8歳 全体 61.3歳)

	19～39歳	40～59歳	60～64歳	65～69歳	70～79歳	80歳以上
男性	5	4	2	3	6	3
女性	1	4	5	6	7	1
計	6	8	7	9	13	4

(2) 在寮年数

	1～3未満	4～5年未	6～10年未	11～15年未	16～27年未	平均在籍
男性	3	4	3	4	9	11.7
女性	5	2	6	0	11	13.6
計	8	6	9	4	20	12.65

(3) 障害支援区分 (平均…5.1)

区分	3	4	5	6
人数	2	7	24	14

(4) 短期入所 (延日数 992日)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
67	96	132	164	129	83	86	87	115	63	80	82

## (5) 日中一時(延時間 1936)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	市町村
115.5	106	127	154.5	140	162.5	163	142	165	137.5	144	144	上田市

## (6) 介助等の状況

	入浴	排泄	ポータブル	オムツ	車椅子	歩行補助	リハビリ	ヘッドギア	食事	洗濯	着脱
男性	23	20	5	14	6	5	5	2	23	24	23
女性	19	17	2	16	7	3	3	2	13	24	15
計	42	37	7	30	13	8	8	4	36	48	38

## (7) 食事形態別・健康度別分類

食 種	食形態					
	ふつう	一口大	きざみ (含あんかけ)	極きざみ (含あんかけ)	ペースト	合 計
常 食	13	7	8	2	3	33
軟菜食	1		1		2	4
糖尿病食		1	1		1	3
糖尿病・軟菜食						0
脂質異常症食	2		2			4
脂質異常症・痛風食		1				1
脂質異常症・貧血・軟菜食			1			1
合 計	16	9	13	2	6	46

## (8) 一斉健診、定期的な計測(血圧・体重測定)

検診内容	回数	検診内容	回数
胸部レントゲン	年1回	身長測定	年1回
心電図検査	年1回	血圧測定	月1回
尿検査	年1回	体重測定	月1回
血液検査	年1回		
嘱託医健診	月1回		

(9) 通院の実人員、延べ人員は以下の表に記載

診 療 科	通 院 数	
	実人員数 (人)	延べ人員 (人)
内 科	34	260
外科・整形外科・脳外科	20	97
精 神 科	32	214
歯 科	21	365
眼 科	5	14
耳 鼻 科	2	2
皮 膚 科	17	48
婦 人 科	2	2
そ の 他	5	32
合 計	138	1034

内科、歯科の往診も計上した。

H26年度の通院延べ人員は736人でしたが、H27年度の通院延べ人員は1034人に増加した。

(10) 入院状況

	利用者・性別	年齢	病 名	入院日	退院日	入院日数
1	I・S (女性)	19	右脛骨骨折 (手術)	2015/3/19	2015/6/18	92
2	K・I (女性)	74	腎盂腎炎	2015/4/7	2015/4/10	4
3	K・I (女性)	74	運動器不安定症	2015/4/20	2015/7/22	94
4	S・M (男性)	62	腸閉塞	2015/4/7	2015/4/27	21
5	T・S (男性)	80	右大腿部頸部骨折 (保存的治療)	2015/5/20	2015/6/10	22
6	W・M (女性)	56	悪性リンパ腫	2015/5/23	2015/7/31	70
7	F・J (男性)	73	肺炎	2015/6/7	2015/6/15	9
8	T・S (男性)	80	右大腿部頸部骨折後リハビリ訓練	2015/6/19	2015/8/16	59
9	N・H (女性)	66	統合失調症	2015/7/15	2015/8/14	31
10	K・K (男性)	78	吐血 マロリーワイズ症候群	2015/7/18	2015/7/29	12
11	N・H (女性)	66	統合失調症	2015/8/15	2015/8/19	5
12	H・Y (女性)	64	統合失調症	2015/8/25	2015/9/29	36
13	K・I (男性)	71	誤嚥性肺炎	2015/9/13	2015/9/28	16
14	M・N (女性)	67	急性気管支炎・左肺炎。胆のう炎	2015/10/7	2015/10/27	21
15	N・H (女性)	42	てんかん	2015/10/8	2015/10/14	7
16	N・H (女性)	42	てんかん重積発作	2015/10/14	2016/1/13	92
17	T・S (男性)	80	気管支炎、肺炎、心不全、心房粗動	2015/10/20	2015/10/29	10
18	M・N (女性)	67	総胆管結石疑い	2015/10/27	2015/11/6	11
19	T・S (男性)	80	気管支炎、肺炎、心不全、心房粗動	2015/11/11	2015/12/7	27
20	M・N (女性)	67	大腸癌 気管切開状態 (気管カニューレ離脱目的) 2015/11/24			25

21	K・K (男性)	78	肺癌末期	2015/12/25	2016/1/6	13
22	M・N (女性)	67	肺炎・気管支炎疑い	2016/1/22	2016/2/10	20
23	F・J (女性)	64	腸閉塞	2016/2/17	2016/2/24	8
24	S・M (男性)	62	統合失調症	2016/2/23	入院中	入院中
25	F・J (女性)	64	腸閉塞 (垂イレウス)	2016/3/3	2016/3/4	2
26	K・I (女性)	74	胆のう炎疑い	2016/3/16	2016/3/29	14
27	Y・H (男性)	68	脳梗塞	2016/3/18	2016/3/29	15
28	F・J (男性)	74	左股関節大腿骨骨頭壊死 (手術)	2016/3/25	2016/4/25	34
29	M・H	64	右上腕骨骨幹部骨折 (手術)	2016/3/29	2016/4/25	28

H27年度の救急車要請は5件だった。\*マロリーワイス症候群：嘔吐後に下部食道に裂傷が生じ、出血を起こす症候群

(11) 疾病状況

内科	高血圧症	7	脳外科	脳梗塞・脳出血	2
	糖尿病	2			
	脂質異常症	2	精神科	統合失調症	11
	B肝キャリア	1		てんかん	7
	C肝キャリア	0		躁病	1
	胃炎・胃潰瘍	4		症候性分裂病	1
	陳急性胸膜炎	1		神経症	1
	気管支喘息	2			
	心室中隔欠損	1			
内科	心房中隔欠損	1	眼科	霰粒腫	1
	心房粗動・心不全	1		白内障 (術後)	2
	慢性便秘症	19		緑内障 (術後)	3
	嚥下性肺炎	6	皮膚科	翼状片	3
	胆石症 (無痛性)	2		貨幣状湿疹	1
	甲状腺機能亢進症	1		尋常性乾癬	1
	高尿酸血症	1		尋常性痤瘡 (にきび)	1
	自己免疫肝炎	1		蜂窩織炎	1
	心不全	2		腎盂腎炎	1
整形外科	大腿骨転子部骨折術後	3	泌尿器科	前立腺肥大症術後	2
	リウマチ	1		神経因性膀胱	1
	偽痛風	1		尿道カテーテル留置者	2
	左脛骨・腓骨骨折術後	1	悪性腫瘍	胃がん (術後)	1
	右上腕骨骨折	1		子宮がん大腸転移	1
	頸椎圧迫骨折	1		S字結腸癌術後	2
	大腿骨骨頭壊死	1	異常染色体	ダウン症	5
	骨粗しょう症	4		ダウン症の認知様症状出現者	2
	右大腿骨頸部骨折 (保存的治療)	1		6Pトリソミー *先天性の染色体異常	1



外科	腸閉塞	3	歯科	口腔ケア等の往診	8
	外痔核	4			
	S字結腸癌術後	2			
	(人工肛門造設者)	1			

(12) 利用者入退所

(入所)

平成27年4月1日 男性利用者(20歳)  
平成27年8月1日 女性利用者(64歳)  
平成27年11月1日 男性利用者(52歳)  
平成28年1月1日 女性利用者(52歳)

(退所)

平成27年4月16日 女性利用者(64歳)  
平成27年7月31日 女性利用者(57歳)  
平成27年8月18日 男性利用者(83歳)  
平成27年10月3日 男性利用者(93歳)  
平成28年2月14日 男性利用者(79歳)

8. 職員の状況

新規採用職員	平成27年4月1日	生活支援員3名
〃	平成27年8月1日	看護師1名
退職職員	平成27年7月31日	生活支援員1名(依願退職)

	正職員	準職員	雇員	短時間	シルバー人材
男性	12	2	1	4	4
女性	14	1	6	7	3
計	26	3	7	11	7
合計	47				7

# 平成 27 年度 喬木悠生寮 事業報告

## 概要

入所、生活介護、共同生活等各事業部の安定的な職員体制の維持と、良質なサービスの提供継続、事業の安定的な運営に引き続き努めて参りました。しかしながら支援員の突然の休職や年度途中の退職などで長期間安定的な支援体制の確保が出来ず、多少ならずご利用者への不利益を生じさせることとなりました。そんな 1 年ではありましたがそのような状況を逆に BCP と捉え、職員皆が危機感を元にした改変の意識を持って各種業務の見直しによる効率化や経費削減等による業務継続に本気で取り組む契機ともなりました。

(※BCP；緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画のこと)

(1) 事業計画に掲げた「ご利用者への安全、安心、効率的なサービスの提供」については上記の通り、支援スタッフ不足による安定的な支援体制の維持継続が通年の課題となりましたが、男女別棟化による利用者支援の効率化や BCP 意識を念頭に「安全」「確実」な支援に心掛けた結果、大きな事故等のリスク発生もなく乗り切れたことは最低限の評価と捉えています。反面、今後安定的な支援体制の構築という継続課題に取り組む中で、「人を支えるのは人である」という点で、メンタルヘルス等の労働衛生、労働安全にも力を入れてゆく必要性を更に強く感じた 1 年でもありました。

(2) 今年度は将来の安定的な事業運営を図るための中期 5 年計画の初年度であり、計画の具体化に向けて見通し、道筋を探る年でした。入所定員の減員や生活介護枠の維持、SS 等の稼働率向上などによる事業収入の安定化やご利用者の状態変化に合わせた暮らしやすい住環境の整備、支援効率の向上等を図るための大規模な本体改修工事や G・H の新設、通所棟の増設等について、大規模改修検討委員会を立ち上げ検討を重ねてきました。しかしながら、補助金等の事業資金の確保も諸般の事情により厳しい見通しであり、計画の見直しが迫られる情勢となっています。

(3) 開設以来 25 年が経過、利用者の最高齢は 87 歳、最少齢 21 歳、平均年齢 64.3 歳となっています。障害支援区分の平均も 5.0 となり、介護度は年々高まっています。支援内容の傾向としては女性は平均年齢 68.3 歳で加齢による身体状況の低下から介護量が増加しており、男性は介護量の増加に加え自閉症や精神化疾患による行動障害への専門性を持った対応が求められています。

(4) 感染症関係では、通年での全職員出勤・退勤時の更衣実施等の標準予防策の徹底を続けてきました。ところが、2 月 24 日職員 1 名インフルエンザ B 型罹患。本体通所等への拡大は免れましたが 3 月 24 日職員罹患を皮切りに 3 月末までに利用者 10 名職員 5 名罹患（すべて B 型）と感染が拡大してしまいました。BCP 対応中は換気、湿度管理などの他濃厚接触者や高リスク者等のご利用者、職員全員に抗ウイルス剤を投与しました。尚、今回加湿清浄器（プラズマクラスター機能付き）設置の居室の利用者には罹患者が出なかったことから一定の感染症予防効果があるとし、今後ご家族の同意を得つつ全室設置を進める計画です。又、7 月通所ご利用者（G・H）活動性結核の疑いにて一時ホーム及び通所部、本体との交流停止措置としましたが結果は陰性でした。インフル、ノロのみでなく通常想定外の感染症への注意喚起となりました。

(5) 共同生活事業部の運営については、入所支援施設からの地域移行に伴い入居された利用者の高齢化・要介護状態への対応と居住環境をいかに整えるかという課題と、在宅からの入居者等若年世代への対応と支援の二極化が課題となっています。それに伴い支援の質、より専門的な対応が

求められている状況です。

## 1. 支援サービス

### (1) 利用者への支援サービス

- ・法人福祉サービスマニュアルの職員行動規範の遵守に努め、より質の高いサービスの提供を目指しています。障害者差別解消法についての研修を行ない誰もが互いを尊重し、安心して暮らすことができる社会の実現を目指すものとして合理的配慮などについて学びました。
- ・4月には長年の課題とされてきた男女別棟化への準備も整い、南棟（男性）、北棟（女性）での新たな生活が始まりました。その為にトイレの改修工事も施工され、支援における動線の確保は随分改善されました。

### (2) 利用者のくらし

#### ① 個別支援計画

支援計画の実践においては、担当支援員のみならず全職員が情報の共有をし関わりを持つ姿勢が見られました。また6ヶ月での目標達成に向け2ヶ月毎のミニ目標を設定する事により達成率が飛躍的に向上し、支援の具体化という視点では大きな成果であったと思われます。2ヶ月毎のサービス会議はもとより日常的に情報交換を行う意識の向上も見られました。

その反面日常業務の煩雑さや支援頻度の高さにより、勤務時間内での個別支援計画の実践が難しい現状です。また男女別棟化に伴い利用者・職員共に同姓での関わりが中心となっており、異性間の交流・支援が減少傾向にあります。

日々支援計画に基づいた支援の提供を目指すべきは当然のことですが、日常の介助及び直面した課題への対応に追われ、後手に回ってしまう現実をどう解消するかが課題となっています。

#### ② 日中活動

- ・作業及び生産に関わる利用者は21名とH26年度比6名減少しました。
- ・日中活動を通じて利用者の楽しみ・生きがいを提供すると共に、予防介護の視点からも手指等の障機能訓練の一環として重要と捉えています。作業種や作業量の減少、重度高齢化による参加ご利用者の減少などから余暇的活動を含めた日中の過ごし方という大きな枠の中で考える必要に迫られています。又、今年度は支援員数の不足から日中活動の支援員配置も安定せず、ご利用者からの「もっと働きたい」というニーズに対して十分にお答えすることが出来ず、大きな反省点となりました。

#### 【活動内容】

清掃・手芸・清拭タオルセット・農場・環境整備・リサイクルチップ・箸の内職・竹炭関係 等  
また、農場は保存性を重視した作付けを行い、収穫物は食材として寮の給食に提供できている。

#### 【製品の主な販売先】

喬木村農村交流センター、駒ヶ根ファームス、県飯田合同庁舎、たかずや鉱泉、飯田市役所、あざれあ、御大の館・楽珍館

#### ③ 余暇活動

- ・同好会
  - 習字同好会 … 6回実施
  - お花同好会 … 7回実施(外部講師)
  - 学習同好会 … 5回実施(外部講師)

- ・グループ旅行(H27年度は日帰り旅行)  
5 グループ実施(6月～10月)
  - ・その他  
9/30 飯伊地区ゆうあいレクリエーション大会参加  
サンスポート出張スポーツ教室2回参加  
作業棟にてDVD上映会実施など
- \*余暇活動も含めた日中の在り方過ごし方を見直すために、次年度から日中活動係余暇係を統合し、日中サービス委員会としての再編を予定しています。

#### ④ 利用者自治会：和会(なごみかい)

毎月1回、定例会と棟別和会を開催。行事予定の確認、各セクションや係からの連絡、生活の中での要望や苦情の聞き取りを行い、利用者全体の話し合いの場を開催致しました。

##### ○平成27年度 和会行事

- ・4/8 県議会議員選挙期日前投票(12名参加)
- ・4/14 お花見の中で職員歓迎会実施
- ・4月イオン黄色いレシートキャンペーン受取り  
(¥11,500/清拭タオル、食堂の台拭き、バスタオルを購入)
- ・7/29 職員、利用者送別会実施
- ・9/17 長寿の祝い実施(該当者9名)
- ・10月給茶機をユニマットからジャパンビバレッジへ変更
- ・12/28 職員送別会実施
- ・3/29 職員送別会実施

\*男女別棟化に伴い、棟別和会時には同性だと言い辛い意見等の解消のため、男女進行補助職員を各月で入れ替え、利用者さんの意見や苦情をくみ取りやすいように工夫をし、ご利用者からも好評をいただいています。

### (3) 健康管理

嘱託医による毎月の定期健診を基本に、疾病の早期発見と早期治療に努め重症化を少しでも防げるよう日々努めました。努力の甲斐あって利用者の定期外受診及び、入院加療を要するケースも2件ありましたが、確認不測+見逃しというケースとは異なっているかと考えます。今年度は入院、死亡退所のケースは1件も発生することはありませんでした。

年度末に入り下伊那圏域でのインフルエンザ蔓延という状況下、当寮においても、感染症対策と危機管理の徹底は常におこなっておりましたが、職員含めた本体利用者罹患が続出してしまいました。目に見えないものに対する危機管理意識の重要性を改めて思い考えさせられました。

リハビリ指導については、飯田病院リハビリテーション科からの理学療法士派遣依頼を、今年度も年4回実施することができました。1回の指導で十数名程のリハビリ指導を受けてはいますが、生活の中にリハビリ時間を設定定着するまでには正直至っていないのが現状です。個々に合わせた貴重なアドバイスを、如何に利用者の生活に合わせ持続させてゆくか、支援から介護へ変わり始めている現場の継続的な課題の一つとなっています。

高齢化・重度化に加速がかかる中、表面化する前段階での疾病や精神面での不調をキャッチし、安心・安全・安定へと繋げる事ができるのか。嘱託医を中心とした医療機関との連携は勿論ですが、職員自身の観察眼向上と意識改革が継続課題になっています。

#### (4) 食生活

利用者の高齢化に伴い、身体活動の低下、咀嚼・嚥下困難者が増えつつある中で、摂食嚥下状態や食欲の低下が見られる方には食形態の工夫や補助食を提供する等して、栄養状態のリスク上昇防止に努めました。また、偏食で食事が進まない方も居り、その都度個別対応で食事を提供させていただきました。

委託給食になり2年が経ち、給食委託業者とのやりとりも円滑にできているかと思えます。昨年度は、普段の食事については改善点が多いように感じましたが、今年度は様々な面で改善傾向であるように感じます。今年度も、その都度、利用者様からの食事についての希望や苦情に対して、迅速に対応できるよう努めて参りましたが、今後もよりよい食事の提供を目指し、業者側、施設側それぞれで、もう少し努力をしていく必要があるかと思えます。

#### (5) 事故・ヒヤリハット報告

受付総数 137件 (事故81件、ヒヤリ56件)

発生場所	件数	前年度比
食堂	18	-2
居室	21	+11
浴室	1	±0
脱衣室	2	-1
トイレ	9	+3
デイルーム	18	+2
廊下	17	+3
作業棟	5	-2
支援員室	9	+2
医務室	1	±0
玄関	5	+2
通所	3	±0
上記以外建物内	8	+4
建物外	3	-4
G H	6	-2
その他	5	+3
不明	6	±0
合計	137	+19

分類	件数	前年度比	割合
暴力	21	+12	15.7%
転倒	50	+18	37.0%
転落			
ずり落ち			
打撲	5	-2	3.7%
火傷、熱傷	1	+1	0%
切創	12	-3	8.8%
誤嚥	11	+9	8.1%
薬	19	+1	14.0%
物損	11	-2	8.1%
異食	2	+1	0.9%
その他	5	-16	3.7%
合計	137	+19	100.0%

	件数	前年度比	割合
事故	81	-8	59.1%
ヒヤリハット	56	+27	40.8%

・総件数では前年比増加しましたが、ヒヤリ報告は倍増しており「気づき」の醸成が少しずつ進んできている手ごたえを感じています。

・身体状況の低下による転倒（転落、ずり落ち含む）が大幅に増加しています。日常的なリスクアセスメントの実施や介護福祉士によるプロジェクトチームを立ち上げ、転倒事故によるリスクの軽減やヒヤリの段階での検証作業などに参画し、専門性を生かすことで効果的なリスク管理が行えるよう努めています。

- ・転倒の発生要因には身体状況等ご利用者自身に起因するものの他、他害によるものが大きく増加しています（分類別では暴力でカウント）そのほとんどが自閉症や精神科疾患からの行動障害であり、有効な手立てが講じられず支援困難ケースとして対応に苦慮しています。
- ・嚥下機能の低下による誤嚥も急増しており、次年度はPT（理学療法士）の他 ST（言語聴覚士）も新たに招聘し、食に関するリスクマネジメントにも力を入れる予定です。

## （6）苦情・相談受付

苦情受付総数 114 件(H26 35 件) ※ SS…短期入所 TC…タイムケア・日中一時 GH…グループホーム

項目	件数 (重複有)	主な内容
支援内容	57	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とって寒かったから「寒いから服を着せて」って言ったのに、「それ以上何を着るの?」と言われた。見ただけでそういうんじゃないで、ちゃんと確認して、私の体感に合わせた、気候にも合った服を着せて欲しい【職員代弁】</li> <li>・「自分たちはいつも職員の言うことを聞いているのに職員はいつも人が少ないからと言って聞いてくれない」（掌握職員がいないことでやりたい活動を制限させていただいた際のつぶやき）（入所利用者）</li> <li>・【連絡ノートより】「薬だけはきちんと飲ませてください」とあり（SS 家族）</li> <li>・【棟別和会】火曜日にカレーが多くて、仕事でいない日ばかりだから残念。曜日を変えてほしい。（入所利用者）</li> <li>・【利用記録簿】昨日頂いた広報誌ですが、表紙にしっかり T が写っています。今は事前に了解を得るのが常になっていますが、何のお話もありませんでした。特に悠生寮のものは喬木村内に回覧されますのでお願いします（通所家族）</li> </ul>
設備・環境	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【定例和会】北棟東側トイレに女性用便器が 2 つしかないから不便、もう 1 つ作ってほしい（入所利用者）</li> </ul>
職員	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時計の購入と電気カミソリの網の交換をお願いしてあるがまだやってくれない（入所利用者）</li> <li>・【職員の印象】 会議室が使われており、応接室を使ってくださいと言われカギを開けてもらうのをお願いしたところ、開け閉めがめんどうだから支援員室を使ってくださいと言われたのが残念に思いました。（実習生）</li> </ul>
他利用者	30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夕食を部屋で食べていたら Y さんが入ってきて僕のご飯を食べてしまった。やめて欲しい【職員代弁】</li> </ul>

要望レベル…35 件

・受付総件数は前年度比倍増（+64 件）ですが、自治会（定例、棟別）での発言など、ベーシックな方法での受付が圧倒的に多く、又、同一者による申出や経常的な申出が多くを占める状況です。日常生活の中での直接的な聞き取りや職員の「気づき」からの代弁などが増えることが望ましいと考えています。又、自発的な発言を引き出すための環境作りや関係作りも重要課題となっています。

・内容別では男女別棟化による設備面（トイレ）の不便さや環境の変化（畑が遠くなった）などの苦情やご家族や関係機関に対する接遇マナーへの苦情、支援員不足によるサービス低下への苦情等が寄せられました。設備面については緊急性を検証しつつ必要に応じて整備を進めること、接遇マナーについては引き続き権利擁護関連の研修やセルフチェック等で意識の向上を図っています。また、良質なサービスの維持については業務の見直しによる効率化の推進に努めて参りました。

・9月を「権利擁護推進月間」とし「優しい言葉で話しましょう」をスローガンに日頃の接遇態度など支援姿勢の振り返りの機会とし、併せて「行動規範セルフチェック」を実施しました。  
5月、9月に「権利擁護と虐待防止」の職内研修を実施しました。

申出者	件数
入所利用者	73
CH入居者	4
SS、TC利用者	1
通所利用者	2
入所家族	7
GH家族	0
SS、TC家族	6
通所家族	8
第三者委員、職員代弁	8
その他	4
合計	114

### （7）身体拘束・抑制

- ・本体利用者については、現在もゼロを継続しています。
- ・行動障害や精神障害のある利用者の職員、利用者への暴力行為などに対処するため、居室への隔離などの行動制限を検討せざるを得ないケースが出てきており、必要性の判断を迫られています。
- ・通所及び短期利用者2名については、車椅子の安全带(男性:26歳 重度心身障がい)とオーバーテーブル(女性:24歳 知的・身体障がい)を使用していますが、ご家族の希望によるものです。ただし、ベルトやテーブルをしたまま、長時間放置することは身体拘束と判断されるため、体位交換やベッドへの移乗など一時性、代替え性に留意をしています。

### （8）通所

- ・利用者は平成28年3月末現在、男性15名、女性6名。月・水・木・金曜日に入浴支援実施（自立訓練棟なごみの家使用）。送迎は20名が利用しています。
- ・日中の活動内容生活訓練として、アルミ缶・農場・竹炭生産・焼酎用さつまいもの栽培・廃品分解・牛乳パック切り等に従事しています。
- ・年2回の通所部家族懇談会を開催し、家族との連携を図っています。
- ・日中活動以外にも本体の行事への合流参加（お花見・夏祭り・りんどう祭等）や、通所独自に誕生日会や昼食付ドライブ外出等も計画・実施し、社会経験・生活体験を積む良い機会になりました。そしてまた、御家族等のニーズに応じて、一泊二日でのディズニールランドへの旅行や近隣への宿泊付小旅行にも行っています。
- ・利用者のニーズから土曜日、祝日に開所し、廃品回収や昼食外出、おやつ作り等を日中活動として行なってきました。これについても、同様に社会経験・生活体験を積む機会になっていたと思います。
- ・年2回送迎職員スタッフミーティングを開催し、送迎職員の接遇の向上、安全運転の推進を図っています。

#### ・支援体制

通所部長（サービス管理責任者）1名 生活支援員6名 移送スタッフ5名

#### \*課題

- ・自立訓練棟なごみの家を活用することで、人がひしめき合う状況を改善したいが現実には至っていない状況です。
- ・27年度実施してきた旅行等は、費用面や職員体制から内容の見直しをし、今後、買い物や食事

外出等を中心とした生活体験の実施を考えていきたいと思えます。

## (9) 共同生活事業部

平成 27 年度はこれまでになく入退去・入退院・介護保険の併用等の動きの激しい年度となりました。定員 26 名中 23 名で運営を開始しましたが、利用者さん同士の間関係上の課題から 5 月にお一人、別の法人のホームへ転居、もうお一人が 7 月に地域移行(単身のアパート生活への移行)となりその移行支援を行いました。また昨年度中に圏域内行政からの依頼により給付措置を受けない方の入居の受入を行いました、その方も 6 月には退去となりました。その後 2 名の方の受入を行い、22 名での運営となりました。

平成 27 年度も昨年度に引き続き「利用者支援の質」に重点を置き、世話人会議を活用し、より個人に合わせることに重点を置き話し合いを行いました。その中で入院加療に対する対応、介護保険との併用、発達障がい系の方への対応等より個別性が高い支援が求められ、日中支援加算をより活用する状況が生まれています。

また防災面でも継続して、より具体的な場面設定の中で特に「世話人等支援者不在時にどのような対応をとるか」に重点を置き利用者さんと話し合いや訓練を行いました。

また、これまで認定区分であった方々が支援区分への変更になり、区分が上がったことで生活支援員配置時間がより多くなった年度でもありました。この点も、サービス利用計画との連携の中、ホームの日中支援等個別の支援がより多くなったところでもありました。

成果としては日中支援対応によるより利用者のニーズに沿った支援の展開が叶いました。

防災体制の整備は実際に起こる災害を見ても今後も大きな継続課題です。又、高齢化・要介護化の進む利用者さんの暮らしを支える為の新規 GH の建設とそれを支える支援体制の構築も大きな課題です。

## 2. 施設運営の状況

### (1) 利用者の状況

H28. 3. 31 現在

#### ①施設入所支援( 定員 50 名・現員 49 名)

退所利用者 1 名 (H27. 7. 28 自宅復帰)

入所利用者 なし

平均利用者数 48.9 名/日

#### ②生活介護( 定員 60 名 ) H27. 11 月より定員 60 名に変更

施設入所支援併用 49 名 21 歳から 87 歳

生活介護通い 21 名 23 歳から 83 歳

平均利用者数 59.7 名/日

#### ③共同生活事業(定員 26 名・現員 22 名)

くりんそう：定員 4 名・現員 4 名 さくらそう：定員 3 名・現員 2 名

杉戸ハイツ：定員 6 名・現員 6 名 新賀ハイツ：定員 6 名・現員 6 名

すみれそう：定員 7 名・現員 4 名

\*年度途中、3 名退去 2 名入居しました。

\*通所先 生活介護事業所：4 事業所 就労継続 B 型事業所：6 事業所 共同作業所 1 事業所  
その他：3 事業所

#### ④短期入所事業他タイムケア等

ショートステイ：実人数 118 名/年 利用日数 1,027 日

タイムケア 等：実人数 287 名/年 利用時間 3,081H



## (2) 防災

例年火災や地震を想定した訓練を実施していますが、勤務年数の比較的短い職員が多く訓練時の避難誘導の動きや訓練自体の意識などに経験の乏しさがみられます。また、訓練自体もマンネリ化しており、今後利用者の重度高齢化や通所・GH・短期入所等の事業拡大に伴う、有効かつ効率的な訓練方法の確立が課題となっております。

今年度は各種災害時の対応表を作成し、職員への周知と各支援室への掲示をする事で職員の防災意識の向上を図っております。

### ①入所・通所事業部

- ・ 合同防災訓練（伊久間区会防災協定に基づく） 5/16(土) 参加者 106 名  
区・赤十字奉仕団・消防団・広域消防
- ・ 地震総合防災訓練 9/9(水) 参加者 79 名  
職員・入所利用者・通所利用者
- ・ 夜間想定避難誘導訓練 及び通所通常訓練  
・ 1/27(水) 参加者 55 名  
対応職員 5 名・利用者 検証職員 6 名  
・ 3/23 (水) 参加者 53 名  
対応職員 2 名・利用者 検証職員 6 名

### ②共同生活事業部

7 月世話人会議にて、地域支援部会資料を使った福祉施設の防災についての研修と訓練実施

9 月 喬木村内ホーム地区合同防災訓練参加

飯田市内ホーム毎地震想定訓練実施

\*毎月 15 日に防災チェック表記入実施

## 3. 施設整備

昨年は例年になく暑く長い夏であったため、各居室へのエアコンの設置について、ご利用者より要望を取った結果、6 機購入することになったことから、電気配線整備を行って居住環境の向上を図りました。

しかし、近年の電化製品導入量が多くなったため、電気使用許容量が限界となったことから、平成 28 年度当初にキューピタルキューピタルの改修工事が急務となっております。

### 【主な購入物品等】

施設整備の品目	金額	備考
SSR トイレ修繕	226,800	部品製造がなく修理不可能のため取替え
床暖房用ボイラー不凍液交換	1,404,000	長年の使用により多量の鉄分が含まれているため、機械を損傷する可能性あり
利用者居室エアコン用電気設備改修	496,800	エアコン設置に伴う電気配線工事
電話設備修繕	108,000	無停電電源装置の故障により更新
作業棟エアコン更新	399,600	当寮開設当時からの設備であり、耐用年数が経過し、性能も低下しているため更新
食堂用食器の更新	128,692	深皿、クリスタル小鉢、ベビースプーン

		各 120 個 (枚)
ガス乾燥機更新	1,090,800	耐用年数経過し故障多いため更新
防災監視盤の更新	1,393,200	落雷の被害により使用不能となったため なお、損害保険金あり
脱衣室エアコン更新	194,000	耐用年数が経過し、性能低下のため更新
公用車更新(中古車)	630,000	H11 年式作業用軽トラックが経年劣化により使用不能となったため、中古車を購入
長尺シート購入	561,600	衛生面向上のためカーペットから塩ビシートに変更
非常食品の購入	176,048	賞味期限経過のため、8 品目の更新

#### 4. 人材育成・職員研修

今年度も「人権意識」「危機管理」「感染症対策」を重点目標に掲げ各種研修を実施しました。「人権」に関しては9月を「権利擁護推進月間」とし「優しい言葉で話しましょう」をスローガンに日頃の接遇態度など支援姿勢の振り返りの機会とし、併せて「行動規範セルフチェック」を実施しました。

5月、9月に「権利擁護と虐待防止」3月は障害者差別解消法施行に合わせての職内研修を実施しました。

又、今年度は感染症対策として、食中毒対応含めて計3回の講習、実技を実施し予防、対応策の強化に努めました。

##### 【27年度研修実績】

職場内研修	8回	・権利擁護、虐待防止、差別解消法・成年後見制度研修 ・安全運転適性検査・防災研修・地震防災訓練・感染症対策3回
経常・広域専門研修	11件22名	・全社協・県社協・県知障協主催・飯田交通安全協会・飯田広域消防・県介護福祉士会「介護と菓」・食機能を考える会
法人主催研修	5件8名	・新採用職員事前研修・新採用職員集合研修 ・危険予知訓練現任研修・ミドルマネージャー現任研修 ・介護技術講習
資格取得	2件3名	・相談支援従事者初任者研修1名（修了者計5名） ・相談支援従事者現任研修 ・サービス管理責任者(生活介護)2名（修了者計5名） ・サービス管理責任者(地域)対象者なし（修了者計5名）

## 5. 地域支援・交流

### (1) ボランティア・地域交流の状況

#### ①ボランティア

・平成 27 年度ボランティアの受入人員は以前に比べ行事の縮小化もあり受入人数が前年度とかわらずでした。

・同好会活動・行事準備・清掃・催し物の開催・理美容など活動の内容は多種多様に及んでいます。

活動内容) 環境整備

個人ボランティア		1 名	
訪問催事			
9/5 株式会社中村		26 名	
同好会			
学習 (行事前開催)		1 名	
お花 (各月 1 回)		1 名	合計 29 名
その他			
移動図書 (各月 1 回)		1~2 名	

#### ②地域交流

・恒例の喬木中央保育園とのサツマイモ交流会を実施。今年度より、年間通して 1 回の交流会とし今年度は 10/15 (園児 23 名・先生 2 名) 苗植えを実施しました。10 年以上続く地域交流事業として定着しています。

・サマーチャレンジボランティア講座を喬木村社会福祉協議会と合同で 3 回開催し、入門から参加へと段階的な講座内容にして行いました。村内関係団体との連携強化や次世代育成に地域の社会資源として貢献しています。

第 1 回 8/4 (学生 名先生 2 名) 社会福祉協議会

第 2 回 8/5 (学生 13 名 先生 1 名) 悠生寮会場・第一体育館

第 3 回 8/6 (学生 8 名先生 1 名) 人形劇フェスタ喬木公演参加

### (2) 短期入所・タイムケア事業

短期入所及びタイムケア・日中一時支援の受託を次のとおり行なっております。H27 年度も継続して日中生活介護利用者の方の利用が主になっております。

本体利用者の重度化、介護度の増大が継続しており、利用申し込み方法の統一と共に年末年始の事業休止の実施を H27 年度も継続しました。

昨年度利用開始した在宅の定期的な短期入所利用の方の継続利用につなげられたことは成果と捉えています。

課題としてはより多く利用したいという希望にお応えしかねる状況があり、現状維持をお願いしております。また新規の方の利用についてはお受けできない状態が継続しております。実績は右表を参照。

月	SS 実人数	SS 利用日数	TC 等 実人数	TC 等 利用時間
4	10	85	25	260
5	11	84	24	277.5
6	10	82	23	246.5
7	10	81	25	275.5
8	10	82	21	245.5
9	10	84	23	221
10	11	92	25	320
11	9	80	26	295.5
12	9	91	24	273
1	9	94	24	220.5
2	9	82	24	240.5
3	10	90	23	205.5
計	118	1027	287	3081

### (3) 相談支援事業

平成 27 年度は新たなサービス利用契約は無く、これまで受託している方のモニタリングを中心に実施しました。

必要な場面でのタイムリーなモニタリングが実施できたことは成果です。

兼務の中で行うこともあり、本来国が指定するモニタリング期限を越えてしまうことも多く最低限というところも否めない状況がありました。兼務者間での業務分担の見直しが課題となっております。

## 6. 利用者家族・家族会との連携

環境整備（剪定、整地、棟内掃除など）、活動については入所、通所双方のご家族に大勢参加して頂きました。長年に渡り行ってきた竹取作業は炭焼き作業の縮小と会員の皆様の高齢化もあり実施しませんでした。漬物会は、調理業者委託に伴い中止となりました。2 月の環境整備活動では、昨年に続き寮西側に育った樹木の伐採を実施しました。

通所では、通所家族懇談会を開き家族からの要望や思いなどを聞き取る良い機会となっております。

帰省については利用者の意向を元に、ご家族のご都合と調整をさせていただいていますが、家庭環境の変化や諸事情(家族の高齢化・利用者の身体状況の変化含め)により、帰省困難な家庭が年々増加している傾向にあります。施設としては面会の依頼・職員付添訪問・家庭通信(利用者の近況写真添付)の送付・近況をご連絡するなど、ご家庭との関係作りには個別の対応をさせていただいています。

#### ・入所利用者 身元引受人の状況

[平成 28 年 3 月 31 日現在]

	父	母	兄	姉	弟	妹	義兄	義姉	義弟	義妹	甥	叔父	その他	市村長	計
男性	3	2	4	4	4				1		2	1	2		23
女性	2	1	6	1	5	2	1	1			3	1	3		26
計	5	3	10	5	9	2	1	1	1		5	2	5		49

#### ・通所利用者 身元引受人の状況

[平成 28 年 3 月 31 日現在]

	父	母	兄	姉	弟	妹	義兄	義姉	義弟	義妹	甥	叔父	その他	市村長	計
男性	10	3			1						1				15
女性	4	1		1											6
計	14	4		1	1						1				21

・家族会総会 4/25 通常総会 21 名

2/13 臨時総会 18 名

・環境整備 10/3 環境整備 16 名 12/6 環境整備 15 名

2/13 環境整備 18 名

・行事 4/14 お花見 1 名 7/25 夏祭り 2 名 10/10 りんどう祭 5 名

・その他 7/10-11 家族会連合会総会(上田)5 名

7/18 通所家族懇談会 6 名

8/29 家族会交流会(昼食会) 18 名

帰省利用者 … 春 12 名、夏 13 名、冬 15 名 (日帰り帰省を含む)

## 7. 利用者の状況

### (1) 利用者の動向

#### ・入退寮者

入寮者        なし

退寮者        y.y.     (男性 平成 27 年 7 月 29 日 退所)

#### ・利用者の年齢構成、在寮年数、障害、介護の状況

平成 28 年 3 月 31 日現在の利用者平均年齢は 64.3 歳であり、最高年齢は男性 83 歳、女性 87 歳、最低年齢は男性 21 歳、女性 40 歳となっています。

#### ①入所利用者

##### ・年齢構成

H28. 3. 31 現在

年 齢	18～19	20～29	30～49	50～59	60～69	70 以上	平均	計
男 性	0	4	0	3	8	8	60.3	23
女 性	0	0	1	2	11	12	68.3	26
計	0	4	1	5	19	20	64.3	49

##### ・在寮年数

在寮年数	1 未満	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15 超	平均 15 年	計
	人員	0	3	3	2	1	2	1	2	0	0	3	0	2	1	2	29	

##### ・障害支援区分

障害支援区分	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	平均	計
男 性	0	0	0	4	9	10	5.26	23
女 性	0	0	5	6	6	9	4.73	26
計	0	0	4	11	15	19	5.00	49

#### ②通所利用者

##### ・年齢構成

年 齢	18～20	21～30	31～40	41～50	51～60	61～	平均	計
男 性	0	9	2	0	2	2	38.4	15
女 性	0	3	1	1	0	1	37.7	6
計	0	12	3	1	2	3	38.1	21

##### ・障害支援区分

障害支援区分	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	平均	計
男 性	0	0	2	4	3	6	4.87	15
女 性	0	0	2	1	1	2	4.50	6
計	0	0	4	5	4	8	4.69	21

③共同生活事業部

・年齢構成

年 齢	29 以下		30～49		50～59		60～69		70 以上		平均	計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		男	女
くりんそう		2						2			44.5		4
さくらそう					1		1				59.0	2	
杉戸ハイツ			3				2		1		54.2	6	
新賀ハイツ		2		1				2		1	50.8		6
すみれそう				1				2	1		61.3	1	2
小 計	0	4	3	2	1	0	3	6	2	1		9	12
合 計	4		5		1		9		3		53.2	21	

・障害支援区分

障害支援区分	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	平均	計
くりんそう	0	1	1	1	1	3.5	4
さくらそう	0	1	0	1	0	3.0	2
杉戸ハイツ	0	2	4	0	0	2.7	6
新賀ハイツ	1	2	2	1	0	2.5	6
すみれそう	0	2	1	1	0	2.7	4
合 計	1	8	8	4	1	2.81	22

(2) 利用者の健康管理と保健衛生

①定期健診

項 目	回 数	項 目	回 数
血 液 一 般	年 1 回	検 尿	年 1 回
心 電 図	年 1 回	身 長	年 1 回
胃 検 診	年 1 回*	体 重	月 1 回
結 核 検 診	49 名	血 圧	月 1 回
胸 部 レ ン ト ゲ ン	年 1 回	嘱 託 医 内 科 健 診	月 1 回
婦 人 科 ・ 乳 が ん 検 診	2 名*	腹 囲	年 3 回
ヘルスクリーニング結果		チ ェ ッ ク 者	48 名
		再 検 査	10 名
		要 治 療 者 (新 規)	0 名

\*Dr. 指示にて実施

②疾病状況 (慢性疾患)

科 名	病 名	人 数	科 名	病 名	人 数
内 科	脂質異常症	11	精 神 科	心因反応	2
	心不全	1		癲癇	12
	慢性腎不全(透析期)	1		統合失調症	6
	気管支炎	3		周期性感情障害	2
	洞不全症候群	1		その他の精神病疾患	7
	逆流性食道炎	10		癲癇性精神障害	2

内 科	肺気腫	2	精 神 科	アルツハイマー型認知症	1	
	糖尿病	8	神 経 内 科	脳性麻痺後遺症	2	
	深部静脈血栓症	1		慢性多発性筋炎	1	
	貧血	5		小脳変性症	1	
	慢性頭痛	1		大脳白質脳症	1	
	過敏性腸症候群	1		頸性対麻痺	1	
	甲状腺機能低下症	2		脳炎後遺症	1	
	心房細動	5		整 形 外 科	変形性肩・膝関節症	6
	洞性頻脈	1	変形性脊椎症		2	
	慢性肝炎 (C型)	1	頸椎損傷		1	
	狭心症	3	腱鞘炎		2	
	低血圧症	2	坐骨神経痛		3	
	高血圧症	15	肩関節周囲炎		3	
	高尿酸血症	2	骨粗鬆症		1	
	内 科	慢性便秘症	26	泌 尿 器 科	前立腺肥大症	6
		慢性胃炎	10		慢性膀胱炎	6
	外 科	腸閉塞	4		水腎症	2
		乳がん術後	1			
	婦人科	子宮がん術後	1	眼 科	白 内 障 (術後含む)	12
			緑 内 障		2	
脳外科	脳梗塞後遺症	1	耳 鼻 科	慢性外・中耳炎	2	
					206	

### ③入院状況

No.	氏名	病名	病院名	入院	退院	延日数	備考
1	R・O	慢性腎不全 シャント閉塞	健和会病院	H27. 6. 8	H27. 6. 24	17日	71歳 透析開始～20年目
2	H・S	統合失調症	飯田病院	H28. 1. 6	年度末 入院継続	86日	暴力行為＋ 閉鎖病棟 (保護室)

### ④通院 (疾病) 状況

科 別	延人数	実人数
内 科・小 児 科 系	248	31
精 神・神 経 科 系	117	25
外 科・整 形 外 科 系	17	8
耳 鼻 咽 喉 科 系	8	1
婦 人 科 系	3	1
皮 膚 科 系	11	5
眼 科 系	25	13
歯 科 系	177	22
そ の 他	16	5

⑤感染症状況

- ・インフルエンザB型 利用者10名罹患（職員5名罹患）  
（2/24・3/25～4/11終息）

⑥介 護

介護内容	人数	介護内容	人数
車椅子使用者	6	食事介助者（一部介助含む）	11
歩行器等使用者	8	入浴介助者（一部介助含む）	45
聴覚障害者【補聴器など】	7	洗濯介助者（一部介助含む）	46
ペースメーカー使用者	1	排泄介助者【オムツなど】	33
腎透析者【病院送迎】	1	リハビリ対象者	26
歩行介助者	12	起床、就床介助者	36
弱視者	5	口腔衛生介助者	36
精神症状（多動、不眠など）	26	定時健康観察者【血圧、体温、内服介助】	45
吸入器	0	身体拘束	0
体位交換	7	留置カテーテル	5

【実人数 49名】

（3）利用者の食生活健康管理

- ・平成27年度食事内容一覧

1. 食事形態別分類

日 内容	月	月日	
		H27. 4. 1	H28. 3. 31
主 食	一般食	45	42
	軟食	4	4
	流動食	1	2
副 菜	一般食	21	20
	一般食さざみ	19	21
	軟菜	0	0
	軟菜さざみ	7	4
	とろみ・みそ汁・ゼリー食	3	4
禁食		0	1
経管栄養食		0	0
入院		0	0
合計		50	49

2. 特別食事分類

内容	月日	月日	
		H27. 4. 1	H28. 3. 31
医師の指示によるもの	カロリー制限食	4	4
	減塩食	1	1
	補食	2	3
	糖尿病食	5	4
	高血圧食	1	1
	腎臓病食	1	1
	透析食	1	1
	肝臓病食	0	0
	脂質異常食	4	4
	潰瘍食	0	0
	イレウス食	0	0
	貧血食	0	0



## 8. 職員の状況

### (1) 常勤職員 32名

新規採用者	生活支援員	1名(女性)	H27. 4. 1付
	事務員	1名(女性)	H27. 10. 1付
退職者	生活支援員	1名(女性)	H27. 9. 30付

### (2) 非常勤職員（短時間労働職員） 20名

新規採用者	生活支援補助	1名(女性)	H27. 4. 3付
	送迎担当	1名(男性)	H28. 3. 17付
退職者	生活支援補助	1名(女性)	H27. 7. 31付
		1名(女性)	H27. 12. 31付
	世話人	1名(女性)	H28. 12. 15付
	送迎担当	1名(男性)	H28. 3. 31付

### (3) 職員全体 53名

(H28. 4. 1)

区分	入所	通所	GH	計	男	女	支援員 (男)	支援員 (女)	事務 医務	その他
正職員	21	3	5	29	13	16	8	10	4	7
準職員	2			2	2		2			
雇員	1	1	1	3		3		2	1	
臨時職員										
常勤職員計	24	4	6	34	15	19	10	12	5	7
パート職員	4	2		6	2	4	2	4		
送迎職員		5		5	5					5
世話人			8	8		8				8
非常勤職員	4	7	8	19	7	12	2	4		13
合計	28	11	14	53	22	31	12	16	5	20

## 平成27年度 はらむら悠生寮事業報告

### 概 要

27年度は数年来の懸案事項であった第二作業棟建設に着手することができました。紆余曲折ありましたが28年1月15日から通所事業が始まりました。新しい施設ははらむら悠生寮の玄関前に立つシンボルツリーの櫨の木にちなんで「けやき」と命名しました。

1. 開設以来、22年が経過しました。利用者の最高年齢は、男性84歳、女性82歳。最低年齢は、男女ともに22歳。平均年齢は、男性65.8歳、女性61.3歳、平均63.6歳。  
利用者の動向は、4月に男性、8月に女性、9月に男性、がお亡くなりになりました。いずれも当施設内で看取りをさせていただきました。  
5月1日、短期入所利用を続けていた茅野市の男性が入所され、10月1日、男女2名の方が入所されました。(男性はGH悠楽から、女性は相模原のGHから⇒支給の実施者は岡谷市)
2. 施設入所支援では3名の利用者が亡くなり、欠員補充まで多少の時間を要したことなどのマイナス要因はありましたが、定員50名のところ1日平均約48.8人(年間利用率97.6%)の利用があり、昨年度(48.3人/96.7%)に比べ微増の結果でした。
3. 生活介護事業は60名定員に対して1日平均利用60.8人、年間で101.3%の利用がありました。諏訪圏域の特殊事情もあり利用ニーズは益々高まっています。一方で通所及び短期等の利用者の障がいが高く事故や他害の可能性など、入所利用者と共存できない現実もあったり、長期にわたって短期入所サービスを利用していた方が入所に転換するなどの事情もあり、数字の上では昨年度に比べ若干の減少もみられています。昨年度(61.3人/102%)
4. 年々増加する生活介護利用者の日中の活動場所の確保が課題となり、具体的に通所棟建設の計画が持ち上がってから数年が経過しましたが、ようやく今年度の事業として6月に着工に至りました。工事は順調に進み11月末に完成しました。完了検査で既存の本体施設に建築基準法に抵触する問題が発生してしまい通所棟を使用できない事態となりましたが、仮使用申請を行い約1ヶ月遅れで通所棟を利用した事業がスタートしました。主に発達障がいのある方々の活動の場として利用をいただいています。
5. 生活介護及び短期入所を利用される方は発達障がいのある方が多く、介護技術を要することが多い入所利用者と障がい特徴に差異があり、発達障がいのある方々の気持ちを汲み取った支援を図っていくということが、ここ数年、当寮にとっての懸案事項でした。2年前、特別支援学校で教鞭を執られていた方を雇用したことを皮切りに、各種研修に複数名職員の派遣を行い、内部においては発達障がい研究チームを立ち上げ、発達障がいに対する支援技術の向上を図った結果、27年度は環境や視覚の構造化を取り入れた支援が進み、少しずつですが目に見えて結果が現れています。
6. 作業室にエアコンを設置する計画段階で、対象となる三相変圧器の容量不足、及び三相変圧

器を含めた周辺の高圧ケーブルなどの電気設備が、製造から 20 年が経過し改修の必要性が指摘され、キュービクル内と構内第 1 柱に付設されている計 8 個の電気設備の取替工事を行いました。また本体作業室に念願のエアコンの設置工事を行いました。大勢の利用者が一堂に会して活動を行う場所で、夏場になると毎年のように熱中症など利用者の体調管理が課題になっていましたが、エアコン設置が叶い快適な活動環境になりました。

7. グループホーム悠楽は、平成 30 年の秋まで賃貸契約をしていますが、地主からの土地及び建物の売却の申し出がありました。建物は築 28 年を経過し老朽化していること、またスプリンクラーを経過措置期限の平成 30 年 3 月 31 日までには設置完了の必要があり、家屋の建て替えを想定した必要な情報収集、および具体的な図面作成等に着手する予定です。

## 1. 支援サービス

### (1) 日中活動

暮らしの中の楽しみや喜びに着目し、軽作業を提供しています。利用者の皆さんのニーズを汲み取りながら障がい種別や年齢に合わせた活動ができるように調整をしています。通所部（けやき）が開設したことで、通所利用者の方々にも各種活動を提供することができています。また人間関係に配慮し安心して活動に取り組めるようにスペースの調整をしています。

1) 成果 日中活動を提供することで、仲間との交流や、皆さんがやりがいと責任感を持って取り組むことができます。日中活動によって生活にメリハリをつけ、適した生活リズムをもっていただくことにも良い影響を与えていると思います。また日中活動へのモチベーション向上のために、個人個人のニーズに応じて様々な活動を提供しております。達成感、感動を味わっていただけるように、年に 2 回作業賃金の支給を行いました。また、各種作品の販売を委託する販売店の確保は、地域との繋がりを維持しているという側面もあります。

2) 反省 利用者さんの高齢化や身体機能の低下により、活動に制限が出てきています。屋外作業所で作業できる方も、通所利用者さんが大半を占めています。薪作業等は特に本体職員が中々作業に関わることができず、通所職員に任せきりになってしまいました。来年度の検討事項としたいと思います。来年度は建築基準法に抵触している木工作业室の解体を予定しているため、活動場所の検討が必要になってくると思います。

<活動別実施状況・利用者参加状況等資料>

(参加人員重複あり)

活動種別	内容・行程等	実施状況	人員	備考・収入等
手 芸	花布巾...下絵・刺繍・アイロン等	通年実施 終日活動	7	(個人作品含) 収入 148,800 円
ハガキ	紙ちぎり・はがし・攪拌・漉き等	通年実施 終日活動	6	収入 72,810 円
農園芸	野菜作り・収穫・除草・環境整備等	4月-11月 終日活動	5	収入 108,071 円
木 工	花台作り...サンドペーパー磨き等	通年実施	2	収入 23,700 円
	薪作り...板の裁断、割り、タガ詰め等	終日活動	5	収入 89,420 円
ハウスキーピング	洗濯・新聞・掃除・ウエス作り等	通年実施	6	

その他	個別活動（居室での余暇・見守り他）		8	
	作業室（余暇・要支援者等）		9	
実習	パパゲーノ実習	週1回	2	1h300円
セルフ	チラシ・牛乳パック収集	不定実施	3	収入 2,484円
	県福祉大掃除	月1回	7	収入は個人 1T≒5,000円
アルミ缶	空き缶回収 缶の選別・空き缶つぶし	通年	2	収入 42,174円
受託作業	かりん磨き	冬期	10	収入 23,393円
地域貢献活動	地域清掃・美化活動（ゴミ拾い）	5回		延べ45名参加

バザー売り上げ りんどう祭バザー 57,450 ハヶ岳バザー 2,850 合計 60,300

合計 571,152円 (26年度 587,616円)

### 主たる提携店舗等（販売先等）

店 舗 名	販売品・内容等	備 考
縦の木荘・もみの湯	ハガキ・花布巾・木工花台	村内保養・宿泊施設
諏訪中央病院売店	ハガキ・花布巾	
ストーブハウス	ハガキ・薪・花布巾	薪ストーブ販売店
榊日清医療食品	食材補助として野菜を納入（販売）	食事委託業者
パパゲーノ	実習先（週1回1～2名が参加）	村内パン工房
長瀬商店	ハガキ・花布巾・木工花台	衣料品販売店
原田商店	かりん磨き（受託作業）	秋期季節作業
林金属（株）	アルミ缶納入先	諏訪市内リサイクル業者 持込
両角木材	木工作品・薪材料提供先	無償
メリーパーク（マルエー）	空き缶回収	無償

収穫祭（10月）、ご苦労様会（3月）、慰労会（随時：各活動班）おやつ作り（随時）

## (2) 余暇活動

### ①土曜教室

開催回数 20回

班 名	所属人数	主な内容
美術班	11	書道・版画彫刻・自由画など
趣味班	8	花布巾縫い・折り紙・パズル挑戦など
音楽班	28	りんどう祭発表を目指したコーラスの練習・季節の歌など
造形班	9	押し花を使用したはがき作り・自由画・カレンダー作りなど
手芸班	3	ベスト・帽子・座布団カバー等の作品づくり

### ②同好会活動

生花同好会 開催回数 11回

紙芝居訪問 開催回数 11回

1) 成果 土曜教室などは皆さんの楽しみであり多くの方が参加しています。月に1回の紙芝居訪問なども楽しみになっているようです。生け花では原村文化祭、りんどう祭へ展示し多くの方に観ていただくことを楽しみに活動しています。個々の余暇活動はパズルやDVD観賞に興ずる方も多くみられました。漢字練習ノートに向かう方々もいます。

土曜教室では趣味班に新たにボランティアの方が入ってくださるようになり活気が出てきました。

- 2) 反省 高齢化に伴い、参加していただける同好会などが少なくなってきました。寮内でも楽しめるような催し物などを考えていく必要があります。旅行などに参加できない方のためにも楽しめるイベントなどの検討が必要となってきました。

### (3) 自治会活動

毎月第1月曜日に自治会定例会を開催し、当月の予定や連絡事項について周知及び検討をしています。また、苦情や日々の困りごとについて意見を聴き、生活の見直しをしています。今年度は権利擁護やマイナンバー制度など、テーマを設けて勉強会を数回行いました。

歓送迎会や敬老会など自治会主催の行事を計画し実施しました。

- 1) 成果 自治会定例会は、利用者の皆さんからの意見や苦情を聴く機会として有効な時間となっています。

勉強会では難しいテーマについて、利用者の皆さんに分かり易いように表を用いるなど工夫しながら説明しました。

- 2) 反省 発言をする方が限られ、同じような内容の意見が繰り返し出されることも多くあります。より多くの方の意見を聴き、出された意見について皆で考える機会をつくることも必要となっています。

### (4) 健康管理

通院状況は、今年度実人数 155 名・延人数 642 名、昨年度とほぼ横倍の状況でした。入院状況は、同一利用者が複数回入院する傾向にあり、入院人数 18 名（実人数 12 名）、日数 424 日間と昨年 613 日間より減少しています。

- 1) 成果 結核健康診断補助金申請と健康診断については昨年同様に行い、施設の経費削減に努めています。嘱託医指導の下、インフルエンザの簡易検査を施設内に準備しました。平成 27 年度は使用する事態がありませんでした。

- 2) 反省 感染症流行時期（10～3 月）の重度心身障害児者の生活介護受け入れを休みとしたこともあり利用は減少しています。他、見学希望はありますが、利用に結びつきません。

### (5) 食事

- 1) 成果 毎月、調理委託業者と連絡調整会議(食生活委員会)を開催し、利用者から聴き取った希望や施設の意向等が反映されるよう調整しています。また、行事食以外に、季節感のある食事や珍しい食事等が味わえる企画があり、月 1～2 回程度普段とは違う食事を楽しみました。献立作成については必要に応じて看護師及び担当職員と共に随時見直しをしながら、食事量や調理法の変更依頼等の調整を行いました。また、疾病等を持っている利用者については、各主治医の指示(食事箋)により個別性を優先した特別食や、咀嚼、嚥下等の状態に合わせた個別対応食も日清の協力があり提供できました。

安全かつ快適な食環境を提供するため、開所当初から使用しているテーブル 2 台と、椅子 13 脚を新しい物に入れ替えました。

衛生管理についてはマニュアルの順守と日常の健康管理等を重視し、調理委託業者を含め食中毒防止等に努めました。

- 2) 反省 車椅子利用者の増加により、食堂の手狭感や混雑感が増しているため、食事席の見直し等の対策が必要になってはいますが、利用者のこだわりや希望等もあり、なかなか

検討、改善にまでは至りませんでした。

検食簿はその後の食事内容につながる大切な情報源ですが、未記入や特定職員のみ  
の記入に偏るなど共通認識が依然として不足している状況です。また連絡調整会議  
(食生活委員会)資料は利用者の感想等の羅列中心で、食生活の課題に視点を当てる内  
容ではないため有効活用されませんでした。そのため、次年度より構成内容を変更す  
ることとしました。

## (6) 事故・ヒヤリハット報告

受付総数 478 件 事故 404 件/ヒヤリ 74 件 [参考 H26年 総数:374 事:302 ヒ:72]

発生場所	件数	前年度	分類	件数	前年度	割合(%)
食堂	58	55	他害	147	176	30.8
居室	40	28	転倒	92	57	19.2
浴室	13	10	転落	28	10	5.9
脱衣場	2	6	ずり落ち	0	0	0
トイレ	23	22	打撲	29	4	6.0
Dルーム	32	34	火傷、熱傷	6	1	1.3
廊下	72	58	切創	25	12	5.2
作業棟	109	60	誤嚥	11	12	2.3
支援室	18	31	薬	29	34	6.0
玄関	15	18	物損	60	35	12.6
他の施設内	34	13	異食	6	10	1.3
他の施設外	22	9	その他	45	23	9.4
GH、CH	7	10	不明			
その他	23	14				
不明	7	1				
通所	3	5				
合計	478	374				
				件数	前年度	割合(%)
			事故	404	302	84.5
			ヒヤリハット	74	72	15.5

### 1) 成果

- ・引き続き職員の事故・ヒヤリハットに対する意識の高さや気付きの向上が図られていることとは報告件数から如実にうかがい知ることができます。昨年導入した簡易報告もパート職員含め定着してきているところです。
- ・検証作業を月1回実施してきましたが、機会を限定せず、支援サービス会議等他の検討機会もフル活用することによりタイムリーな検証作業を行うことが適っています。
- ・年度当初、打撲事故が多く見られましたが、ミニ介護研修を数回行い、迅速にその対応に当たったことにより、結果、打撲事故の軽減に繋がりました。

### 2) 反省

- ・短期入所利用者が非常に多くなってきたことや当寮から他通所施設に通うようになった方も出てきたことにより、他事業所との連携・連絡不足による事故が散見されました。的確で迅速な情報共有を行っていく必要性が高まっています。
- ・他害の対応について、対象者の状況やそれを取り巻く環境等を把握した上でその対策に取り組んできましたが、掌握体制の強化及び医療面でのアプローチには限界があり、有効な

対応が図れているとは言い難い状況です。

- ・車イスを使用して間もない方の転倒件数が増えています。転倒する原因やその背景を把握した上で対象者へ注意喚起を促すと共にセンサー等の情報システムを含めた見守り体制の強化を図っているところです。

### (7) 苦情・相談受付

苦情受付総数 46件

[参考 H26年度 43件]

項目	件数	主な内容
支援内容	19	外出時薄着であった。悠生寮内は暖かいかもしれないが外は寒いので気候に合った服装をさせてほしい。
設備・環境	2	洗面所の手洗い石鹸が切れているので補充をしてほしい。
職員	3	送迎時、家に到着したが職員は車で待っているだけで玄関まで迎えに来てもらえなかった。
他利用者	18	昼食、トイレのため席を立て戻ったら既にトレイごと片付けられていた。
その他	4	通院先で靴がなくなってしまい帰るのに困ってしまった。

申出者	件数
入所利用者	21
GH入居者	2
通所利用者	1
入所家族	9
通所利用家族	5
SS利用者	1
SS利用家族	7
第三者委員（再掲）	72 (苦情：3件、要望・近況：69件)
他事業所	0
その他	0
合計	46

#### 1) 成果

- ・声なき利用者の苦情や不満に対する代弁を意識的に取り組んだ結果、自販機ジュースの定期購入、利用者向け遊具・玩具の設置や整備が進みました。
- ・第三者委員（家族、地域）による苦情聴き取りについて、本年度、毎月来所していただくことが適い、利用者にとっては外部の方に話す大変貴重な機会となりました。

#### 2) 反省

- ・自治会定例会における利用者からの聴き取りについては、意見を引き出すことが難しく、担当職員の創意工夫が更に必要です。テーマを絞って聴き取る等のアイデアが必要になっています。
- ・第三者委員による聴き取りについては、苦情、要望を伝える機会というより、近況報告的な場となっているため、聴き取り方法について打ち合わせが必要と感じています。
- ・頻繁に来寮面会されていく家族より支援不足を何回か指摘されました。都度、対策をとつ

ていますが、家族の満足を得られるような結果は得られていないため、体制も含め更なる改善案を提示していく必要があります。

(8) 身体拘束・抑制・虐待

具体的内容	性別	期間
<p>※身体拘束</p> <p>○拘束の必要な理由 脳出血による左片麻痺により立位保持困難。また、認知症様症状があり自ら歩こうとして転倒し受傷する危険性がある。</p> <p>○拘束の方法 車椅子乗車時の腰ベルト装着。</p> <p>○拘束の時間帯及び時間 職員が近くに付き添えない時間帯。1日数時間程度。</p> <p>○解除に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事・入浴・トイレなど職員が近くにいられる時間帯は拘束を解除。</li> <li>・日中、興味を持って取り組める活動を提供することで、穏やかな気持ちで過ごしていただき、ベルトを外して過ごせるよう支援している。</li> </ul>	女	H27年5月～

1) 成果

- ・身体拘束については1名の方が対象となっておりますが、毎月、拘束を解除するための具体的方法を身体的拘束等対策委員会で検討した結果、職員の見守り体制の強化や意識向上が進み、大幅に拘束時間を短くすることができています。
- ・第三者委員、家族会代表に参加いただき虐待防止委員会を開催することにより、外部の視線や視点が導入され、職員の虐待防止の意識向上に繋がるという効果と共に当寮における虐待防止の方向性や課題を共有することができました。
- ・虐待防止の内部研修で座学や演習を行うことにより、日頃の支援姿勢、支援技術、接遇態度を振り返り、更なる向上を目指す機会とすることができました。

2) 反省

- ・利用者の呼称については継続して注意していく必要があります、職員会議、研修会等において注意喚起を行いました。繰り返し、確認していく必要性を感じています。
- ・ネグレクトに近い支援状況等不適切な支援が認められました。逐次、検証作業を行い、改善策を打ち出すと共に厳重な注意喚起を呼びかけました。
- ・不適切な支援等を防止するため、互いに指摘しあえる関係性や職場風土を目指していますが、具体的な取り組みには着手できていません。



## 2. 施設運営の状況

(1) 施設入所支援 (定員 50 名 現員 50 名) H28.3.31 現在

年間利用実績 一日平均 48.8 人 利用率 97.6%

退所利用者 3 名 (逝去 3 名)

4 月 26 日 男性 (87 才) 老衰

8 月 5 日 女性 (58 才) 老衰

9 月 22 日 男性 (75 才) 多臓器不全

入所利用者 3 名

5 月 1 日 男性 (21 才) 在宅 SS 利用から移行

10 月 1 日 女性 (49 才) 神奈川 GH から移行 (支給 ; 岡谷市)

10 月 1 日 男性 (77 才) GH 悠楽から移行

(2) 生活介護 (定員 60 名)

年間利用実績 一日平均 60.8 人 利用率 101.3%

施設入所支援併用 50 名 22 歳から 84 歳

H28.3.31 現在

生活介護通い 23 名 20 歳から 84 歳

H28.3.31 現在

(3) 短期入所・タイムケア事業

養護学校生徒、あるいは他の通所事業所利用者等を中心に、休日や長期休みを中心としたリピート利用者の定着、各方面からの紹介により新規利用者数の増がみられています。利用者の年齢は 7 歳から 78 歳まで幅広く、サービス内容も入浴、身体介護、活動支援など支援サービス内容は多岐に及んでいます。発達障がいの方も増えて、それに伴った支援が求められています。長期間にわたり短期入所サービスを利用していた方が入所されたり、他事業所とシェアしたりすることで昨年度に比べ実数は減少しています。

・短期入所利用者 43 名 1,455 名 (26 年度 ; 2,256 名 開所日数 4 床×365 日=1,460 床)

・タイムケア 1152.0 時間 (26 年度 ; 1501.5 時間)

(原村・安曇野市・朝日村は日中一時支援あり)

1) 成果 圏域のニーズに対し、可能な限り受け入れを実施しています。利用時のケース記録、まとめの回覧、また、ケア会議等に出席することで情報を交換し、報告を回覧することで共有するよう努めています。

2) 反省 圏域にサービス事業所が少ないため、結果として特に短期入所については受け入れ過多になってしまっています。今後も利用希望が増加することが見込まれており、職員の勤務体制の見直しや人員の適切な配置などが課題です。特にマンツーマンの支援を必要としている方が利用される際は、勤務者増や勤務時間をずらす等のタイムリーな対応が求められます。

(4) 共同生活援助事業 グループホーム (定員 10 名 現員 9 名)

①「悠楽」は、開所から 12 年が経過しました。(賃貸:築 28 年 H 25 年 9 月賃貸契約を更新) 入居利用者 4 名 (男 1 名・女 3 名)、世話人 3 名の体制 (警備保障会社契約付)。

男性利用者 1 名は身体機能の衰えが顕著で転倒が頻繁に見られ始めたため、27 年 9 月 30 日に悠楽を退去し、はらむら悠生寮へ入所しました。その後入居希望がなく 1 名欠員の状況が続いています。

27年6月1日付で世話人1名を採用しました。

②「あかり」は、開所から5年が経過。

入居利用者5名（男3名・女2名）、世話人2名の体制（宿直付・スプリンクラー付）

③世話人、共同生活事業部職員による定例会を毎月開催

ホーム毎に、防災訓練（2回）、消防設備点検（2回）、設備等自主点検（毎月）を実施。

ホーム1【悠 楽】				
氏名	性別	年齢	区分	日中活動先等
I・K	男	78	2	悠生寮生活介護(月・火・木・金・土曜日)
H・S	女	64	3	地域活動支援センター(月・火・木・金曜日)・悠生寮生活介護(土曜日)
M・Y	女	39	3	Aコープ原村店(月・火・木・金曜日)・悠生寮生活介護(土曜日)
M・H	女	84	4	悠生寮生活介護(月・火・木・金・土曜日)

ホーム2【あかり】				
氏名	性別	年齢	区分	日中活動先等
A・T	男	50	3	悠生寮生活介護(日・月・金・土曜日)、老健さくらの(火・水・木曜日)
G・F	男	60	3	村地活センター(月・金曜日)、原村社協勤務(火・水・木曜日)
K・S	女	61	2	悠生寮生活介護(火・木・土・日曜日)、地活センター(月・水・金曜日)
O・M	女	62	3	悠生寮生活介護(月・水・金・土・日曜日)・地活センター(火・木曜日)
M・Y	男	24	1	グローブ(就労継続支援A型)・悠生寮日中一時(不定期)

#### (5) 防災関係

火災、震災発生時等の有事に備え、危機管理室を中心に消防計画に基づき、避難誘導訓練等を以下のとおり実施しました。

〈訓練等の状況〉

月日/回数	内容等	参加者	備考
5月13日	昼間・火災・避難誘導・通報 業者による防災機器説明	利用者50名・通所利用者11名 職員26名(内、日清2名)	
11月26日	総合防災訓練(地震) 職員への防災機器の説明(10名)	利用者50名・通所利用者12名 職員26名	署員1名、地元区長1名 実習生2名
2月24日	夜間(想定)・火災・避難誘導 通所部(けやき)避難訓練	利用者50名 職員3名 利用者8名 職員5名	
毎月	防災設備等自主点検		
年2回	スプリンクラー噴射口点検		
	消防設備点検(業者点検)		5月1日・11月11日
	地下タンク保守点検(業者点検)		4月8日
10月21日	地震擬似体験	利用者15名・職員8名	

#### 1) 成果

- ・防災機器が新しくなり職員への説明を年2回実施しました。内、一度は業者(新村産業)に依頼し実施しました。総合防災と夜間想定訓練では実際に防災係が機器を操作し訓練を実施しました。
- ・夜間想定訓練時、通所部(けやき)も同時進行して行いました。

- ・防災設備等自主点検は毎月滞りなく実施することができました。

## 2) 反省

- ・机上シミュレーション訓練を行う予定でしたが計画できず未実施となってしまいました。次年度に実施する予定です。
- ・非常食・飲料の管理、点検が滞ってしまい、来年度早急に実施する予定です。

(6) ボランティアの受入れ 受入れ実績 延べ 471 名 [参考 26 年度 380 名]

① 寮行事 延べ 39 名

② その他

土曜教室	延べ	346 名	個人 6 名	1 団体
同好会	延べ	31 名	生花同好会 3 名	紙芝居 3 名
日中活動	延べ	17 名	傾聴 2 名	
催し物	延べ	38 名	4 団体(踊り、演奏等)	
ひだまり喫茶	4 回『この指とまれの会』	25 名		

- 1) 成果
- ・りんどう祭などへの参加依頼に対し多くの団体の方からの協力を得ることができました。訪問関係では寮行事などに合わせて訪問していただいています。
  - ・土曜教室の参加人数が増えています。5 月より趣味班にボランティアの方が新たに 1 名加わったことや夫々の教室への参加人数が増えていることが要因としてあげられます。
  - ・催し物へ参加人数が増えてきたことについては、夫々の活動が定着し、団体との関係性も深まったことが要因としてあげられます。
- 2) 反省
- ・行事等への協力依頼については、前年度の来訪時を参考に、早めに訪問団体の方へ連絡を取ることと、行事担当者との綿密な打ち合わせを行うことが必要です。

## (7) 通所利用者支援（生活介護）

高齢で介護の必要な利用者が多い空間に、自閉症をはじめとする発達障がいの利用者が混在し、施設の手狭間やパーソナルスペースの確保など、課題を抱えながら共存していました。また、発達障がいに対する支援は専門性が不十分な状況が続きましたが、2 年前、特別支援学校で教鞭を執られていた方を雇用したことを契機に支援技術の向上が図られ、少しずつ結果が現れています。

通所施設稼働を目前に、H27 年 11 月から平日の受け入れを想定した勤務体制となり、徐々に支援体制・内容を確立していく状態となりました。毎日 10 名ほどの通所の生活介護利用がありますが、通所棟で過ごす利用者の割合としては、6~7 割といった状況です。

### 1) 成果

通所棟で過ごすようになったことで、入所本体の建物で見られていた課題行動が全くなくなった方、パーソナルスペースを確保できるようになったことで自立的な活動に取り組めるようになった方、環境の変化で大きく生活が変わった方もいました。一番の変化は、利用者を理解している専属の職員が支援に当たることで、安心して過ごせることができるようになり、自宅や他の事業所では見られない姿を見せてくれる利用者もいます。

### 2) 反省

職員配置に対し利用者の受入数は少なく、人件費比率、費用対効果や効率を求められれば改善すべき点はあります。一方で発達障がいのある方々への支援は、利用者の変化とい

う結果をもたらす成果として評価できる点でもあると思います。現在は専属職員で支援をしていますが、上記課題の克服のためにも利用者理解を深め適切で専門的な支援を行える複数人の職員を養成することが急務となっています。

### 3. 人材育成・職員研修

#### (1) 職場内研修の主な内容（実施回数 13 回）

「TA(Transaction Analysis 交流分析)について」「虐待防止研修復命」「虐待・権利擁護について」「介護技術研修」「K さん事例検討会」「感染症対策：吐しゃ物処理」「普通救急救命講習会」「安全運転講習・運転適性検査」「会計について」「日頃言いにくいことから職場の課題について考える」など

#### (2) 経常・専門研修及び資格取得の主な内容（派遣回数 36 回）

「法人新任職員研修：3名」「法人現任研修 KYT：2名」「法人現任研修 MM：1名」「法人現任研修介護：3名」

「知障協自閉症セミナー：2名×4回」「知障協精神科領域セミナー：1名×4回」「知障協新任職員研修：2名」「知障協ミドルマネージャー等中堅職員研修：1名」

「相談支援従事者初任者研修：2名」「相談支援従事者現任研修：1名」「サービス管理責任者研修：2名（介護・地域各1名）」「サービス管理責任者フォローアップ研修：1名」「サービス管理責任者スキルアップ研修：1名」

「苦情解決システム研修：1名」「福祉施設のためのリスクマネジメント研修：1名」「障がい者虐待防止・権利擁護研修：1名」「諏訪圏域新任職員研修：3名」「普通救急救命：17名」「非特定喀痰吸引研修：1名」「地域で暮らそうフォーラム：1名」など

内 容	回 数
PT によるリハビリ指導	9
ST による咀嚼・嚥下機能評価	1
職場内研修	13
悠生寮間交流研修	5
悠生寮外施設研修	1
その他研修	36
資格取得	社会福祉士：1 喀痰吸引第一・二号：1 サービス管理責任者(介護)：1 (地域)：1 相談支援専門員：2

#### 1) 成果

- ・社会福祉士：1名合格。 喀痰吸引等研修第一・二号研修：1名修了
- ・相談、サビ管等の研修は、職制に基づき資格要件を満たした職員を順次派遣することで、総合職、中堅職員が仕組みや考え方を理解できてきています。これにより、サービス等利用計画や個別支援計画の作成等、身近なところでのスーパーバイズができています。
- ・交流研修で学んだ他寮の日課や支援内容を参考に、現場での業務の見直しに取り組みました。
- ・内部研修にケース検討を取り入れました。担当職員だけではなく、多くの職員が課題及び支援の方向性を共有できました。圏域の他事業所職員の招聘により、はらむら悠生寮以外の支援機関で、どのような支援が行われているかの知識を得ることができました。

## 2) 反省

- ・研修派遣したものを現業に返していく点については、不十分な点があります。書面だけでなく口頭での復命の機会を確保すること、実践で成果を上げていくことについては、今後の課題であると感じています。
- ・外部研修の派遣については、職員によって参加回数にバラツキが見られました。

## 4. 地域支援・交流

### (1) 相談支援事業

指定特定相談支援事業所「障がい者支援施設はらむら悠生寮」として、入所利用者、グループホーム利用者、通所利用者（基本的には、はらむら悠生寮のみを利用している方が対象）の計画相談を行いました。

#### 1) 成果

- ・平成 25 年度から行ってきた業務経験の蓄積を基に、サービス等利用計画と個別支援計画の整合性や、役割の違いを考慮して作成できるようになりました。
- ・定期的にモニタリングを実施し、随時計画内容、支援内容の見直しを行いました。
- ・これまでサービス等利用計画が未作成だった、通所利用者 3 名の計画を新規に作成しました。これにより、現在のはらむら悠生寮を利用している方々は全員サービス等利用計画に基づいてサービス提供が行われるようになりました。
- ・グループホーム利用者、一部の通所利用者の計画相談を進める中で、介護保険サービスや、他圏域の支援機関との連携に関して経験を積むことができました。
- ・計画作成およびモニタリング件数

	入所	GH・通所	計
計画	23	18	41
モニタリング	50	26	76

#### 2) 反省

- ・6月にモニタリング時期や支給期間満了時期が重なったため、市町村への提出が遅れました。
- ・計画書の作成、訪問による聴き取り、関係機関との連絡等、本体業務と兼務する中で相談業務を行うことが非常に難しい状況でした。

### (2) 地域貢献活動等

地域貢献清掃活動として、冬期間を除いて月 1 回、利用者と職員が施設周辺の村内沿道などで、空き缶やゴミ、吸殻などを拾っています。地域の美化活動に貢献し、地域社会と直接触れ合う機会として継続して行っています。りんどう祭では村長が毎年来寮され、総合防災訓練では柏木区の区長が来寮されるなど、各種行事に地域の方が参加してくださり、地域との繋がりを保っています。

- 1) 成果 施設周辺の美化活動や行事を通して、地域との交流を継続して図ることができています。地域貢献活動は通所部と協力して行い、通所利用者の新たな活動の場ともなりました。
- 2) 反省 地域貢献活動は、利用者の高齢化や体力低下により参加できる方が限られてきています。継続して行っていけるよう通所部とも協力していく必要があります。

## 5. 施設整備

昨年度に予定していた第二作業棟の建設は、建設予定地が「前沢遺跡」に掛かり発掘調査が必要になったこと、さらに農業振興地帯で農振除外申請を要する、など難題が続き建設は 27 年度の事業になりました。また、開設 22 年目を迎え、建物及び設備等に主として経年劣化による不具合が生じ思いがけない出費がありました。

項目	金額	備考
火災通報装置	194,400	消防署からの逆信不能、バッテリー不良
掃除機 4 台	175,200	セイコーエプソン労組様から寄付
公用車(車椅子対応)購入	3,794,306	八十二オートリース契約 月額 67,600 円×60 ヶ月=4,056,000 円
事務室コピー機入替え	1,304,640	5 年リース (月額 22,400 円)
作業室エアコン設置工事	2,484,000	3 社による「郵送指名入札」を実施
電気設備工事	1,836,000	設置から 20 年経過し中部保安協会から改修案内&エアコン稼働時の安定的な電気設備環境を整備
居室 3 室の床張り替え工事	410,002	フローリング化⇒衛生面改善のため
ピンク電話設置	118,800	既存の電話機の故障 外部との通信の自由の保障
除雪機	750,000	2 台目の購入～安定的な除雪対応のため
管理棟廊下壁の修繕工事	780,000	経年劣化による亀裂等
トランシーバー 10 台	114,217	利用者支援に即時対応するため
プリンター 2 台	103,680	通所部&北支援員室
ノートパソコン 2 台	253,800	通所部用 5 年リース (月額 4,400 円)
第二作業棟建設工事	68,647,520	
通所棟駐車場整備費	6,054,480	舗装/区画線設置/車止め設置
消防用設備	162,420	自火報バッテリー交換/自火報発信機/ガス漏れ報知設備
原村所有里道払下げ	275,272	
屋根採光ガラス取り替え工事	1,334,264	熱割れによる亀裂 計 4 枚
時計塔の大時計取り替え工事	693,360	経年劣化による故障 500,000 ; 遺志金を充当
大型吸引器	189,000	セイコーエプソン労組様から寄付

### 1) 成果

- ・第二作業棟建設は 5 月 18 日に入札、6 月に入り工事着工。11 月 24 日完成し完了検査を受けました。本体施設が建築基準法に抵触していることが判明し、使えない状況が 1 か月半ほど続きましたが仮使用申請を行い認定され 1 月 15 日から使用ができています。
- ・中部保安協会から電気設備が更新時期を迎えているとの指摘がありキュービクル内の機器の入替え工事を行いました。大きな出費になりましたが安定的な電気環境にすることができました。長年の課題であった作業室へのエアコン設置が叶い夏場の熱中症対策には効果的な環境が整いました。

### 2) 反省

- ・経年劣化等を要因とした改修や取り替え工事が増え、点検、メンテナンス及び計画的な修繕等が必要と捉えています。
- ・通所棟建設は順調に進みましたが、雨水や下水を既存の処理施設に逃がすために、既存の土地と新規取得した土地の間にある里道を横切る形でパイプを埋設する計画でしたが、里道は原村所有の「法定外公共物」で構築物を設置することはできないと原村から指摘を受けました。原村との村有財産売買契約締結等の協議を経て、村に払い下げ申請をして買い

取りました。

- ・11月24日の県建築課の職員による完了検査で、本体と木工作业室及び本体と南棟東西に設置されている倉庫との位置関係は延焼線内にあり建築基準法に抵触するため、木工作业室の解体工事と延焼線内に掛かるサッシの取り替え工事(28年度工事;計3,000,000円弱)が必要になりました。
- ・本体施設周辺の施設整備は利便性ばかりを求めるのではなく慎重に進める必要があり教訓にしたいところです。

## 6. 利用者家族・家族会との連携

### 家族会実施事業

4月25日	総会	11名	
	職員懇親会(歓送迎会)	9名	職員11名
6月20日	家族会環境整備	12名	
	役員会	10名	職員7名
9月19日	役員会	10名	職員6名
10月4日	第22回りんどう祭(豚汁・屋台)	14名	
10月17日	視察研修	9名	職員5名
11月28日	環境整備・漬物会	16名	
2月26日	家族会三役員会	2名	職員5名
3月19日	手作りご馳走会	12名	
	役員会	8名	職員6名

#### 1) 成果

- ・できる限り多くのご家族に家族会行事に参加していただくため、案内状に家族会行事の様子が分かる写真を載せて参加を呼び掛けました。昨年よりも多くの参加とはいきませんでしたが、ご家族から行事や利用者の様子が分かって良いとの意見をいただきました。
- ・環境整備は例年4回の実施でしたが、実際の仕事量との兼ね合いやご家族の負担を考慮して軽減が必要との反省があげられたため、今年度は2回の実施に変更しました。その結果、昨年よりも若干名ではありますが、多くのご家族に参加していただきました。

#### 2) 反省

- ・行事案内の通知をする際、もっと利用者や行事の様子が分かる写真や紹介文を同封し、家族会行事への参加を呼び掛ける必要があるとの反省があがりました。
- ・新入所者のご家族には、家族会の会長や副会長から直接入会や活動参加への働き掛けが必要であるとの意見がありました。

## 7. 利用者の状況(施設入所)

年齢構成は最高齢者男性84歳 女性82歳。最低年齢男性22歳、女性22歳です。

(1)利用者年齢別一覧 男性25名 女性25名

(H28.3.31)

年齢階層	49以下	50～54	55～59	60～64	65～69	70以上	平均	
性別	男性	3	1	1	1	6	13	65.8
	女性	5	2	3	1	5	9	61.3
計	8	3	4	2	11	22	63.6	

## (2) 利用者障害支援区分

(H28.3.31)

年齢階層	1以下	2	3	4	5	6	平均	
性 別	男性	0	0	1	6	12	6	4.92
	女性	0	0	1	3	11	10	5.20
計	0	0	2	9	23	16	5.06	

## (3) 在寮期間

(H28.3.31)

区分	1年未満	1年～3年未満	3年以上～5年未満	5年以上～10年未満	10年以上
男性	2	1	1	1	20
女性	1	3	3	2	16
計	3	4	4	3	36

## (4) 介護等の状況

移動	実数	食事	実数	入浴	実数	着脱衣	実数
歩行補助具	5	一部介助	15	一部介助	16	一部介助	12
車椅子使用	10	全介助	4	全介助	17	全介助	10
移動不能	5	胃ろう	1	特浴	4		

全般的に介護度が高くなり、特に安全に配慮した見守りや支援が必要となっています。

## (5) 生活介護利用者の状況（通い）

(H28.3.31)

現在、契約いただいている方が23名です。

性別	年齢	利用開始	出身地	区分	性別	年齢	利用開始	出身地	区分
男性	78	H23.10.1	諏訪市	2	女性	84	H23.10.1	茅野市	4
男性	60	H23.10.1	原村	3	女性	59	H23.10.1	茅野市	3
男性	50	H23.10.1	富士見町	3	女性	39	H23.10.1	茅野市	3
男性	45	H23.10.1	原村	4	女性	62	H23.10.1	原村	2
男性	22	H24.4.1	岡谷市	4	女性	61	H23.10.1	原村	3
男性	24	H24.11.1	茅野市	3	女性	68	H23.10.1	原村	2
男性	49	H24.11.1	岡谷市	5	女性	22	H24.4.1	諏訪市	3
男性	42	H24.10.1	下諏訪町	4	女性	62	H24.5.1	茅野市	4
男性	32	H24.5.1	諏訪市	6	女性	22	H24.4.1	茅野市	6
男性	20	H26.4.1	茅野市	4	女性	40	H24.10.1	下諏訪町	3
男性	47	H26.4.1	茅野市	5	女性	62	H26.8.1	茅野市	3
男性	37	H27.1.21	下諏訪町	3					

## (6) 食事形態別分類

## 食事内容一覧表

(H28.3.31)

内 容		月 日	H27.4.1	H28.3.31	備 考
主食	一般食		43	44	
	軟食		5	4	
	流動食		1	1	



副食	一般食	32	31	
	一般食さざみ	12	14	
	軟菜	1	1	
	軟菜さざみ	2	1	
	とろみ・ミキサー・ゼリー食	2	2	
経管栄養食	1	1		
入院	0	0		
合計	50	50		

(7) 健康度別食事分類

内 容	月 日	H27.4.1	H28.3.31	備 考
健康管理 療法医師 の指示に よる	カロリー制限食	21	19	
	減塩食	8	9	
	補食	1	1	
	糖尿病食	5	6	
	高血圧食	0	0	
	腎心臓病食	2	2	
	透析食	0	0	
	肝臓病食	0	0	
	潰瘍食	0	0	
	イレウス食(腸閉塞)	0	0	
	貧血食	2	3	
	その他	1	1	
合 計		40	41	

(8) 受診状況

(H28.3.31)

	延人数	実人数	昨年度延人数	昨年度実人数
内科系	346	47	337	46
精神科系	39	18	30	16
外科系	76	15	79	22
耳鼻科系	2	1	3	2
婦人科系	11	10	11	9
皮膚科系	14	7	4	3
眼科系	39	6	31	7
歯科系	86	45	162	47
その他	29	6	27	8
合 計	642	155	684	160

## (9) 入院状況

(H28.3.31)

歳	性	病名	期間	日数	歳	性	病名	期間	日数
64	男	鼠径ヘルニア	4/14-4/17	4	65	女	胃ろうカテーテル交換	7/16-7/17	2
70	女	外傷性クモ膜下出血	5/7-5/12	6	61	女	虚血性腸炎	9/14-9/26	13
64	女	統合失調症	5/15-8/14	92	65	女	統合失調症	10/3-12/22	81
83	男	右大腿骨転子部骨折、肺炎	5/16-6/10	26	42	女	てんかん疑	12/3-12/7	5
66	男	誤嚥性肺炎	5/17-6/10	25	65	女	小脳出血	12/22-12/26	5
59	女	誤嚥性肺炎	5/20-6/3	15	65	女	統合失調症	12/26-2/20	57
69	男	細菌性肺炎	5/26-6/12	18	65	男	虫垂炎	1/4-1/7	4
61	女	てんかん	6/10-7/21	42	65	男	腸閉塞	1/7-1/28	22
64	男	鼠径ヘルニア(再手術)	7/15-7/18	4	65	男	鼻骨骨折	1/19-1/21	3

参考 26年度 17名(実人数 12名) 613日 / 27年度 18名(実人数 12名) 424日

## (10) 救急車要請

(H28.3.31)

歳	性	状態	日時	備考
42	女	意識喪失・嘔吐	12/3 12:06	その後、検査入院
65	女	入院中転倒、小脳出血	12/22	救急車にて転院

## (11) 疾病状況

(H28.3.31)

科	病名	人数	科	病名	人数
悪性腫瘍	胃がん術後	1	外科・ 整形外科・ 脳外科	手術を要した疾患	
	大腸癌術後	1		直腸脱	0
				鼠蹊ヘルニア	3
				痔・脱肛	6
精神科	てんかん	17		(その他の外科疾患)	
	てんかん性精神病	3		骨折(下記へ部位記入)	
	統合失調症	2		膝蓋骨骨折	0
	心因反応	7		脊髄圧迫骨折	1
	水中毒	0		大腿骨頸部骨折	1
	アルツハイマー型認知症	0		大腿骨転子部骨折	1
	その他の精神障害・疾患	2			
	脳性まひ	3		変形性の疾患(下記へ部位記入)	
	不眠症	2		変形性股関節症(術後)	1
内科・ 神経内科	慢性胃腸炎	2		リウマチ	0
	胃潰瘍・十二指腸潰瘍	2		骨粗鬆症	1
	逆流性食道炎	0		五十肩	0
	便秘症	21	その他の整形外科疾患		
	B型肝炎	0	四肢障害	1	
		腰椎狭窄症	0		

	C型肝炎	1		脳出血	2
	肝機能障害	13		脳梗塞	1
	肝硬変	0		(その他の脳外科疾患)	0
	胆石	0			
	(その他の消化器疾患)	3			
	腹水	0	眼科	白内障	10
	高尿酸血症・痛風	1		緑内障	4
	偽痛風	1		翼状片	0
	脂質代謝異常症	13		(その他の眼科疾患)	
	糖尿病(疑含む)	5		網膜変性症	1
	貧血	5		慢性結膜炎	1
	脳貧血	1		角膜潰瘍	1
	不整脈	1			
	高血圧症	10	耳鼻科	難聴	1
	低血圧症	0		副鼻腔炎	1
	心不全	2		中耳炎・外耳炎	0
	狭心症	0		アレルギー性疾患	4
	WPW症候群	1		(その他の耳鼻科疾患)	
	(その他の循環器疾患)			鼻腔内ポリープ	1
	心電図異常	0	皮膚科	白癬	23
	(その他の呼吸器疾患)			皮膚角化症(掻痒症含む)	3
	気管支炎	0		褥瘡	1
	肺炎	1		湿疹	1
	喘息	1		アレルギー性疾患	1
	肺結核	0		帯状疱疹	0
	胸部レントゲン異常	2		(その他の皮膚疾患)	
	胸膜炎	1			
	(その他の内科疾患)				
	多発性筋炎	1			
	甲状腺機能低下症	1	歯科	齲蝕	2
	前立腺肥大	4		歯肉炎・歯周炎	16
	慢性腎不全(透析含む)	0		義歯接触痛	0
	腎結石	1		(その他の歯科疾患)	0
泌尿器科・婦人科	水腎症	1	染色体異常	ダウン症	3
	その他の泌尿器科疾患	1		筋ジストロフィー	0
	血尿	0			
	更年期障害	1			
	子宮筋腫および術後	5			
	その他の婦人科疾患	1			

実人数 49名 延人数 209名 参考 26年度 49名 196名

## (12) リハビリ対象者と内容

(H28.3.31)

内 容	人数	内 容	人数
脊髄の可動域拡大	0	手指の機能強化	0
尖足予防	4	関節のストレッチ	5
上肢の筋力強化	1	腹筋の強化	2
下肢の筋力強化	10	肥満対策運動	5
上肢の可動域拡大	2	歩行練習	6
下肢の可動域拡大	0		

実人員 18名 (26年度20名) 長野県厚生連富士見高原病院より 年10回理学療法士訪問指導

## (13) 介護職員によるたんの吸引等の登録・実施状況

(H28.3.31)

年齢	性	病 名	ケア内容	状 況
62	女	たんの症候群・視力障害	口・鼻腔内吸引	症状出現時での吸引
49	女	たんの症候群	口・鼻腔内吸引	症状出現時での吸引
66	女	肢体不自由1級・ 糖尿病(インスリン注射)	胃ろう 口・鼻腔内吸引	常時経管栄養、嚥下練習、 症状出現時での吸引
70	男	脳出血後遺症(片麻痺)	口・鼻腔内吸引	症状出現時での吸引
82	男	肢体不自由1級	口・鼻腔内吸引	症状出現時での吸引

登録職員 H28.3.31 現在 第2号研修2名 第3号研修16名

## 8. 職員の状況

## (1) 本体

## 〈異 動〉

正規男性 平成27年 4月 1日付 異動(転入) 施設長

正規男性 平成27年 4月 1日付 異動(転入) 副主任支援員

## 〈新規採用〉

正規男性 平成27年 4月 1日付 新規採用 支援員

正規男性 平成27年 4月 1日付 新規採用 支援員

正規女性 平成27年 4月 1日付 新規採用 支援員

## 〈退 職〉

なし

(H28.4.1現在)

	正職員	準職員	雇員	再雇用	短時間	合計
男	13				4	17
女	16	2	1	1	5+(共5)	25+(共5)

## (2) 共同生活事業

女性(短労) 平成27年 6月 1日付 採用

# 平成27年度 須坂悠生寮事業報告書

## 概要

- (1) 開設以来18年が経過しました。利用者の最高齢は91.9歳、最小齢は36.2歳、平均年齢は男性68.62歳、女性66.78歳となっています。利用者の動向は、4名の方が退所され、その後の入所は男女各2名の方を迎えています。
- (2) 北信圏域、須高地域周辺での利用ニーズは伺いながらも、地域で暮らす方の新規の利用に直接つながらないことがありました。その後8月に新規の生活介護利用者を地域から迎えて、ショートステイご利用の方も市内から迎えることができました。日中の入浴及び活動や余暇的な時間の過ごし方を希望される方が複数の事業所を組み合わせる中で当事業所をご利用いただいています。
- (3) 身体機能低下傾向の方が増え、肺炎（誤嚥性含め）、イレウス等で入院を繰り返していく経過でこれまでの暮らしが出来なくなる姿を目のあたりにしてきました。感染症については昨年度の反省から活かせる対応策に努めてきました。罹患者がなく過ごせましたが、冬場の外出を控えたことで利用者の精神面含めての支援については課題を残しました。
- (4) グループホームについては、目の手術をされた利用者の暮らしを考え、建物1階の部屋の修繕を行い、2階から1階に移って頂きました。高齢化を考えると残りの方たちの2階での暮らしに課題が残りますが、安全に暮らせる環境づくりへの一歩となりました。グループホームは定員に対して1名の不足があり、年度中にも数回の見学希望の方を迎えてきましたが充足できていません。
- (5) 寮内の修繕箇所の補修、地下タンクの配管の腐食に伴う工事費等の支出がありました。経費削減として照明設備の交換修理等から室内の照明にLEDを部分的に導入しました。省力化効果はまだ限定的ですが、効果的な配備を計画して省力化に繋げていきたい。

## 1. 支援サービス

### (1) 日中活動

平成27年度は、個別ニーズに対応でき得る活動内容を模索することを目標に掲げ取り組んできました。しかし個別ニーズの活動は担当職員が中心となってしまい、日中活動として活動内容を広げることができませんでした。昨年度より「アルミ缶のリサイクル」を始めていますが、洗う場所の確保等課題もあります。収益の還元は、毎月参加状況により10円～900円が個人に支払われました。

利用者さんにとってやりがいとなる仕事になっていますので、課題を一つ一つ解決し、皆さんがやってみたいと思えるような活動へと繋げていきたいと思えます。

<主たる販売先>

店舗名、イベント名等	販売品	備考
まゆぐら	積み木、花布巾、アクリルモップ	観光施設
須坂人形博物館	積み木、花布巾、アクリルモップ	観光施設
ふれあい広場	積み木、花布巾、アクリルモップ	イベント

活動種別	内容・行程等	実施状況	人員	備考・収入等
積み木作り	サンドペーパー磨き	通年実施 終日活動	13	収入 9,600円
花布巾	下絵・刺繍・アイロン等	通年実施 終日活動	2	収入 21,000円
アクリルモップ	アクリル毛糸	通年実施 終日活動	1	収入 3,400円
ノバキャップ	ノバキャップの箱詰め	通年実施 終日活動	5	収入 85,824円
農園芸	野菜作付け・収穫・除草	4-2月	6	76,369円
空き缶リサイクル	アルミ缶の選別と洗浄	4-12月	1	3,888円
音楽療法	合唱、合奏を行う	月2回	30	
ハーモニカ演奏	ボランティアに演奏依頼	2か月に1度	20	
紙芝居	ボランティアに依頼	月1回	15	

## (2) 余暇活動

### ① ボランティアによる活動 (月1回)

毎回20名以上の利用者が、楽しみに参加されました。

紙芝居だけでなく、ハーモニカやギターなど、ボランティアの方々と一緒に歌ったり遊んだりして、楽しい一時を過ごされています。

### ② 音楽療法 (月2回)

活動内容は、講師と担当職員が相談しながら実施しました。

ほとんどの利用者が参加し、当日の勤務職員も数名一緒に参加しています。

特に太鼓を使用した曲は、皆さん全身で楽しまれていました。中には職員のリードに合わせて指揮棒を振る方もいます。認知症の方々も時々歌を口ずさんだり楽器の音に反応を示されたりと、効果が出ているように思われます。

### ③ 余暇の日 (月1回)

月に一回職員が余暇活動の模索提供の機会として順番に実施しました。焼き芋や流しそうめんといった季節の催事、職員によるコンサートやホットケーキ作り、綿あめなど様々な企画の中で利用者職員共々楽しむことができます。

### ④ 障害者スポーツ大会への参加

一部の利用者ではあるが地域の中でスポーツに取り組む機会をつくることができました。

### ⑤ 県知的障がい福祉協会 (県知障協) 北信支部レクリエーション大会への参加

他事業所が企画したイベントに参加することをおして地域におけるふれあいの場となりました。(主な参加としてはバーベキュー・温泉など)。

### ⑥ 地区の文化祭への作品出展

一部の利用者の作品ではあるが地域の文化祭に絵などの作品の展示を行なっています。

## (3) 自治会

平成27年度の自治会では「自治会を利用者の声を聴く場として有効活用する」「利用者主体の自治会開催を目指す」という二つの柱を中心に取り組んできました。利用者の声を聴き取る場としては、有効活用することができました。また、苦情や要望に対しては解決窓口を明確にして解決に向けた取り組みができる体制が整ってきたように感じます。利用者主体の自治会開

催については係内で様々な案が出ましたが、具体的な取り組みには至ることができませんでした。当寮に合った利用者主体の自治会とはどんな形態なのか研究を深めることができなかったことを反省しています。

#### (4) 健康管理

- ・ 嘱託医と連携（月1回の内科健診など）を図り、早期発見に努めましたが、高齢化に伴い、通院・緊急入院が多く入院期間も長期化しています。また、入退院を繰り返す利用者も増加傾向です。更に、医療行為が必要な利用者も増加傾向です。退院後の受け入れ態勢が困難で転院を選択せざるを得ない状況が増えてきています。
  - ・ 感染症対策については、日々の消毒や冬期間の換気、利用者と職員の検温、職員の通勤着と仕事着の区別の徹底、みのどうの家の活用などを行い、今年度は蔓延することなく経過しました。
  - ・ リハビリ指導については、長野県立総合リハビリテーションセンターの理学療法士に依頼し、3回継続的に実施しました。約10名の利用者がリハビリ指導・評価を受けています。
  - ・ お看取りは2名ありました。1名はインフルエンザによる肺炎で、最期は入院先の病院で迎えました。もう1名は、ALS（筋萎縮性側索硬化症）により徐々に全身の機能低下が見られ、最終的に呼吸不全で入院先の病院で最期を迎えました。
- 今後は高齢化に伴い、より緊急入院や、ターミナルケアが多くなっていくと思われます。利用者の異変に迅速に対応できるようにしていくことが重要であると思ひます。

#### (5) 食生活

調理委託業者と共に、試行錯誤を繰り返しながら美味しい給食の提供をめざし食事提供を実施しました。

- 1) 提供する栄養目標をエネルギー1,800kcal/日、たんぱく質50～60g、脂質40g以上50g未満と計画をし、栄養量や食事形態について個々に合わせた食事提供を実施し、健康維持につながるよう取り組んで参りました。
- 2) 療養食対応等は委託業者へ情報提供をし、施設側栄養士も現場で形態を確認しながら対応してきました。主治医の食事箋に基づく提供と個々の摂食・嚥下機能に合わせた食事の提供をおこないました。
- 3) 衛生管理については細心の注意を払い実施してきました。食材や厨房の衛生面については、業者独自のマニュアルを元に衛生管理、食中毒防止等に努めました。
- 4) 食生活委員会を月1回開催し、利用者の声や職員の意見、委託業者側からの意見を出し合いより良い食事の提供に努めました。季節に合わせた行事食や業者側の提案による珍しい献立等を取り入れ、楽しめる食事を提供できるよう調整してきました。

#### (6) 事故・ヒヤリハット

発生場所	件数	前年度比	分類	件数	前年度比	割合
食堂	18	-16	暴力	7	+2	5.6%
居室	17	-7	転倒	34	+9	28.8%
浴室	5	+3	転落	7	-8	5.8%
脱衣場	0	0	ずり落ち	0	0	0%
トイレ	1	-9	打撲	2	+3	1.7%
Dルーム	13	+7	火傷、熱傷	3	+3	2.5%
廊下	20	+13	切創	10	+8	8.5%
作業棟	9	-1	誤嚥	3	+1	2.5%

支援室	4	+3
玄関	5	+2
他の施設内	9	+9
他の施設外	7	+3
GH	0	0
医務室	5	+3
その他		
不明		
敷地外	5	-2
合計	118	+3

薬	19	-2	16.1%
物損	7	+3	5.9%
異食	1	-7	0.8%
その他	25	0	21.1%
不明			
	件数	前年度比	割合
事故	89	-8	75%
ヒヤリハット	29	+11	25%

## 2) 分析・考察

- ・転倒の事故報告が多く骨折、切創等の大きな事故へつながったケースも生じてしまった。発生現場は廊下、デイルームが全体の3割を超えている現状となりました。
- ・デイルームで過ごす利用者数が多く、過密な状況で見守りが不十分な点も転倒、転落につながってしまった。デイルーム前の廊下で座る、横になる等の利用者についてのヒヤリ報告（簡易版含む）が続いた点は、見たらすぐにデイルーム内に移動か廊下から起きてもらう対応に繋がり事故を未然に防ぐ一定の成果はあったと思われます。転倒34件（内ヒヤリが9件）。
- ・薬については昨年度とほぼ同数。落薬が多く飲み込み終了まで確認が徹底できない報告が続いてしまう。職員が薬を提供する際の基本行動を再確認して、途中で目を離すことのないよう対応の統一を図っているが、年間平均して起きてしまう現状があります。
- ・転倒に関連することとして玄関周辺、敷地内外への徘徊等の報告件数も微増加傾向。安全対策でセンサーを導入したことで離れた場所からの感知ですぐに対応でき今後も継続したい。
- ・寮から少し離れた場所へ散歩に出る利用者の様子や、行動についてパート職員含む全体へ協力を求めたことでヒヤリ簡易版の報告件数が昨年より多くなってきています。
- ・車イスからの転落が続いた事例について事故対策会議を実施しました。デイルーム周辺でのリスクアセスメントの機会もとりました。対策を集中的に行えることや危険への気づきについて有効であるため今後も機会をとらえて実行していきます。

## (7) 苦情解決

### 1) 苦情・相談受付 総数 76件

項目	件数	主な内容
支援の内容	12件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バザーを開いてほしい。バザー用品を集めてもらい安く買いたい</li> <li>・会社の給料の額を聞きたい。</li> <li>・余暇活動でスポーツをしたい。サンアップルいいね</li> <li>・寮の中を楽しく。朝レコードをかけて音楽を聴かせてほしい。</li> </ul>
職員への苦情	16件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(同室の) 相手の顔が見える。仕切りカーテンを用意してくれると職員が言ったが待てない。</li> <li>・(生活介護ご家族より) 頓服を要求したがもらえなかった。なぜ出してくれなかったかと電話で苦情受ける。</li> <li>・(生活介護) 本日の入浴中に大きい風呂でめまいがした。機械浴での対応にしてほしいと帰宅後に電話での苦情を受ける。</li> <li>・洗濯物がもどってこなくて困る</li> <li>・目薬を就床時につけてくれなかった</li> </ul>
他利用者との関係	42件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廊下でTさんに顔を叩かれてしまった</li> <li>・北棟の洗面所の水を出しっ放しになっているのでやめてほしい</li> <li>・(同室者) が部屋を散らかす、床に物を投げる。</li> <li>・夕食前にYさんから嫌なことを言われる。体を押されて嫌だ</li> </ul>
設備・環境	2件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部屋のコンセントが離れていて危ないから直して欲しい</li> <li>・(GH) 排水溝(生活排水)の臭いが気になる。改善して欲しい。</li> </ul>
その他	4件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結婚をしたい</li> <li>・カメラが欲しい。ANさんに会いたい</li> </ul>



## 2) 受付対象

入所利用者：61件 GH利用者：5件 SS・通所利用者：10件

## 3) 苦情受付方法

電話 5件 連絡帳 2件 職員代理受付 11件 職員受付 54件 第三者委員 4件

## 4) 分析・考察

- ・休みの日や日中の活動時間帯に楽しむ機会が前より減ってつまらないという苦情・要望が寄せられたため、利用者の楽しみの企画について再考しました。北信地域施設利用者の方との複数回の交流企画への参加提案と実施に結びつきました。
- ・通所利用者、ショートステイ利用者本人とご家族よりの問い合わせ及び苦情を受けました。対応については入所利用者と本人との生活習慣の違いもあり、苦情・要望にそのまま副えないこともありました。本人・ご家族と窓口職員との関係づくりに努めてから徐々に理解を頂けているところです。
- ・入所ご家族の家庭通信やショートステイ利用時の連絡帳に、身の回りの片付けや保清面での不十分な点のご指摘を受けました。ご自身のリズムへの配慮をしたが仕上げの確認を確実に行えていなかったところがあった。その後の受け入れ時の対応方法の再確認につながった。
- ・自治会での聴き取りでの苦情の多くに言葉の暴力や強い態度の利用者への苦情がくり返される現状です。相談支援専門員との関わりで、日中の他事業所利用も開始して別の空間で過ごすことで気分転換の時間もでき始めている状況で今後も見守っていきたいと思います。

## (8) 身体拘束

具体的内容	性別	期間
ベッド柵 4点使用(転落防止のため、一方を壁面に一方に柵を設置。ベッド上で過ごす時間に限り使用。)	女性 57歳	H27. 11. 4～継続中
ベッド柵 4点使用(不用意な行動に対して転落防止にベッド柵を設置。車椅子移乗で解除の時間を持つ。)	女性 66歳	H23. 4. ～継続中
認知症用オムツカバー利用(弄便による不衛生な状況回避にご自身での脱着が困難なオムツカバーを装着。)	男性 77歳	H26. 4. 11～継続中

平成 28 年 4 月 1 日現在、3 名の身体拘束があります。2 名はベッド柵を利用中で、身体状況あるいは不用意な行動に対して転落の危険性があると判断し対応を継続しています。車椅子への移乗など解除できる時間帯を多く持つこと、ベッド柵を用いることで新たな危険性が生じないかなど様子観察を行うと共に解除に向け誠意検討を重ねています。1 名は認知症用オムツカバーを利用することで、弄便を防止し衛生管理による健康状態の保持を目的としています。排泄時の不快感と行為との関連性を考えて排泄時の保清に努めると共に、職員間で情報交換に努めオムツカバーを外せる時間が少しでも増えるよう試行を重ねているところです。

## 2. 施設運営の状況

(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

### (1) 施設入所支援事業 (定員 50 名 現員 50 名)

(年間平均)利用者/日 47.8 名 利用率 95.6%

#### 入退所者

入所者 平成 27 年 06 月 24 日 K. H さん(男性)46 歳 松本市(西駒郷)  
平成 27 年 10 月 01 日 H. A さん(女性)61 歳 須坂市(在宅)  
平成 27 年 11 月 05 日 S. H さん(女性)57 歳 高山村(在宅)  
平成 27 年 12 月 02 日 M. K さん(男性)45 歳 長野市(在宅)

退所者 平成 27 年 06 月 05 日 J. O さん(男性)74 歳 須坂市 入院亡(呼吸不全)  
 平成 27 年 06 月 05 日 T. F さん(男性)72 歳 須坂市 入院亡(呼吸不全)  
 平成 27 年 09 月 11 日 Y. K さん(女性)84 歳 須坂市 医療施設  
 平成 28 年 01 月 31 日 O. I さん(男性)60 歳 長野市 医療施設

(2) 生活介護事業 (定員 55 名 利用実績者数 57 名)

(年間平均)利用者/日 49.1 名 利用率 89.3%

施設入所支援者 50 名 (内、日中他事業所へも週 1~4 日程度の利用 4 名)

通所者 6~7 名 (内ロング SS. 2 名、GH. 2 名)・・・利用実績 0~5 日/週

① 新利用者

平成 27 年 08 月 18 日 K. S さん(女性)51 歳 須坂市(在宅)

② 利用終了者

平成 27 年 08 月 18 日 Y. I さん(男性)54 歳 長野市(他事業所へ)

平成 27 年 11 月 13 日 H. M さん(女性)68 歳 長野市(介護保険事業所へ)

(3) 共同生活事業 (定員 7 名 現員 6 名)

グループホームも開所から 10 年以上が経過。入居利用者 (定員 : 7 名 現員 : 6 名)

- ・ 月に 1 回のスタッフ会議と年に数回の利用者個々の支援会議を市町村・関係機関と実施しました。
- ・ 年 4 回の防災訓練を実施しました。
- ・ 白内障手術をした利用者さんの階段の昇り降りに危険があり、二階から一階の居室へ移ってもらいました。
- ・ 高齢化に伴って医療機関との連携は欠かせない状況です。また夜間体制のない現状に不安の声が出てきています。
- ・ 月 1 回悠生寮の看護師が訪問に行って健康状態を確認しています。
- ・ 年 1 回の支援会議を行っています。(外部の相談支援専門員が 2 名の方参加)
- ・ 欠員状態の 1 名については、見学・体験利用希望がありますが、確定までには時間がまだ必要です。
- ・ 南原の家の 1 階の部屋のリフォームを実施しています。

【グループホーム利用者の状況】

氏名	性別	区分	日中の活動先
I・K	男	2	週 4 日マツヤの仕事 宅幼老所 : 週 5 日 (11:30~13:00) 月 1 日 須坂悠生寮 (生活介護)
M・K	男	3	週 5 日 (平日) 就労継続 B わらしべ 宅幼老所 : 1 日 (土)
T・H	女	2	週 5 日 (平日) 就労継続 B ひだまり 宅幼老所 : 1 日 (土)
U・H	女	4	週 5 日 (平日) 就労継続 B ひだまり 宅幼老所 : 1 日 (土)
M・H	女	1	(月・火) デイサービス (ぬくもり) (水・木) 宅幼老所 (赤とんぼ) (金・土) 宅幼老所 (わくさん宅)
S・H	女	2	週 4 日 須坂悠生寮 (生活介護) 宅幼老所 : 2 日 (金・土)

#### (4) 短期入所・タイムケア事業

短期入所は、継続・定期的なケースが4件。新規のケースが1件、入所前の体験として2件の利用がありました。本体の利用者さんの介護度が高くなり短期利用の方を受け入れる際には勤務体制を調整することも都度必要になります。

介護度が高くなり自宅で介助することが困難になり短期利用を希望するケースが多くなっています(家族の負担軽減目的での利用)。タイムケアの利用は、児童の受け入れが1件あり。長期休みの強い希望があり受け入れを実施しています。

短期利用：18名 910日  
タイムケア：1名 24時間

#### (5) 相談支援事業

入所利用者50名に対して須坂の受け持ちが44名、外部の事業所が6名となっています。  
入所利用者：44名 地域32名 (児童6名・成人28名)

入所利用者のモニタリングの実施。他事業所を利用している方は、半年に1回モニタリングを実施、(その他は1年に1回のモニタリング。)地域は、3か月に1回のモニタリングと必要に応じた計画の見直し、面談を実施してきました。

今年度は、児童の計画相談の申請が増えました。その分成人の新規の相談はなくなりました。福祉事業所、行政、医療、就労、養護学校、支援学校、保育園などの専門機関及び関係機関と連携し、利用者、ご家族の思いや願いに沿えるように支援しています。電話相談、支援会議、面談、事業所やご家への訪問、日常の支援などを実施してきました。

#### (6) 防災関係

平成27年度は、下記の通りの防災訓練を計画、実施しました。

- 1) 通報訓練：4月6日 13:30～ 須坂消防署に通報し逆信の受信  
職員9名(うち通報訓練4名) ほかに 管理業者による防災機器取扱い講習・火災対応マニュアルの確認・危険物現地確認(職員のみ)
- 2) 昼間防災訓練：6月22日 10:30～ 消火訓練・避難誘導訓練・非常通報装置の作動確認 防災機器の保守管理業者の立ち合い
- 3) 合同防災訓練：10月31日 9:00～ 震災訓練・消火訓練・避難訓練(二次避難まで)・通報訓練・寮内見学  
米子第10分団・地区役員・近隣の方・消防署員
- 4) 夜間避難訓練：3月実施予定であったが5月を目途に実施予定。

本年度の総合防災訓練は、消防署員立ち会いのもと米子地区の方たちとの合同防災訓練となり、地区の方と協同して避難誘導訓練、水消火器を使用しての消火訓練を行なうことができました。今年度新たな取り組みとして、訓練終了後に地域の参加者(区民・消防団・消防署員)に寮内の見学の時間を設け危険物施設の現地確認・説明を行いました。

地域の方より、外から見ていただけでは分からない内側の構造や設備の情報を得ることができ有事の際に活かすことができるといった意見を聞くことができました。

#### (7) ボランティアの受け入れ

紙芝居やハーモニカ演奏のボランティアに来ていただくなど、年間延べ62名の方々が来寮して下さいました。不定期ではありますが、ギターボランティアの方が来寮され演奏をして

いただいています。

前年は2ヶ月に1回の実施であったが27年度は毎月ハーモニカ演奏に来ていただいています。毎回4名程の方が来寮され、利用者の皆さんがご存じの童謡や歌謡曲などを演奏していただいています。利用者からのリクエストも取り入れていただきながら楽しみの機会となっています。

【27年度受け入れ状況】

実施日	ボランティア	人数	実施日	ボランティア	人数
4月17日	ギター	1名	8月20日	ハーモニカ	4名
4月28日	ハーモニカ	5名	8月22日	紙芝居	2名
5月15日	ギター	1名	9月29日	ハーモニカ	4名
5月30日	紙芝居	2名	10月24日	ハーモニカ・紙芝居	6名
6月17日	ハーモニカ	6名	11月27日	ハーモニカ	4名
6月27日	紙芝居	2名	12月15日	ハーモニカ	3名
6月1日	ギター	1名	1月29日	ハーモニカ	4名
7月25日	紙芝居	2名	2月19日	ハーモニカ	5名
7月28日	ハーモニカ	5名	3月24日	ハーモニカ	4名
8月3日	ギター	1名			

### 3. 施設整備

	実施月	品目	金額	備考
修繕	6月	給湯ボイラー修理	130,572	事前調査調整(31,320)+ギアポンプ交換(99,252)(原因究明前の修繕)
	7月	灯油地下タンク配管敷設替え工事	904,111	ボイラー灯油への水の混入原因調査から腐食した配管の交換まで
	7月	灯油地下タンク内清掃	473,040	清掃作業(429,840)+予備タンク設置(43,200)
	8月	給湯ボイラー修理	278,791	オイルタンク清掃後の修繕
	9月	GH1・2階トイレ修理	413,532	両トイレの便器交換と床張替
	11月	水漏れ修理	109,836	厨房・浴室・洗面所修繕(98,928)+事前緊急修理(10,908)
	2月	GH南原の居室改修	460,836	1階壁改修・2階クロス張替え2室
	3月	GH2棟の自動火災報知機連動改修	275,508	2棟の連動した自動火災報知機増設
器具・備品	7月	厨房食器消毒保管庫	448,200	入替え(経年劣化と保管量増対応)
	9月	厨房業務用冷蔵庫	248,000	新旧入替え(経年劣化冷蔵不良)
	1月	事務コピー機入れ替え	837,000	レンタル契約満了による新規5年リース契約(14,800/月)
	3月	食堂ダイニングテーブル	87,480	食事介助用

経年劣化による設備機器の修理がメインとなりました。

### 4. 人材育成・職員研修

県知障協が発刊する『障がいのある方の虐待防止ガイドブック』や法人のサービスマニュアル等を用い、読みあわせ、チェックリストの実施に年間を通じて取り組み、権利擁護について啓発を行いました。派遣研修後の伝達研修を位置づけることで、研修に臨む姿勢の向上や伝達する側、参加する側それぞれの力が伸ばせるよう取り組みに工夫を持ちました。

## (1) 職場内研修の主な内容

- ・防災機器の取扱いについて(4月)
- ・排泄・介護技術研修 (5月)
- ・リスクマネジメント研修 (9月)
- ・PTリハビリ指導(3回); 県リハPT
- ・伝達研修(3回)
- ・虐待防止研修(随時)

## (2) 外部・県等主催研修(専門研修及び資格取得含) 主な内容

- ・県知障協 新任職員研修(1名)
- ・( // ) 苦情対応システム研修(1名)
- ・( // ) 信州高山塾(県知障協)(1名)
- ・( // ) リスクマネジメントセミナー(1名)
- ・県障害者相談支援従事者研修(現任1名)
- ・サービス管理責任者現任研修(2名)
- ・危険物乙4取得(1名)

## (3) 法人研修

- ・新採用職員事前・集合研修 (2名)
- ・現任研修(1) 危険予知訓練 (3名)
- ・現任研修(4) 主任・副主任研修 (2名)
- ・現任研修(2) 介護技術研修 (2名)

## 5. 地域支援・交流

### (1) 地域支援

- 1) 障害者支援施設として、在宅障がい者への相談支援事業・短期入所事業・生活介護事業を通して障がい者本人及び介護者の生活を支援してきました。  
より多くの方に活用していただけるよう取り組み姿勢を持ってきましたが、設備や職員配置の状況から対応しきれないケースがいくつかありました。
- 2) 地域団体への協力として、須坂市社会福祉協議会・須高地域総合支援センター・須高地域の関係事業者他、地元米子自治会・学校関係との協力関係をつくりました。
- 3) 施設設備の地域への解放として、グラウンドを地元ソフトチームへ解放したり入浴設備を重身の方に介護支援事業者の介護支援付きを前提として貸出をしてきました。その他テント・テーブル・椅子・プロジェクター等、物品の貸出も実施しました。

### (2) 地域交流

- 1) 地域行事・寮行事等を通して交流を図ってきました。地域行事は、米子不動尊縁日・米子神社祭礼(獅子舞)・米子区文化祭等に関わりました。招待及び協力事業として、りんどう祭・区との合同防災訓練を継続しました。また、ふれあい広場、須坂荘(老人ホーム)祭・須坂病院祭・まゆぐら等で市民交流を図っています。
- 2) ご近所との交流は、日常生活の中での交流が年々減少傾向にあります。利用者の高齢化や心身の機能低下、介護支援量の増大が原因としてあげられます。
- 3) 年度当初より地域貢献について模索していますが実行に至っていません。今後の検討の中では、自然災害等への対応として福祉避難所としての備えと機能をつけていく必要があります。

## 6. 利用者家族・家族会との連携

- 1) 家族交流期間に帰省できる方は、ごく少数の方となりました。日帰りの外出を通じて交流の機会としていただいています。
- 2) 行事の際の活動支援では、ご家族が集まる総会などの合間を利用しフリーマーケットを寮内で行い、売上げは行事の予算にあてられるよう配慮していただいている。
- 3) 家族会会員の退会・入会が繰り返されるなかで、家族会を担ってくださる後継者がなかなか増えていかない現実があります。

### 1、身元引受人の状況

	父母	兄弟姉妹	義兄弟姉妹	甥姪	夫	その他	市町村長	計
人数	3	29	8	4	1	4	1	50

### 2、平成 27 年度家族会活動

平成 27 年 4 月 25 日(木)	家族会総会 12 名出席、委任状 28 名 (みのどうの家にて)
6 月 06 日(土)	家族会環境整備 17 名 家族会役員会
8 月 01 日(土)	第 18 回りんどう祭&「夏企画」15 名
9 月 26 日(土)	家族会環境整備 17 名
11 月 28 日(土)	家族会漬け物づくり 20 名 昼食…交流お楽しみ会(寿司バイキング)
12 月 26 日(土)	須坂悠生寮 家族会正副会長会
平成 28 年 2 月 08 日(日)	須坂悠生寮 家族会正副会長会
3 月 05 日(土)	役員会・職員との懇談会 (須坂悠生寮みのどうの家) 12 名

※法人理事会・評議員会、家族会連合会、法人後援会(会長・副会長出席)

## 7. 利用者の状況

### (1) 利用者の動向

#### 1) 年齢の状況

※ 最高年齢者： 男性 91.8 歳 女性 78.4 歳

最低年齢者： 男性 36.0 歳 女性 51.8 歳

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

年齢	20～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60～ 69 歳	70～ 79 歳	80～ 89 歳	90～ 95 歳	計	平均年齢
男性	1 人	2 人	2 人	10 人	6 人	5 人	1 人	27 人	68.62 歳
女性	0 人	0 人	5 人	10 人	8 人	0 人	0 人	23 人	66.78 歳
計	1 人	2 人	7 人	20 人	14 人	5 人	1 人	50 人	67.70 歳

#### 2) 利用者住居年数

区分	1 年未満	1 年以上 3 年未満	3 年以上 5 年未満	5 年以上 10 年未満	10 年以上 15 年未満	15 年以上	平均住居年数
男性	2 人	2 人	4 人	6 人	0 人	13 人	10 年 8 ヶ月
女性	2 人	5 人	1 人	1 人	4 人	10 人	10 年 7 ヶ月
計	4 人	7 人	5 人	7 人	4 人	23 人	10 年 7.5 ヶ月

3) 障害支援区分

区分	2	3	4	5	6	計	平均区分
男性	0人	1人	4人	16人	6人	27人	5.0
女性	0人	1人	6人	9人	7人	23人	4.96
計	0人	2人	10人	25人	13人	50人	4.98

4) 介護等の状況

	移動	食事	入浴	着脱衣	排泄	リハビリ	洗濯
男性	12	12	22	14	16	6	21
女性	8	8	11	11	9	6	11
計(人数)	20	20	33	25	25	12	32

5) グループホームの状況

①年齢

年齢	60~64	65~69	70~75	計	平均年齢
男性	1	1	0	2	65.67
女性	1	1	2	4	70.42
計(人数)	2	2	2	6	68.05

②在籍期間

年数	6年	10年	計
男性		2	2
女性	1	3	4
計(人数)	1	5	6

③障害支援区分

支援区分	2	3	4	計	平均区分
男性	1	1		2	2.5
女性	2		2	4	3.0
計(人数)	3	1	2	6	2.75

(2) 利用者の健康管理と保健衛生

1) 受診状況

診療科目	延人数	実人数	昨年度延人数	昨年度実人数
内科・小児科系	265	43	337	45
精神・神経科系	498	44	498	40
外科・整形外科系	34	21	64	18
耳鼻咽喉科系	2	1	6	2
婦人科系	1	1	12	9
皮膚科系	55	10	70	16
眼科系	11	4	8	4
歯科系	73	18	35	13
その他	102	29	65	12
合計	1041	171	1095	159

2) 定期健康診査

項 目	頻 度	項 目	頻 度
血液・尿検査	年1回	乳がん・子宮頸がん	年1回※1
心電図	年1回	前立腺がん	年1回※1
胸部レントゲン	年1回	血圧・体重測定	年12回
嘱託医による内科健診	年11回	身長・腹囲測定	年1回
歯科検診	年2回		

※1 希望した利用者に行っています。

### 3) 入院状況

性別	年齢	病 名	期 間	日 数	備 考
男性	59歳	イレウス	平成27年4月4日～4月16日	13日間	
男性	71歳	インフルエンザ 肺炎	平成27年5月21日～6月5日	16日間	死亡退院
男性	74歳	肺炎	平成27年5月26日～6月5日	11日間	死亡退院
男性	59歳	麻痺性イレウス	平成27年6月9日～6月17日	9日間	
女性	83歳	誤嚥性肺炎	平成27年6月11日～8月19日	70日間	転院
男性	77歳	左大腿骨頸部骨折	平成27年6月17日～7月8日	22日間	手術
女性	65歳	尿路感染症	平成27年8月13日～8月26日	14日間	
男性	72歳	麻痺性イレウス	平成27年8月15日～8月26日	12日間	
女性	83歳	誤嚥性肺炎	平成27年8月19日～9月11日	24日間	退所
男性	59歳	麻痺性イレウス	平成27年8月21日～9月7日	18日間	
女性	65歳	尿路感染症	平成27年9月20日～10月6日	17日間	
男性	59歳	細菌性肺炎	平成27年9月24日～10月1日	8日間	
女性	65歳	右肺炎・ 尿路感染症	平成27年10月20日～11月20日	32日間	
男性	59歳	イレウス	平成27年10月26日～12月24日	60日間	転院
女性	68歳	イレウス疑い	平成27年11月8日～11月11日	4日間	
男性	59歳	イレウス後	平成27年12月24日～平成28年1月31日	39日間	退所
男性	66歳	脳出血（右被殻）	平成28年1月7日～2月17日	42日間	転院
女性	58歳	精神発達遅滞	平成28年2月1日～		入院中
男性	66歳	脳出血後	平成28年2月17日～3月22日	35日間	
男性	65歳	尿路感染症疑い	平成28年3月10日～3月22日	13日間	

### 4) 救急車要請

性別	年齢	病 名	月 日	予 後
男性	83歳	一過性意識消失	平成27年6月20日	須坂病院 帰寮
男性	66歳	脳出血（右被殻）	平成28年1月7日	長野市民病院 入院
男性	72歳	一過性意識消失・ 頭部外傷	平成28年1月19日	須坂病院 帰寮

### 5) 疾病状況



科	病名	人数	科	病名	人数	
内科系	脳梗塞（後遺症含む）	4	精神科系	精神発達遅滞	33	
	脳出血（後遺症含む）	2		統合失調症	13	
	ラクナ脳梗塞	2		てんかん	10	
	脳脊髄膜炎	6		てんかん性精神病	2	
	睡眠時無呼吸症候群	1		脳性小児麻痺	6	
	甲状腺機能低下症	1		ダウン症候群	1	
	高血圧症	7		非定型精神病	2	
	低血圧症	1		心因性精神障害	2	
	ファロー四徴症術後	1		心因反応	2	
	狭心症・心不全	1		アルツハイマー型認知症	3	
	大動脈弁狭窄症	2		認知症（疑い含む）	6	
	WPW 症候群	1		パーキンソン病	2	
	喘息	3		ギランバレー症候群	1	
	逆流性食道炎	6		クモ膜嚢胞	1	
	慢性胃炎	1		痙性対麻痺	1	
	胃・十二指腸潰瘍	5		脊髄小脳変性症	1	
	肝機能障害（薬剤性含む）	2		整形外科系	乳癌術後	1
	慢性肝炎	2			大腸癌術後	1
	B型肝炎	2			S状結腸癌	1
	C型肝炎	1			ソケイヘルニア	4
	脂質異常症	7			脱肛・痔核	5
	脂肪肝	2			腰椎圧迫骨折	3
	胆石・総胆管結石	4			右肩関節脱臼	1
糖尿病	6	左肩関節脱臼骨折	1			
水腎症	2	右前腕切断後	1			
高尿酸血症・痛風	4	右大腿骨頸部骨折後	4			
腸閉塞	3	左大腿骨頸部骨折後	4			
貧血	9	右大腿骨転子部骨折術後	1			
皮膚科系	白癬・爪白癬	8	骨盤骨折		1	
	脂漏性湿疹	1	左下肢膝関節上切断後		1	
	蜂窩織炎	3	骨粗鬆症		2	
			変形性股関節症		1	
耳鼻咽喉科系	アレルギー性鼻炎	3	変形性膝関節症		3	
	感音系難聴	1	変形性腰椎症		2	
	慢性中耳炎	1	婦人科系		萎縮性膣炎	2
	副鼻腔炎	3			子宮筋腫	1
	メニエール病	1			卵巣腫瘍術後	1
慢性蓄膿症	1					
眼科系	白内障	3	その他	前立腺肥大	6	
	緑内障	1		腎結石（疑い含む）	2	
	アレルギー性結膜炎	1		前立腺癌（疑い含む）	4	
	視神経萎縮	1		尿閉	3	

	スティーブンソン症候群	1	尿路感染症	4
			慢性膀胱炎	1

6) リハビリ対象者と内容

内容	人数	内容	人数
上肢の筋力強化	6	手指の機能強化	3
下肢の筋力強化	9	関節のストレッチ	9
上肢の可動域拡大	6	尖足予防	2
下肢の可動域拡大	9	歩行練習	3

上表 実人数 10名 長野県立総合リハビリテーションセンターより年3回理学療法士訪問指導

7) 介護職員による痰の吸引等の登録・実施状況

性別	年齢	病名	ケア内容	状況
男性	75歳	A L S (筋萎縮性側索硬化症)	口腔・鼻腔内吸引	平成27年6月死亡
女性	83歳	脳梗塞	胃ろう 口腔・鼻腔内吸引	平成27年9月退所

(3) 利用者の食生活健康管理

内容		月日	H27. 3. 31	H28. 3. 31	備 考
主食形態	一般食		31	28	
	軟食		17	17	
	流動食		1	5	
副食形態	一般食		26	26	
	刻み		13	13	
	一口大刻み		2	0	
	ムース食		2	3	
	きざみとろみ食		4	2	
	ペースト食		2	6	
その他	経管栄養		2	1	
	入院中		0	1	
療養食関係	糖尿病食		2	2	
	心臓病食(減塩食)		0	2	
	脂質異常食		1	0	
	減たんぱく減塩食		1	0	

8. 職員の状況 (平成27年4月1日~平成28年4月1日)

(1) 退職・新任職員

退職： 栄養士 (女性) 平成28年1月31日付(退職)  
生活支援員(女性) 平成28年3月31日付(退職)  
施設長 (男性) 平成28年3月31日付(定年退職)

採用：生活支援員(男性) 平成27年4月1日付  
 生活支援員(男性) 平成27年10月1日付  
 看護師(女性) 平成27年7月1日付  
 栄養士(女性) 平成28年2月1日付

(2) 在籍職員状況 (平成28年4月1日現在)

	正職員	準職員	雇員	臨時	本体短時間	GH短時間	計
男	10	-	2	-	-	1	13
女	12	1	-	-	8	5	26
計	22	1	2	-	8	6	39